

# **CLUSTERPRO<sup>®</sup> X SingleServerSafe 3.0** **for Linux**

## 操作ガイド

2010.10.1  
第1版

**CLUSTERPRO**

---

改版履歴

版数	改版日付	内 容
1	2010/10/1	新規作成

## 免責事項

本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任をおいせん。

また、お客様が期待される効果を得るために、本書に従った導入、使用および使用効果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。

本書に記載されている内容の著作権は、日本電気株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を日本電気株式会社の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは禁止されています。

## 商標情報

CLUSTERPRO<sup>®</sup> X は日本電気株式会社の登録商標です。

FastSync<sup>™</sup>は日本電気株式会社の商標です。

Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における、登録商標または商標です。

RPMの名称は、Red Hat, Inc.の商標です。

Intel、Pentium、Xeonは、Intel Corporationの登録商標または商標です。

Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Turbolinuxおよびターボリナックスは、ターボリナックス株式会社の登録商標です。

VERITAS、VERITAS ロゴ、およびその他のすべてのVERITAS 製品名およびスローガンは、VERITAS Software Corporation の商標または登録商標です。

Javaは、Sun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。

Novellは米国および日本におけるNovell, Inc.の登録商標です。

SUSEは米国Novellの傘下であるSUSE LINUX AGの登録商標です。

Citrix、Citrix XenServerおよびCitrix Essentialsは、Citrix Systems, Inc.の米国あるいはその他の国における登録商標または商標です。

本書に記載されたその他の製品名および標語は、各社の商標または登録商標です。



# 目次

はじめに .....	ix
対象読者と目的 .....	ix
本書の構成 .....	ix
本書で記述される用語 .....	x
CLUSTERPRO X SingleServerSafe マニュアル体系 .....	xi
本書の表記規則 .....	xii
最新情報の入手先 .....	xiii
<b>セクション I            マネージャ操作リファレンス .....</b>	<b>15</b>
<b>第 1 章        WebManager の機能 .....</b>	<b>17</b>
WebManager を起動する .....	18
WebManager とは .....	18
WebManager を起動するには .....	19
WebManager の画面 .....	20
WebManager のメイン画面 .....	20
WebManager の動作モードを切り替えるには .....	21
WebManager でアラートの検索を行うには .....	22
WebManager を使用してログを収集するには .....	23
WebManager の情報を最新に更新するには .....	26
WebManager の画面レイアウトを変更するには .....	26
WebManager からクラスタサービスの操作を行うには .....	27
WebManager のツリービューで各オブジェクトの状態を確認するには .....	28
WebManager から実行できる操作 .....	28
WebManager のリストビューで状態を確認する .....	34
WebManager のリストビューでサーバ全体の詳細情報をリスト表示するには .....	34
WebManager のリストビューでサーバ状態の概要を確認するには .....	34
WebManager のリストビューでサーバ状態の詳細を確認するには .....	34
WebManager のリストビューでモニタ全体の状態を確認するには .....	35
WebManager でアラートを確認する .....	36
アラートビューの各フィールドについて .....	36
アラートビューの操作 .....	37
WebManager を手動で停止/開始する .....	38
WebManager を利用したくない場合 .....	39
WebManager の接続制限、操作制限を設定する .....	39
使用制限の種類 .....	39
WebManager の権限切替え .....	43
<b>セクション II           コマンドリファレンス .....</b>	<b>45</b>
<b>第 2 章        CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス .....</b>	<b>47</b>
コマンドラインから操作する .....	48
コマンド一覧 .....	48
状態を表示する (clpstat コマンド) .....	50
CLUSTERPRO デーモンを操作する (clpcl コマンド) .....	52
サーバをシャットダウンする (clpstdn コマンド) .....	54
グループを操作する (clpgrp コマンド) .....	55
ログを収集する (clplogcc コマンド) .....	57
タイプを指定したログの収集 (-t オプション) .....	60

syslogの世代 (-r オプション).....	63
ログファイルの出力先 (-o オプション).....	63
異常発生時の情報採取.....	64
緊急OSシャットダウン時の情報採取.....	65
構成情報の反映、バックアップを実行する (clpcfctrl コマンド).....	66
構成情報を反映する(clpcfctrl --push).....	66
構成情報をバックアップする (clpcfctrl --pull).....	73
タイムアウトを一時調整する(clptoratio コマンド).....	77
ログレベル/サイズを変更する(clplogcf コマンド).....	79
ライセンスを管理する(clplcncs コマンド).....	86
メッセージを出力する (clplogcmd コマンド).....	90
監視リソースを制御する (clpmonctrl コマンド).....	93
グループリソースを制御する (clprscコマンド).....	98
ネットワーク警告灯を消灯する (clplamp コマンド).....	100
CPUクロックを制御する (clpcpufreq コマンド).....	101
クラスタ間連携を行う (clptrnreq コマンド).....	102
クラスタサーバに処理を要求する(clprexec コマンド).....	104
BMC情報を変更する(clpbmccnf コマンド).....	107
再起動回数を制御する(clpregctrl コマンド).....	109
<b>セクション III            リリースノート.....</b>	<b>111</b>
<b>第 3 章      注意制限事項.....</b>	<b>113</b>
システム運用後.....	114
ドライバロード時のメッセージについて.....	114
ipmiのメッセージについて.....	114
回復動作中の操作制限.....	114
コマンドリファレンスに記載されていない実行形式ファイルやスクリプトファイルについて.....	114
ログ収集時のメッセージ.....	114
サービス起動／停止用スクリプトについて.....	115
EXECリソースで使用するスクリプトファイルについて.....	116
活性時監視設定のモニタリソースについて.....	116
WebManagerについて.....	116
Builder について.....	117
<b>第 4 章      エラーメッセージ一覧.....</b>	<b>119</b>
syslog、アラート、メール通報メッセージ.....	120
ドライバのsyslogメッセージ.....	155
カーネルモードLANハートビートドライバ.....	155
キーブアライブドライバ.....	158
グループリソース活性/非活性時の詳細情報.....	159
EXECリソース.....	159
仮想マシンリソース.....	160
モニタリソース異常時の詳細情報.....	161
ソフトRAIDモニタリソース.....	161
IPモニタリソース.....	161
ディスクモニタリソース.....	162
PIDモニタリソース.....	165
ユーザ空間モニタリソース.....	165
カスタムモニタリソース.....	166
マルチターゲットモニタリソース.....	166
NIC Link Up/Downモニタリソース.....	167
仮想マシンモニタリソース.....	167
監視オプションモニタリソース.....	168
<b>付録.....</b>	<b>171</b>

---

付録 A	索引.....	173
------	---------	-----





# はじめに

## 対象読者と目的

『CLUSTERPRO<sup>®</sup> X SingleServerSafe 操作ガイド』は、システム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の操作方法について説明します。構成は、セクション I からセクション III までの3部に分かれています。

## 本書の構成

### セクション I マネージャ操作リファレンス

第 1 章 「WebManager の機能」 : CLUSTERPRO X SingleServerSafe の使用方法および関連情報について説明します。

### セクション II コマンドリファレンス

第 2 章 「CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス」 : 導入前に確認が必要な最新情報について説明します。

### セクション III リリースノート

第 3 章 「注意制限事項」 : 既知の問題と制限事項について説明します。

第 4 章 「エラーメッセージ一覧」 : CLUSTERPRO X SingleServerSafe 運用中に表示されるエラーメッセージの一覧について説明します。

### 付録

付録 A 「索引」

---

## 本書で記述される用語

本書で説明する CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、クラスタリングソフトウェアである CLUSTERPRO X との操作性などにおける親和性を高めるために、共通の画面・コマンドを使用しています。そのため、一部、クラスタとしての用語が使用されています。以下のように用語の意味を解釈して本書を読み進めてください。

用語	説明
クラスタ、クラスタシステム	CLUSTERPRO X SingleServerSafe を導入した単サーバのシステム
クラスタシャットダウン/リブート	CLUSTERPRO X SingleServerSafe を導入したシステムのシャットダウン、リブート
クラスタリソース	CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用されるリソース
クラスタオブジェクト	CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用される各種リソースのオブジェクト
フェイルオーバーグループ	CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用されるグループリソース(アプリケーション、サービスなど)をまとめたグループ

---

## CLUSTERPRO X SingleServerSafe マニュアル体系

CLUSTERPRO X SingleServerSafe のマニュアルは、以下の 3 つに分類されます。各ガイドのタイトルと役割を以下に示します。

### 『CLUSTERPRO X SingleServerSafe インストールガイド』(Install Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステムの導入を行うシステムエンジニアを対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe のインストール作業の手順について説明します。

### 『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 設定ガイド』(Configuration Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステムの導入を行うシステムエンジニアと、システム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の構築作業の手順について説明します。

### 『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 操作 ガイド』(Operation Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の操作方法について説明します。

### 『CLUSTERPRO X 統合WebManager 管理者ガイド』(Integrated WebManager Administrator's Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムを CLUSTERPRO 統合WebManager で管理するシステム管理者、および統合WebManager の導入を行うシステム エンジニアを対象読者とし、統合WebManager を使用したクラスタ システム導入時に必須の事項について、実際の手順に則して詳細を説明します。

## 本書の表記規則

本書では、注意すべき事項、重要な事項および関連情報を以下のように表記します。

**注：** は、重要ではあるがデータ損失やシステムおよび機器の損傷には関連しない情報を表します。

**重要：** は、データ損失やシステムおよび機器の損傷を回避するために必要な情報を表します。

**関連情報：** は、参照先の情報の場所を表します。

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[ ] 角かっこ	コマンド名の前後 画面に表示される語 (ダイアログボックス、メニューなど) の前後	[スタート] をクリックします。 [プロパティ] ダイアログ ボックス
コマンドライン中の [ ] 角かっこ	かっこ内の値の指定が省略可能であることを示します。	clpstat -s[-h host_name]
#	Linux ユーザが、root でログインしていることを示すプロンプト	# clpcl -s -a
モノスペースフォント (courier)	パス名、コマンド ライン、システムからの出力 (メッセージ、プロンプトなど)、ディレクトリ、ファイル名、関数、パラメータ	/Linux/3.0/jpn/server/
モノスペースフォント太字 (courier)	ユーザが実際にコマンドラインから入力する値を示します。	以下を入力します。 # clpcl -s -a
モノスペースフォント (courier) 斜体	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目	rpm -i clusterprobuilder-<バージョン番号>-<リリース番号>.i686.rpm

-

---

## 最新情報の入手先

最新の製品情報については、以下のWebサイトを参照してください。

<http://www.nec.co.jp/clusterpro/>



# セクション I マネージャ操作リファレンス

このセクションでは、CLUSTERPRO X WebManagerの機能の詳細について説明します。CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、クラスタリングソフトウェアである CLUSTERPRO X との操作性などにおける親和性を高めるために、共通の画面を使用しています。

- 第 1 章 WebManager の機能





# 第 1 章                      WebManager の機能

本章では、WebManager の機能について説明します。

本章で説明する項目は以下のとおりです。

•		
•	WebManager を起動する .....	18
•	WebManagerの画面 .....	20
•	WebManager のツリービューで各オブジェクトの状態を確認するには .....	28
•	WebManager のリストビューで状態を確認する .....	34
•	WebManager でアラートを確認する .....	36
•	WebManager を手動で停止/開始する .....	38
•	WebManager を利用したくない場合 .....	39
•	WebManager の接続制限、操作制限を設定する .....	39

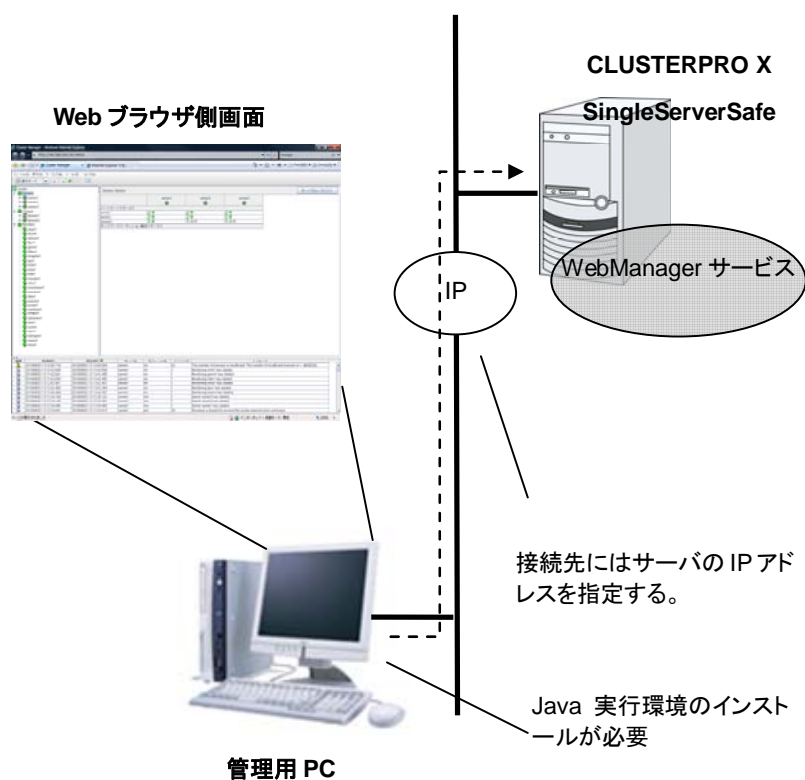
## WebManager を起動する

本章で説明する WebManager は、CLUSTERPRO X の WebManager と共通の画面・用語を使用している部分があります。そのため、一部クラスタとしての用語が使用されています。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe は1ノードのクラスタであると解釈して本書を読み進めてください。

### WebManager とは

WebManager とは、Web ブラウザ経由で CLUSTERPRO の設定と状態監視、サーバ/グループの起動/停止及び、動作ログの収集などを行うための機能です。以下の図に WebManager の概要を示します。



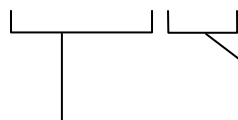
CLUSTERPRO X SingleServerSafe のサーバ上の WebManager サービスは OS の起動と同時に起動するようになっています。

## WebManager を起動するには

WebManager を起動する手順を示します。

1. Web ブラウザを起動します。  
ブラウザのアドレス バーに、CLUSTERPRO X SingleServerSafe をインストールしたサーバの IP アドレスとポート番号を入力します。

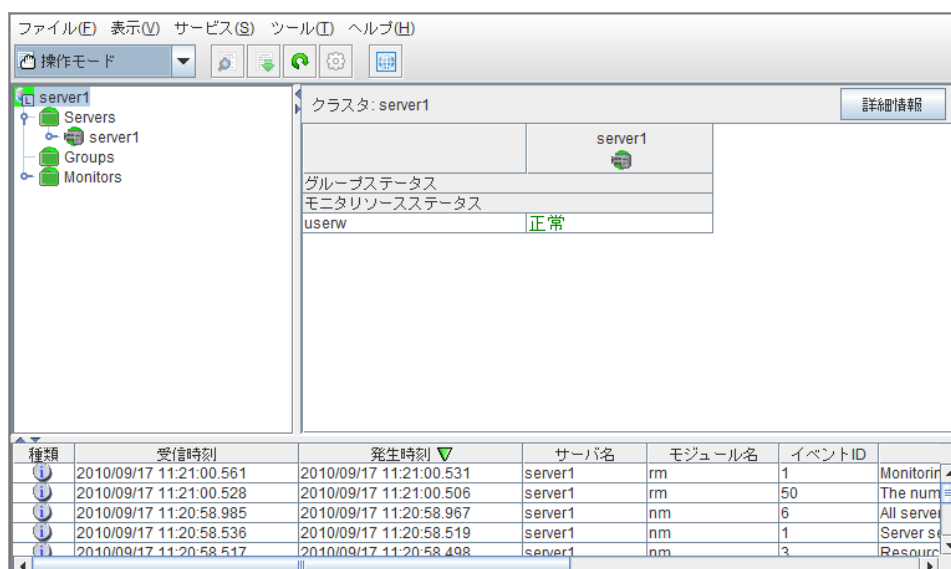
http://192.168.0.3:29003/



インストール時に指定したWebManager のポート番号を指定します(既定値29003)。

CLUSTERPRO X SingleServerSafeをインストールしたサーバのIPアドレスを指定します。  
自サーバの場合は、localhostでも問題ありません。

2. WebManager が起動します。



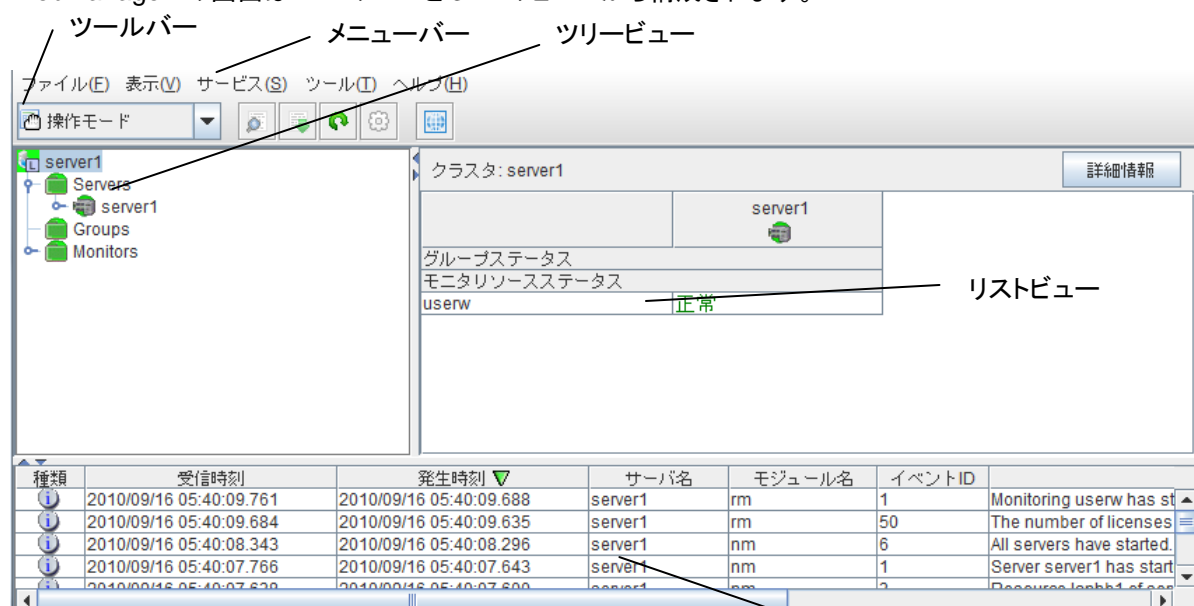
## WebManager の画面

WebManager の画面について説明します。

注: この章では、日本語環境での表示をもとに説明します。表示される言語は、管理端末の OS のロケールに依存します。

### WebManager のメイン画面

WebManager の画面は 2 つのバーと 3 つのビューから構成されます。



#### メニューバー

以下の 5 つのメニューがあり、各メニューの内容は設定モードと操作・参照モードで異なります。操作・参照モードのメニュー内の各項目については本章で後述します。設定モードのメニューについては次章を参照ください。

- ◆ ファイル メニュー
- ◆ 表示 メニュー
- ◆ サービス メニュー
- ◆ ツール メニュー
- ◆ ヘルプ メニュー

#### ツールバー

ツールバーにある 7 つのアイコンをクリックすると、メニューバーの一部の項目と同じ操作を行うことができます。

アイコン	機能	参照先
	Webmanagerを操作モードに切り替えます。[表示] メニューの [操作モード] を選択するのと同じです。	「 WebManager の動作モードを

		切り替えるには」 (21ページ)
	WebManagerを設定モード(オンライン版Builder)に切り替えます。[表示] メニューの [設定モード] を選択するのと同じです。	「 WebManager の動作モードを切り替えるには」 (21ページ)
	Webmanagerを参照モードへ切り替えます。[表示] メニューの [参照モード] を選択するのと同じです。	「 WebManager の動作モードを切り替えるには」 (21ページ)
	アラート検索を実行します。[ツール] メニューの [アラート検索] を選択するのと同じです。	「 WebManager でアラートの検索を行うには」 (22ページ)
	ログを採取します。[ツール] メニューの [ログ採取] を選択するのと同じです。	「 WebManager を使用してログを収集するには」 (23ページ)
	リロードを実行します。[ツール] メニューの [リロード] を選択するのと同じです。	「 WebManager の情報を最新に更新するには」 (26ページ)
	オプションを表示します。[ツール] メニューの [オプション] を選択するのと同じです。	「 WebManager の画面レイアウトを変更するには」 (26ページ)

### ツリービュー

サーバ、グループリソースなどの状態が確認できます。詳しくは 28 ページの「WebManager のツリービューで各オブジェクトの状態を確認するには」を参照してください。

### リストビュー




上段には、ツリー ビューで選択したサーバなどの情報が表示されます。下段には、サーバ、各グループリソースや各モニタリソースの起動・停止状況とコメントが一覧表示されます。また、右上の [詳細情報] ボタンを選択すると、さらに詳しい情報がダイアログで表示されます。詳しくは 34 ページの「WebManager のリストビューで状態を確認する」を参照してください。

### アラートビュー

CLUSTERPRO X SingleServerSafeの動作状況がメッセージとして表示されます。詳しくは 36 ページの、「WebManager でアラートを確認する」を参照してください。

## WebManager の動作モードを切り替えるには


WebManager には以下の 3 つの動作モードがあります。

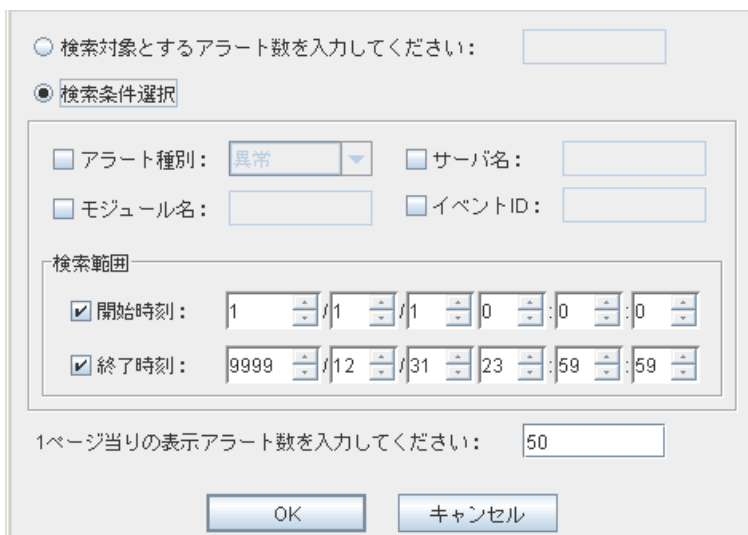
- ◆ 操作モード  
サーバの状態参照と操作の両方が可能なモードです。  
[表示] メニューの [操作モード] を選択するか、ツールバーの操作モードアイコン()をクリックすると操作モードに切り替わります。ただし、WebManager起動時に参照モード専用のパスワードでログインした場合や、操作制限するように登録されたクライアントからWebManagerに接続した場合には、操作モードに切り替えることはできません。
- ◆ 参照モード  
サーバの状態参照のみ可能で操作ができないモードです。  
[表示] メニューの [参照モード] を選択するか、ツールバーの操作モードアイコン()をクリックすると参照モードに切り替わります。
- ◆ 設定モード  
サーバの構築・設定変更が可能なモードです。設定モードのWebManagerをオンライン版 Builder と呼びます。設定モードの動作については『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 設定ガイド』を参照ください。  
[表示] メニューの [設定モード] を選択するか、ツールバーの操作モードアイコン()をクリックすると設定モードに切り替わります。ただし、操作制限するように登録されたクライアントからWebManagerに接続した場合には、設定モードに切り替えることはできません。

## WebManager でアラートの検索を行うには

WebManager を使用して、アラートの検索を行うことができます。特定のタイプのアラートのみを参照したい場合などに便利です。

注：アラートログに関しては、36 ページの「WebManager でアラートを確認する」も合わせて参照してください。

アラート検索を行うには、[ツール] メニューの [アラート検索]、またはツールバーのアラート検索アイコン()をクリックします。アラートログの検索条件を設定する画面が表示されます。



○ 検索対象とするアラート数を入力してください:

● 検索条件選択

☐ アラート種別: 異常 ☐ サーバ名:

☐ モジュール名:  ☐ イベントID:

検索範囲

☒ 開始時刻:  /  /  :  :  :

☒ 終了時刻:  /  /  :  :  :

1ページ当りの表示アラート数を入力してください:

OK キャンセル

指定した数の過去何件分のアラートのみを検索対象としたい場合:

1. [検索対象とするアラート数を入力してください] を選択します。


2. 検索したいアラートの数を入力し、[OK] をクリックすると、指定した数の過去のアラートが表示されます。

注：入力可能なアラート件数の最大値は Builder の [クラスタのプロパティ] - [アラートログ] - [保存最大アラートレコード数] で設定できます。

#### 検索条件を指定して検索したい場合：

1. [検索条件選択] を選択します。
2. 各フィールドに検索条件を設定して、検索を実行します。
  - [アラート種別] で、表示したいアラートの種別を選択します。
  - [モジュール名] で、アラートを表示したいモジュールのタイプを入力します。  
[サーバ名] で、アラートを表示したいサーバを入力します。
  - [イベント ID] に表示したいイベント ID を入力します。  
イベントIDについては「第 4 章 エラーメッセージ一覧」を参照してください。
  - イベントの発生時刻で検索条件を絞りこみたい場合は、[開始時刻] と [終了時刻] に値を入力します。
3. ページ当りに表示する検索結果のアラート数を [1 ページ当りの表示アラート数を入力してください] で指定して、[OK] をクリックします。検索結果が発生時刻を基準にして、降順で表示されます。
4. 検索結果が複数ページに表示されている場合は、[前ページ]、[次ページ]、[ジャンプ] ボタンをクリックして移動します。

## WebManager を使用してログを収集するには

[ツール] メニューの [ログ収集]、またはツールバーのログ収集アイコン()をクリックすると、[ログ収集] ダイアログ ボックスが表示されます。

クラスタログを収集するサーバとパターンを選択してください：

<input checked="" type="checkbox"/>	サーバ名	パターン
<input checked="" type="checkbox"/>	server1	パターン1 ▼

OK    キャンセル    情報    デフォルト

#### チェックボックス

ログを収集するサーバを選択します。ログを収集するサーバのチェックボックスをオンにします。

#### パターン

収集する情報を選択します。各パターンと採取内容については、「CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス」の「ログを収集する (clplogcc コマンド)」を参照してください。

### **[OK] ボタン**

ログ収集が開始され [ログ収集進捗] ダイアログ ボックスが表示されます。

### **[キャンセル] ボタン**

このダイアログを閉じます。

### **[情報] ボタン**

各パターンの情報が表示されます。

### **[デフォルト] ボタン**

サーバ選択とパターン選択を既定値に戻します。



[ログ収集進捗] ダイアログ ボックス

サーバ名	接続IPアドレス	ステータス	進捗状況	結果
server1	127.0.0.1	圧縮中	<div><div></div></div> 6%	正常

更新

中止

閉じる

[更新] ボタン

[ログ収集進捗] ダイアログ ボックスを、最新の状態に更新します。

[中止] ボタン

ログ収集を中止します。

[閉じる] ボタン

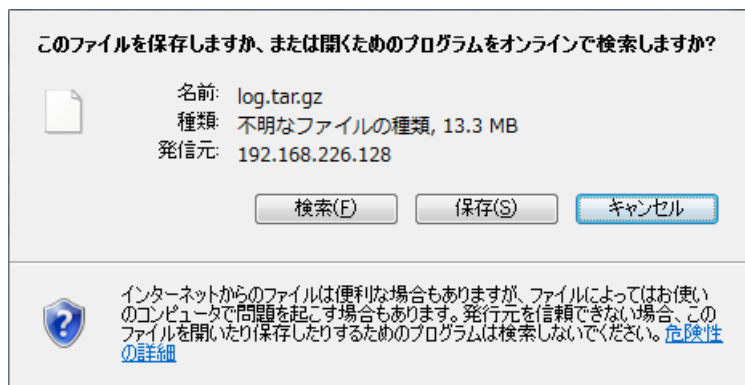
[ログ収集進捗] ダイアログ ボックスを閉じます。ログ収集は継続して動作しています。

この時、タイトルビューの [ログ収集] は [進捗状況] に表示が変わっています。再度 [ログ収集進捗] ダイアログ ボックスを表示するには [進捗状況] をクリックしてください。

ログ収集結果

結果	説明
正常	成功です。
中止	ユーザによってログ収集が中止されました。
パラメータ不正	内部エラーが発生した可能性があります。
送信エラー	接続エラーが発生しました。
タイムアウト	処理にタイムアウトが発生しました。
ビジー	サーバがビジー状態です。
圧縮エラー	ファイル圧縮時にエラーが発生しました。
ファイルI/Oエラー	ファイルが存在しません。
空き容量不足	ディスクに空き容量がありません。
その他異常	その他のエラーによる失敗です。

ログ収集が完了すると、ブラウザのダウンロード保存ダイアログ ボックスが表示されるので、適当な場所にログをダウンロードしてください。




(\* Internet Explorer 7 の場合)

**注:** この状態のまま 10 分以上経つと、正常にダウンロードできないことがあります。

**注:** ログ収集中に、他のモーダルダイアログ ボックスを表示していると、ログ収集のファイル保存ダイアログ ボックスが表示されません。ログ収集のファイル保存ダイアログ ボックスを表示するには、他のモーダルダイアログ ボックスを終了してください。

## WebManager の情報を最新に更新するには

WebManager に表示される情報を最新に更新するには、[ツール] メニューの [リロード]、またはツールバーのリロードアイコン () をクリックします。

**注:** クライアントデータ更新方式として [RealTime] を設定している場合は、WebManager に表示される情報は自動的に更新されます。

WebManager のクライアントデータ更新方法が Polling に設定されている場合、WebManager で表示される内容は定期的に更新され、状態が変化しても即座には表示に反映されません。最新の内容を表示したい場合は、操作を行った後 [リロード] アイコンまたは [ツール] メニューの [リロード] をクリックしてください。

WebManager のクライアントデータ更新方式は、Builder の [クラスタのプロパティ] - [WebManager] - [調整] - [クライアントデータ更新方式] で設定可能です。

WebManager の自動更新間隔は、Builder の [クラスタのプロパティ] - [WebManager] - [調整] - [画面データ更新インターバル] で調整可能です。



接続先と通信不可である場合、及び、接続先で CLUSTERPRO X SingleServerSafe が動作していない場合などは、一部オブジェクトが灰色で表示されることがあります。


## WebManager の画面レイアウトを変更するには

各ビューを区切っているスプリットバーのボタンをクリックするか、バーをドラッグすると、WebManager の画面レイアウトを変更できます。特定のビューのみを表示したい場合などに便利です。

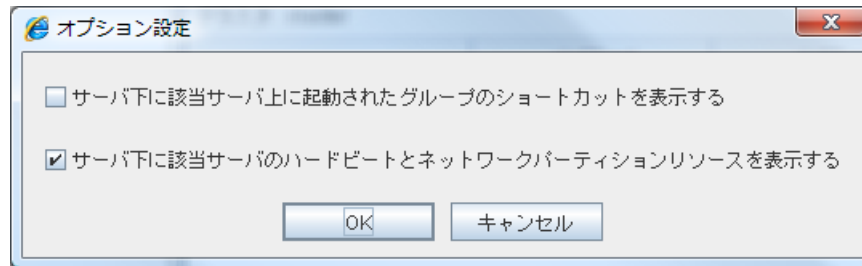
スプリットバーとは、WebManager の各ビューを区切っている



のバーのことで、 を選択するとそのビューを最大表示にし  を選択するとそのビューを非表示にすることが可能です。

ツリービューの表示項目を変更するには、[ツール] メニューの [オプション]、またはツールバーのオプションアイコン()をクリックします。

下記ダイアログが表示されるので、表示したい項目にチェックします。



## WebManagerからクラスタサービスの操作を行うには

WebManager からクラスタサービスの操作を行うには、[サービス] メニューから下記の各項目を選択します。

- ◆ クラスタサスペンド  
サーバの一時停止を行います。サーバが起動している状態でのみ選択可能です。
- ◆ クラスタリジューム  
サスペンドしたサーバの再開を行います。サーバがサスペンドしている状態でのみ選択可能です。
- ◆ サーバ開始  
サーバの起動を行います。サーバが停止している状態でのみ選択可能です。
- ◆ サーバ停止  
サーバの停止を行います。サーバが起動している状態でのみ選択可能です。
- ◆ マネージャ再起動  
マネージャの再起動を行います。

## WebManager のツリービューで各オブジェクトの状態を確認するには

WebManager の画面上で、各オブジェクトの状態を視覚的に確認できます。以下にその手順を示します。

1. WebManager を起動します。
2. 画面左にツリーが表示されます。各オブジェクトのアイコンの形や色によって状態を確認します。

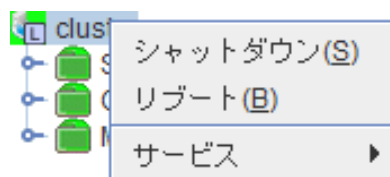
注：ツリー構成は CLUSTERPRO X SingleServerSafe のバージョンや併用するオプション製品によって異なります。

### WebManager から実行できる操作

[サーバ全体]、[特定サーバ]、[特定グループ] 及び、[仮想マシンリソース] は右クリックを行うことで、サーバに対する操作を行うことが可能です。

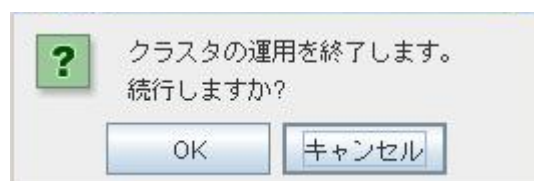
#### サーバ全体のオブジェクト

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。



##### ◆ シャットダウン

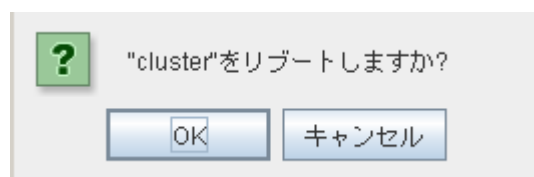
稼働中のサーバをシャットダウンします。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



ただし、現在 WebManager が接続されているサーバから通信不能なサーバ(全ての LAN ハートビートリソースが停止済のサーバ)はシャットダウンされません。

##### ◆ リブート

稼働中のサーバをリブートします。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



##### ◆ サービス

選択するとショートカットメニューに [クラスタサスペンド]、[クラスタリジューム]、[クラスタ開始]、[クラスタ停止]、[マネージャ再起動] が表示されます。

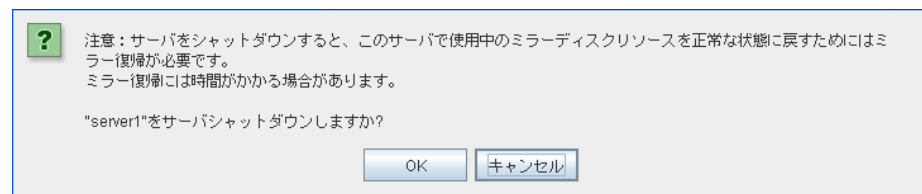
### 特定サーバのオブジェクト

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。



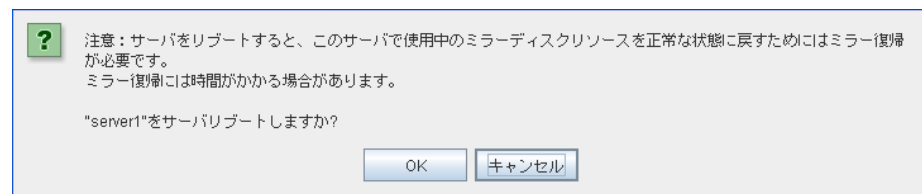
#### ◆ シャットダウン

サーバをシャットダウンします。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



#### ◆ リブート

選択したサーバをリブートします。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



#### ◆ サービス

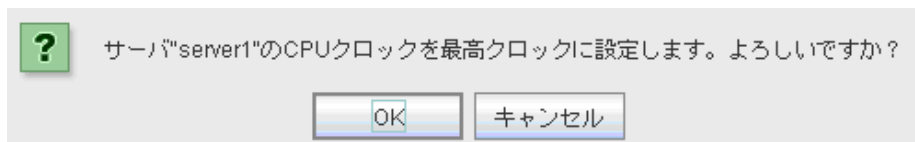
選択したサーバを開始および停止します。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



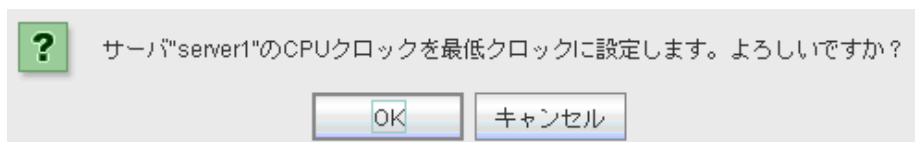
#### ◆ CPU クロック制御

選択したサーバの CPU クロック制御機能を設定します。

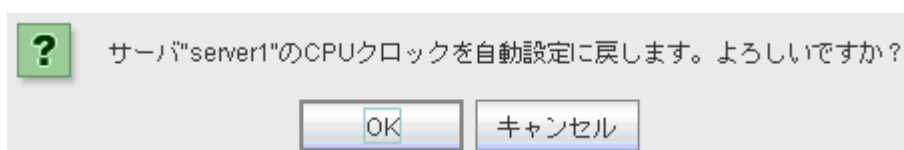
- 最高クロック  
CPU クロック数を最高にします。



- 最低クロック  
CPU クロック数を下げて省電力モードにします。



- 自動設定  
CPU クロックの制御を CLUSTERPRO の自動制御に戻します。

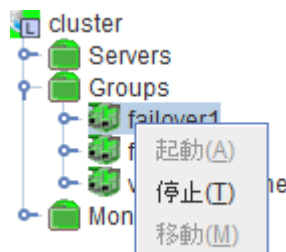


「クラスタのプロパティ」の省電力の設定で「CPU クロック制御機能を使用する」にチェックが入っていない場合、この機能は使えません。

### 特定グループのオブジェクト

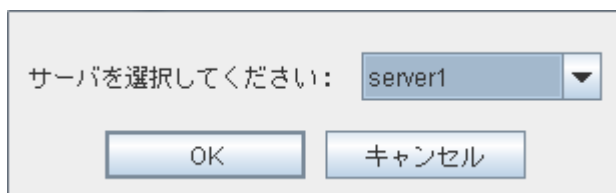
#### タイプにフェイルオーバーを選択した場合

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。



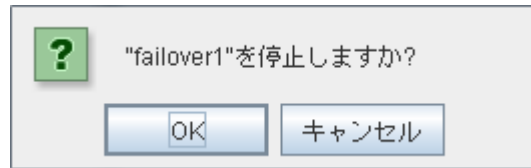
- ◆ 起動 (停止中のみ選択可能)

選択したグループを起動します。選択したグループをどのサーバで起動するか選択するダイアログが表示されます。



- ◆ 停止 (起動中または異常状態のみ選択可能)

選択したグループを停止します。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。

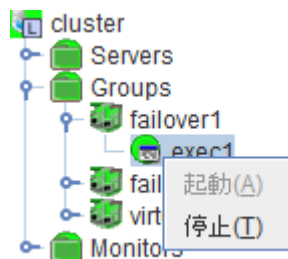


◆ 移動

使用しません。

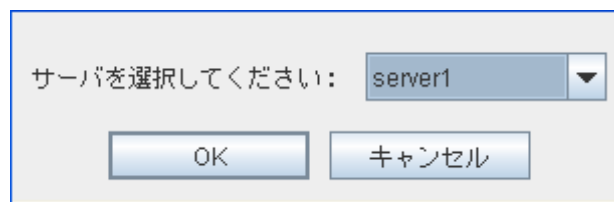
**特定グループリソースのオブジェクト(仮想マシンリソース以外)**

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。



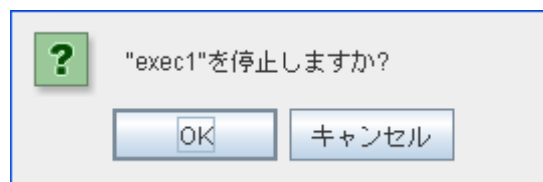
◆ 起動 (停止中のみ選択可能)

選択したグループリソースを起動します。選択したグループをどのサーバで起動するか選択するダイアログが表示されます。



◆ 停止 (起動中または異常状態のみ選択可能)

選択したグループを停止します。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



**タイプにバーチャルマシンを選択した場合**

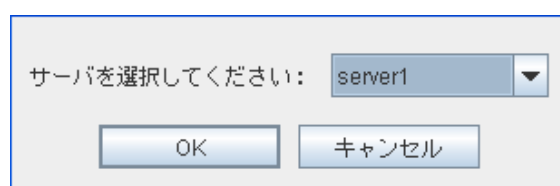
**仮想マシングループのオブジェクト**

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。



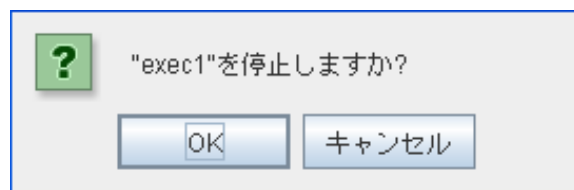
◆ 起動 (停止中のみ選択可能)

選択したグループリソースを起動します。選択したグループをどのサーバで起動するか選択するダイアログが表示されます。



◆ 停止 (起動中または異常状態のみ選択可能)

選択したグループリソースを停止します。選択すると以下の確認ダイアログが表示されます。



◆ 移動

使用しません。

◆ ライブマイグレーション

使用しません。

### モニタリソースのオブジェクト

右クリックを行うことで以下のメニューが表示されます。



◆ 再開 (一時停止中のみ選択可能)






## WebManager のリストビューで状態を確認する


リストビューでは WebManager のツリービューで選択したオブジェクトの詳細情報を見ることができます。

### WebManager のリストビューでサーバ全体の詳細情報をリスト表示するには


1. WebManager を起動します。
2. ツリービューでサーバ全体のオブジェクトを選択します。右側のリストビューに [名前]、[コメント]、[ステータス] が表示されます。
3. [詳細情報] ボタンをクリックします。以下の内容がダイアログ ボックスに表示されます。

アラートサービス		ミラーエージェント		ミラードライバ		排他	ハートビートMF		リカバリ	省電力
情報	タイムアウト	ポート番号		ポート番号(ログ)		ポート番号(ミラー)			監視	遅延警告
プロパティ						設定値				
同期待ち時間 (秒)						300				
ハートビートタイムアウト (ミリ秒)						300000				
ハートビートインターバル (ミリ秒)						30000				
内部通信タイムアウト (秒)						180				
タイムアウト倍率						1				

### WebManager のリストビューでサーバ状態の概要を確認するには


ツリービューでサーバ全体のオブジェクトを選択すると、右側のリストビューの上段に [サーバ名]、[タイプ] (マスターサーバか否か)、[ステータス] が表示されます。下段には [サーバグループ名] と [サーバ名] が表示されます。

### WebManager のリストビューでサーバ状態の詳細を確認するには

1. WebManager を起動します。
2. ツリービューで特定サーバのオブジェクトを選択すると、サーバの[コメント]、[製品]、[内部バージョン]、[プラットフォーム]、[ステータス]が表示されます。

サーバ: server1	
プロパティ	設定値
コメント	
製品	CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.0 for L...
内部バージョン	3.0.0-1
プラットフォーム	Red Hat Enterprise Linux Server release 5....
ステータス	起動済
ハートビートステータス	
lanhb1	正常
ネットワークパーティション解決ステータス	

















## WebManager のリストビューでモニタ全体の状態を確認するには

1. WebManager を起動します。
2. ツリービューでモニタ全体のオブジェクト  を選択すると、リストビューに [モニタ名] とサーバ上のステータス一覧が表示されます。

## WebManager でアラートを確認する

WebManager の下部分で、アラートを確認することができます。

アラートビューの各フィールドは、以下のような構成になっています。




種類	受信時刻 ▲	発生時刻	サーバ名	モジュール名	イベントID	メッセージ
	2006/06/27 12:03:07.218	2006/06/27 12:04:08.765	server1	pm	535	internalよりクラスタサービスのサスペンドが要求されました。
	2006/06/27 12:03:07.250	2006/06/27 12:04:14.250	server1	rm	1502	監視 mdnwr1 が停止しました。
	2006/06/27 12:03:07.281	2006/06/27 12:04:20.718	server1	pm	502	クラスタサービスは停止しています。
	2006/06/27 12:03:37.656	2006/06/27 12:04:43.109	server1	pm	501	クラスタサービスは正常に開始しました。
	2006/06/27 12:03:37.718	2006/06/27 12:04:45.531	server1	pm	534	commandよりクラスタサービスのリジュームが要求されました。
	2006/06/27 12:03:44.125	2006/06/27 12:03:41.812	server2	rm	1501	監視 mdnwr1 が起動しました。
	2006/06/27 12:03:44.734	2006/06/27 12:03:42.406	server2	rm	1501	監視 figwr1 が起動しました。
	2006/06/27 12:03:53.328	2006/06/27 12:03:51.000	server2	rc	1020	グループ failover1 を停止しています。
	2006/06/27 12:03:58.984	2006/06/27 12:03:56.656	server2	rm	1502	監視 figwr1 が停止しました。
	2006/06/27 12:04:04.875	2006/06/27 12:04:02.562	server2	rc	1021	グループ failover1 の停止が完了しました。
	2006/06/27 12:05:38.031	2006/06/27 12:05:35.671	server2	rc	1060	グループ failover1 をフェイルオーバーしています。
	2006/06/27 12:05:55.703	2006/06/27 12:05:53.390	server2	rc	1010	グループ failover1 を起動しています。
	2006/06/27 12:06:02.281	2006/06/27 12:05:59.968	server2	rm	1501	監視 figwr1 が起動しました。
	2006/06/27 12:06:10.250	2006/06/27 12:06:07.937	server2	rc	1032	リソース appli1 の起動に失敗しました。(?:アプリケーションの
	2006/06/27 12:06:17.531	2006/06/27 12:06:15.187	server2	rc	1012	グループ failover1 の起動に失敗しました。
	2006/06/27 12:06:19.718	2006/06/27 12:04:56.281	server1	lcns	3551	試用期間満了は2007/04/23までです。製品名:CLUSTERPRO(R) GAIA

なお、各アラートメッセージの意味については、本書の「第 4 章 エラーメッセージ一覧」を参照してください。また、アラートメッセージの検索については、本章の「WebManager でアラートの検索を行うには」を参照してください。

### アラートビューの各フィールドについて

WebManager のアラートビューの各フィールドの意味は以下のとおりです。

#### (1) アラート種別アイコン

アラート種別	意味
	情報メッセージであることを示しています。
	警告メッセージであることを示しています。
	異常メッセージであることを示しています。

#### (2) アラート受信時刻

アラートを受信した時刻です。WebManager 接続先のサーバの時刻が適用されます。

#### (3) アラート発信時刻

サーバからアラートが発信された時刻です。アラート発信元サーバの時刻が適用されます。

#### (4) アラート発信元サーバ

アラートを発信したサーバのサーバ名です。

#### (5) アラート発信元モジュール

アラートを発信したモジュールのモジュール名です。

#### (6) イベント ID

各アラートに設定されているイベント ID 番号です。

#### (7) アラートメッセージ

アラートメッセージ本体です。

## アラートビューの操作

アラートビューの各フィールド名を示すバー

受信時刻 ▲	発生時刻	サーバ名	モジュール名	イベントID	メッセージ
--------	------	------	--------	--------	-------

の各項目を選択しアラートを並び替えることが可能です。

各フィールドを選択するごとに ▲ か ▼ のマークが表示されます。

マーク	意味
▲	アラートをそのフィールドに関しての昇順に並び替えます。
▼	アラートをそのフィールドに関しての降順に並び替えます。

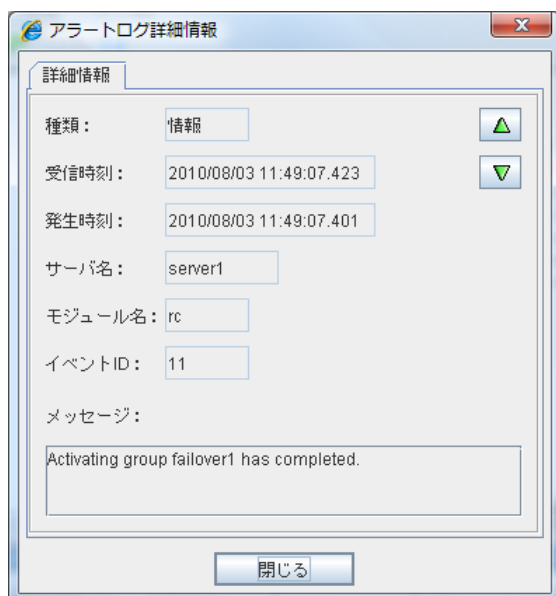
既定の状態では [発生時刻] について降順に並んでいます。

フィールド名の部分を左右にドラッグすることで、項目の表示順を変更することもできます。

また、このバーを右クリックすると、以下のポップアップ画面が表示され、表示する項目を選択することができます。既定の状態ではすべての項目が選択されています。

種類	受信時刻 ▼	発生時刻	サーバ名
	2008/09/16 12:03:48.593	:48.562	server2
	2008/09/16 12:03:48.578	:48.546	server2
	2008/09/16 12:03:48.562	:48.531	server2
	2008/09/16 12:03:48.046	:47.984	server2
	2008/09/16 12:03:47.328	:47.015	server2
	2008/09/16 11:58:21.968	:21.953	server1
	2008/09/16 11:56:58.125	:58.093	server1
	2008/09/16 11:56:58.109	:58.093	server1
	2008/09/16 11:56:55.406	:55.375	server1
	2008/09/16 11:56:55.390	2008/09/16 11:56:55.375	server1

表示されているアラートをダブルクリックすると、以下の画面が表示され、アラートの詳細を確認することができます。



また、アラートを右クリックすると、以下のポップアップ画面が表示され、表示するアラートのタイプを選択できます。既定の状態ではすべての項目が選択されています。



## WebManager を手動で停止/開始する

CLUSTERPRO X SingleServerSafe インストール後、サーバ側の WebManager は OS の起動/停止と合わせて起動/停止するようになっています。

手動で停止/開始する場合、サーバ側のコンソールから以下のコマンドを実行してください。

### 停止する場合

```
[root@server1 root]# /etc/init.d/clusterpro_alertsync stop
Shutting down clusterpro webalert: OK
[root@server1 root]# /etc/init.d/clusterpro_webmgr stop
Shutting down clusterpro webmanager server: OK
```

### 開始する場合

```
[root@server1 root]# /etc/init.d/clusterpro_webmgr start
Starting clusterpro webmanager server: OK
[root@server1 root]# /etc/init.d/clusterpro_alertsync start
Starting clusterpro webalert: OK
```

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.0 for Linux 操作ガイド

実際に入力するコマンドは太字の部分です。

## WebManager を利用したくない場合

セキュリティの観点から WebManager を利用したくない場合、OS の設定または Builder の設定で WebManager が起動しないように設定してください。

OS の設定の場合は、chkconfig コマンドを使用して WebManager 関連デーモンの起動/停止を制御できます。

### WebManager を起動しないようにする場合

```
[root@server1 root]# chkconfig --del clusterpro_alertsync  
[root@server1 root]# chkconfig --del clusterpro_webmgr
```

### WebManager を起動するようにする場合

```
[root@server1 root]# chkconfig --add clusterpro_webmgr  
[root@server1 root]# chkconfig --add clusterpro_alertsync
```

実際に入力するコマンドは太字の部分です。

Builderの[クラスタのプロパティ]の[WebManager]タブでWebManagerの使用を設定できます。設定については、『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 設定ガイド』の「第 7 章 その他の設定の詳細」の「WebManager タブ」を参照してください。

## WebManager の接続制限、操作制限を設定する

WebManager の接続制限、操作制限は Builder の [クラスタのプロパティ] で設定できます。設定については、『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 設定ガイド』の「第 7 章 その他の設定の詳細」の「WebManager タブ」を参照してください。

### 使用制限の種類

使用制限の方法は以下の 2 つがあります。

- ◆ クライアント IP アドレスによる接続制限
- ◆ パスワードによる制限

#### クライアント IP アドレスによる接続制限

WebManager に接続できるクライアントの WebManager での操作を、クライアント IP アドレスにより制限する機能です。

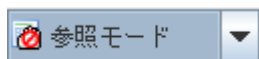
Builder で [クラスタのプロパティ] の [WebManager] タブをクリックし、[接続を許可するクライアント IP アドレス一覧] に IP アドレスを追加してください。

WebManager の接続制限の設定において、[接続を許可するクライアント IP アドレス一覧] に追加されていない IP アドレスから WebManager に接続しようとするると以下のエラーメッセージが表示されます。

### Internet Explorer の場合



操作制限するように登録されたクライアントから接続した WebManager には、以下のように「参照モード」が表示されます。





操作制限を行なうと WebManager 上から以下の操作ができなくなります。

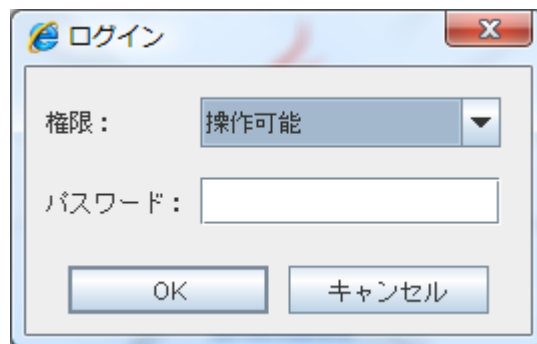
- ◆ サーバのシャットダウン、シャットダウンリブート
- ◆ 各グループの起動、停止
- ◆ Builder(設定モード)への切り替え

#### パスワードによる制限

パスワードにより WebManager での参照や操作を制限する機能です。

Builderで [クラスタのプロパティ] の [WebManager] タブをクリックし、[パスワードによって接続を制御する] の設定を行ってください。

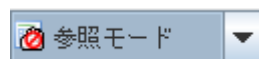
WebManager のパスワード制限の設定において、パスワードを設定して WebManager に接続しようとする以下に認証ダイアログ ボックスが表示されます。



[権限] で [操作可能] および [参照専用] を選択し正しいパスワードを入力すると、WebManager にログインできます。

- ◆ パスワード制限を設定していない場合は、認証ダイアログ ボックスは表示されません (認証なしにログインできます)
- ◆ パスワードを 3 回間違えると、WebManager にログインできません

参照専用の権限でログインした場合には、以下のように「参照モード」が表示されます。



操作制限を行なうと WebManager 上から以下の操作ができなくなります。

- ◆ サーバのシャットダウン、シャットダウンリブート
- ◆ 各グループの起動、停止

ログイン、ログインした後の権限切替えに関しては、43 ページの「WebManager の権限切替え」も合わせて参照してください。

**使用制限の組み合わせ**

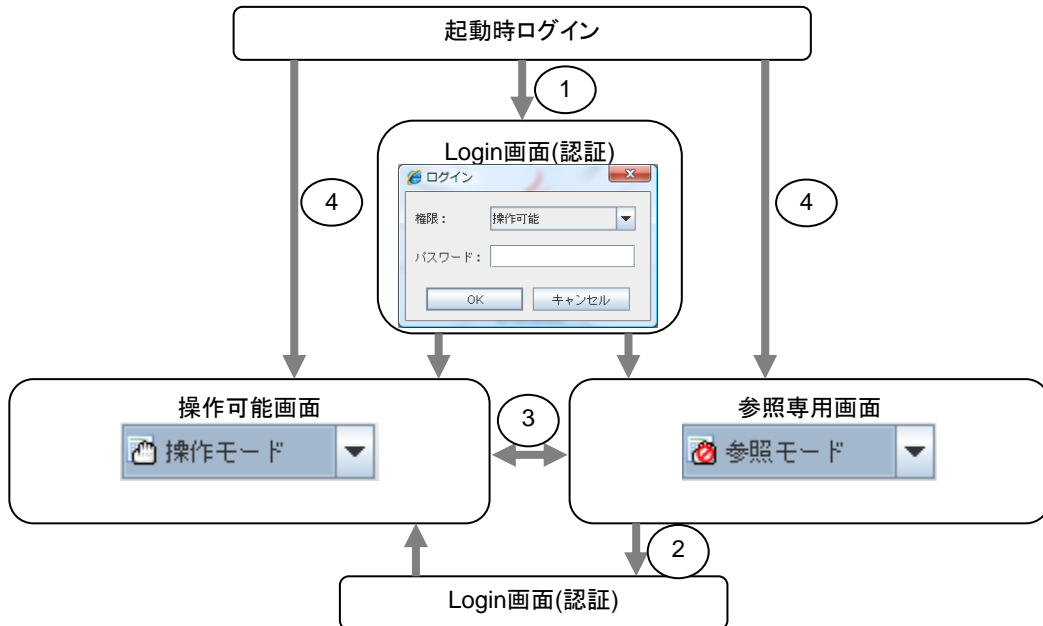
IP アドレスによる制限機能とパスワードによる制限機能を併用した場合の操作制限は以下のようになります。

	パスワード制限		
クライアント IP アドレス制限	操作可能	参照専用	操作/参照不可 (認証失敗)
操作可能	操作可能	参照専用	使用不可
参照専用	参照専用*	参照専用	使用不可
接続不可	接続不可	接続不可	接続不可

\* 権限の選択で選べません。

## WebManager の権限切替え

WebManager に接続する場合と、権限を切り替える場合は以下のフロー図になります。



### 1. WebManager へのログイン

操作可能か参照専用のパスワードを設定している場合、ログイン認証ダイアログ ボックスが表示されます。[操作可能] および [参照専用] の権限を選び正しいパスワードを入力すると WebManager にログインできます。

### 2. 参照専用画面から操作可能画面への権限切替え

パスワード認証ダイアログ ボックスが表示されます。正しいパスワードを入力するとログインできます。パスワード制限を設定していない場合は、空のパスワードのままログインします。

### 3. 操作可能画面から参照専用画面への権限切替え

認証なしに権限を切り替えられます。パスワード制限の設定をしている場合でも、認証なしに権限を切り替えられます。

### 4. 操作可能と参照専用のパスワードを両方設定しない場合のログイン

クライアント IP 制限に従ってログインします。クライアント IP 制限を設定していない場合は、権限が操作可能の WebManager にログインします。また、この場合は参照専用への権限の切り替えができません。



## セクション II コマンドリファレンス

このセクションでは、CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用可能なコマンドについて説明します。  
CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、クラスタリングソフトウェアである CLUSTERPRO X との操作性などにおける親和性を高めるために、共通のコマンドを使用しています。

- 第 2 章 CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス



## 第 2 章

# CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス

本章では、CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用可能なコマンドについて説明します。

本章で説明する項目は以下のとおりです。

• コマンドラインから操作する .....	48
• コマンド一覧 .....	48
• 状態を表示する (clpstat コマンド) .....	50
• CLUSTERPROデーモンを操作する (clpcl コマンド) .....	52
• サーバをシャットダウンする (clpstdn コマンド) .....	54
• グループを操作する (clpgrp コマンド) .....	55
• ログを収集する (clplogcc コマンド) .....	57
• 構成情報の反映、バックアップを実行する (clpcfctrl コマンド) .....	66
• タイムアウトを一時調整する .....	77
• ログレベル/サイズを変更する .....	79
• ライセンスを管理する .....	86
• メッセージを出力する .....	90
• 監視リソースを制御する (clpmonctrl コマンド) .....	93
• グループリソースを制御する (clprscコマンド) .....	98
• ネットワーク警告灯を消灯する .....	100
• CPUクロックを制御する .....	101
• クラスタサーバに処理を要求する (clprexec コマンド) .....	104
• BMC情報を変更する .....	107
• 再起動回数を制御する .....	109

## コマンドラインから操作する

CLUSTERPRO X SingleServerSafe では、コマンドプロンプトから操作するための多様なコマンドが用意されています。構築時や WebManager が使用できない状況の場合などに便利です。コマンドラインでは、WebManager で行える以上の種類の操作を行うことができます。

**注：** モニタリソースの異常検出時の設定で回復対象にグループリソース(アプリケーションリソース、...)を指定し、モニタリソースが異常を検出した場合の回復動作遷移中(再活性化 → 最終動作)には、以下のコマンドまたは、WebManager からのサービスおよびグループへの制御は行わないでください。

- ◆ サービスの停止/サスペンド
- ◆ グループの開始/停止

モニタリソース異常による回復動作遷移中に上記の制御を行うと、そのグループの他のグループリソースが停止しないことがあります。

また、モニタリソース異常状態であっても最終動作実行後であれば上記制御を行うことが可能です。

## コマンド一覧

構築関連		
コマンド	説明	ページ
clpcfctrl	Builderで作成した構成情報をサーバに配信します。  Builderで使用するために構成情報をバックアップします。	65
clplcncs	本製品の製品版・試用版ライセンスの登録、参照を行います。	86
状態表示関連		
コマンド	説明	ページ
clpstat	CLUSTERPRO X SingleServerSafe の状態や、設定情報を表示します。	50
操作関連		
コマンド	説明	ページ
clpcl	デーモンの起動、停止、サスペンド、リジュームなどを実行します。	52
clpstdn	CLUSTERPROデーモンを停止し、サーバをシャットダウンします。	54
clpgrp	グループの起動、停止を実行します。	55
clptoratio	各種タイムアウト値の延長、表示を行います。	77



clpmonctrl	単一サーバ上での監視リソースの一時停止/再開を行います。	93
clpregctrl	単一サーバ上で再起動回数の表示/初期化をおこないます。	109
clprsc	グループリソースの一時停止/再開を行います。	98
clpcpufreq	CPUクロックの制御を行います。	101
clptrnreq	サーバへ処理実行を要求します。	102
clprexec	外部監視からCLUSTERPROサーバへ処理実行を要求します。	104
clpbmccnf	BMCユーザ名・パスワード情報を変更します。	107

#### ログ関連

コマンド	説明	ページ
clplogcc	ログ、OS情報等を収集します。	57
clplogcf	ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定の変更、表示を行います。	79

#### スクリプト関連

コマンド	説明	ページ
clplogcmd	EXECリソースのスクリプトに記述し、任意のメッセージを出力先に出力します。	90

**重要:** インストールディレクトリ配下に本マニュアルに記載していない実行形式ファイルやスクリプトファイルがありますが、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 以外からの実行はしないでください。実行した場合の影響については、サポート対象外とします。

## 状態を表示する (clpstat コマンド)

**clpstat** CLUSTERPRO X SingleServerSafe の状態と、設定情報を表示します。

### コマンドライン

```
clpstat -s
clpstat -g
clpstat -m
clpstat -i [--detail]
clpstat --cl [--detail]
clpstat --sv [--detail]
clpstat --grp [group_name] [--detail]
clpstat --rsc [resource_name] [--detail]
clpstat --mon [monitor_name] [--detail]
```

**説明** サーバの状態や、設定情報を表示します。

<b>オプション</b>	-s	状態を表示します。
	オプションなし	
	-g	グループマップを表示します。
	-m	各モニタリソースの状態を表示します。
	-i	設定情報を表示します。
	--cl	設定情報を表示します。
	--sv	サーバの設定情報を表示します。
	--grp [group_name]	グループの設定情報を表示します。グループ名を指定することによって、指定したグループ情報のみを表示できます。
	--rsc [resource_name]	グループリソースの設定情報を表示します。グループリソース名を指定することによって、指定したグループリソース情報のみを表示できます。
	--mon [monitor_name]	モニタリソースの設定情報を表示します。モニタリソース名を指定することによって、指定したモニタリソース情報のみを表示できます。
	--detail	このオプションを使用することによって、より詳細な設定情報を表示できます。

<b>戻り値</b>	0	成功
	0 以外	異常

**注意事項** 本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。

本コマンドを実行するサーバはCLUSTERPROデーモンが起動してい

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.0 for Linux 操作ガイド

る必要があります。

本コマンドの出力結果で使用する言語は [クラスタ詳細] の[クラスタ情報] タブを参照してください。

オプションを指定しない場合と-sオプションを指定する場合は、サーバ名やリソース名などの名前が途中までしか出力されません。

## CLUSTERPRO デーモンを操作する (clpcl コマンド)

clpcl

CLUSTERPROデーモンを操作します。

コマンドライン

clpcl -s

clpcl -t [-w *timeout*]

clpcl -r [-w *timeout*]

clpcl --suspend [--force] [-w *timeout*]

clpcl --resume

**説明** CLUSTERPROデーモンの起動、停止、サスペンド、リジュームなどを実行します。

<b>オプション</b>	-s	CLUSTERPROデーモンを起動します。
	-t	CLUSTERPROデーモンを停止します。
	-r	CLUSTERPROデーモンを再起動します。
	--suspend	CLUSTERPROデーモンをサスペンドします。
	--resume	CLUSTERPROデーモンをリジュームします。
	-w <i>timeout</i>	-t, -r, --suspendオプションの場合にのみclpclコマンドがCLUSTERPROデーモンの停止またはサスペンドの完了を待ち合わせる時間を指定します。  単位は秒です。  timeoutの指定がない場合、無限に待ち合わせします。  timeoutに"0"を指定した場合、待ち合わせしません。  -wオプションを指定しない場合、  (ハートビートタイムアウト×2)秒待ち合わせします。
	--force	--suspendオプションと一緒に用いることで、サーバの状態に関わらず強制的にサスペンドを実行します。
<b>戻り値</b>	0	成功
	0 以外	異常
<b>注意事項</b>	本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。	

サスペンドを実行する場合は、CLUSTERPROデーモンが起動した状態で実行してください。--forceオプションを用いると、強制的にサスペンドを実行します。

リジュームを実行する場合は、clpstatコマンドを用いてCLUSTERPROデーモンが起動していないかを確認してください。

実行例            **例1:**サーバのCLUSTERPROデーモンを起動させる場合

```
# clpcl -s
```

◆ サスペンド・リジュームについて

構成情報の更新、CLUSTERPRO のアップデートなどを行いたい場合に、業務を継続したまま、CLUSTERPRO デーモンを停止させることができます。この状態をサスペンドといいます。サスペンド状態から通常の業務状態に戻ることをリジュームといいます。

サスペンド・リジュームはサーバに対して処理を要求します。サスペンドは、サーバのCLUSTERPRO デーモンが起動した状態で実行してください。

サスペンド状態では、活性していたリソースはそのまま活性した状態で CLUSTERPRO デーモンが停止するため以下の機能が停止します。

- 全てのモニタリソースが停止します。
- グループまたはグループリソースの操作ができなくなります。(起動、停止)
- WebManager および clpstat コマンドでの表示または操作ができなくなります。
- 以下のコマンドが使用不可となります。
  - clpstat
  - clpcl の --resume 以外のオプション
  - clpstdn
  - clpgrp
  - clptoratio
  - clpmonctrl

## サーバをシャットダウンする (clpstdn コマンド)

**clpstdn**                      サーバをシャットダウンします。

コマンドライン

clpstdn [-r]

**説明**                      サーバのCLUSTERPRO デーモンを停止し、シャットダウンします。

**オプション**              オプションなし              サーバシャットダウンを実行します。  
                                 -r                                  サーバシャットダウンリブートを実行します。

**戻り値**                      0                                  成功  
                                 0 以外                              異常

**注意事項**                  本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。

**実行例**                      **例1:サーバシャットダウンを行う場合**  
                                 # clpstdn  
**例2:サーバシャットダウンリブートを行う場合**  
                                 # clpstdn -r

## グループを操作する (clpgrp コマンド)

**clpgrp**                      グループを操作します。

### コマンドライン

`clpgrp -s [group_name]`

`clpgrp -t [group_name]`

**説明**                      グループの起動、停止を実行します。

<b>オプション</b>	<code>-s [group_name]</code>	グループを起動します。グループ名を指定すると、指定されたグループのみ起動します。グループ名の指定がない場合は、全てのグループが起動されます。
	<code>-t [group_name]</code>	グループを停止します。グループ名を指定すると、指定されたグループのみ停止します。グループ名の指定がない場合は、全てのグループが停止されます。

<b>戻り値</b>	0	成功
	0 以外	異常

**注意事項**      本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。

本コマンドを実行するサーバはCLUSTERPROデーモンが起動している必要があります。

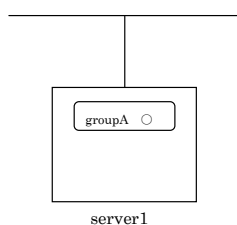
### 実行例

グループ操作の実行を、簡単な例で説明します。

サーバで、「groupA」を持っている場合

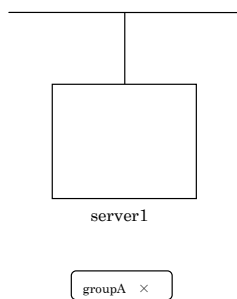
- サーバで以下のコマンドを実行すると、groupA が起動します。

```
# clpgrp -s groupA
```



- サーバで以下のコマンドを実行すると、groupA が停止します。

```
# clpgrp -t groupA
```





# ログを収集する (clplogcc コマンド)

clplogcc                      ログを収集します。

## コマンドライン

```
clplogcc [-t collect_type] [-r syslog_rotate_number] [-o path]
```

説明                      データ転送サーバに接続し、ログ、OS情報等を収集します。

オプション	なし	ログを収集します。
	-t <i>collect_type</i>	ログ収集パターンを指定します。省略した場合のログ収集パターンは type1 です。
	-r <i>syslog_rotate_number</i>	syslog の収集する世代数を指定します。省略した場合は、2世代収集します。
	-o <i>path</i>	収集ファイルの出力先を指定します。省略した場合は、インストールパスの tmp 配下にログが出力されます。

戻り値	0	成功
	0 以外	異常

備考                      ログファイルは tar.gz で圧縮されているので、tarコマンドに、xzf オプションを付けて解凍してください。

**注意事項**            本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。  
データ転送サービスが起動されていることを確認してください。

**実行例**                **例1:**サーバからログを収集する場合

```
# clplogcc
Collect Log server1 : Success
```

ログ収集を実行したサーバの実行結果(サーバ状態)が表示されます。

処理過程    サーバ名 : 実行結果(サーバ状態)

**実行結果**            本コマンドの結果で表示される処理過程は以下になります。

処理過程	説明
Connect	接続に失敗した場合に表示します。
Get Filesize	ファイルサイズ取得に失敗した場合に表示します。
Collect Log	ファイル取得の結果を表示します。

実行結果(サーバ状態)については以下になります。

実行結果(サーバ状態)	説明
Success	成功です。
Timeout	タイムアウトしました。
Busy	サーバがビジー状態です。
Not Exist File	ファイルが存在しません。
No Freespace	ディスクに空き容量がありません。
Failed	その他のエラーによる失敗です。

## エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	root権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data by using the Builder.	Builderで正しい構成情報を作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Specify a number in a valid range.	正しい範囲で数字を指定してください。
Specify a correct number.	正しい数字で指定してください。
Specify correct generation number of syslog.	正しいsyslogの世代数を指定してください。
Collect type must be specified 'type1' or 'type2' or 'type3'. Incorrect collection type is specified.	収集タイプの指定が間違っています。
Specify an absolute path as the destination of the files to be collected.	収集ファイルの出力先は絶対パスで指定してください。
Specifiable number of servers are the max number of servers that can constitute a cluster.	指定可能なサーバ数は、構成可能な最大サーバ数です。
Could not connect to the server. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPROデーモンが起動しているか確認してください。
Invalid server status.	CLUSTERPROデーモンが起動しているか確認してください。
Server is busy. Check if this command is already run.	既に本コマンドを実行している可能性があります。確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

## タイプを指定したログの収集 (-t オプション)

指定したタイプのログのみを収集したい場合は、clplogcc コマンドで -t オプションを指定して実行します。

ログの収集タイプは type1 ~ 3 までを指定します。

	type1	type2	type3
(1) デフォルト収集情報	○	○	○
(2) syslog	○	○	×
(3) core	○	×	○
(4) OS情報	○	○	○
(5) script	○	×	×
(6) ESM/PRO/AC	○	×	×

コマンドラインからは以下のように実行します。

実行例: 収集タイプ type2 でログ収集を行う場合。

```
# clplogcc -t type2
```

オプションを指定しない場合のログ収集タイプは type1 です。

### (1) デフォルト収集情報

- CLUSTERPRO サーバの各モジュールログ
- アラートログ
- CLUSTERPRO サーバの各モジュールの属性情報(ls -l)
  - bin、lib 配下
  - alert/bin、webmgr/bin 配下
  - drivers/md 配下
  - drivers/khb 配下
  - drivers/ka 配下
- インストール済の全パッケージ情報(rpm -qa の実行結果)
- CLUSTERPRO X SingleServerSafe のバージョン情報(rpm -qi clusterpro の実行結果)
- distribution 情報(/etc/\*-release)
- CPU ライセンスおよびノードライセンス
- 構成情報ファイル
- ポリシファイル
- CLUSTERPRO X SingleServerSafe が使用している共有メモリのダンプ
- プロセス、スレッド情報(ps の実行結果)
- PCI デバイス情報(lspci の実行結果)
- サービス起動設定情報(chkconfig --list の実行結果、ls -l の実行結果)
- kernel パラメータの出力結果(sysctl -a の実行結果)
- glibc バージョン(rpm -qi glibc の実行結果)
- カーネルローダブルモジュール設定情報(/etc/modules.conf、/etc/modprobe.conf)
- カーネルのリングバッファ情報(dmesg の実行結果)
- ファイルシステム情報(/etc/fstab)
- IPC リソース情報(ipcs の実行結果)
- システム情報(uname -a の実行結果)
- ネットワーク統計情報(netstat の実行結果 IPv4/IPv6)

- 全ネットワークインターフェイス情報(ethtool の実行結果)
- 緊急 OS シャットダウン時の採取情報
- libxml2 バージョン(rpm -qi libxml2 の実行結果)
- 静的ホストテーブル(/etc/hosts)
- ファイルシステムのエクスポートテーブル(exports -v の実行結果)
- ユーザリソース制限情報(ulimit -a の実行結果)
- カーネルベースの NFS でエクスポートされるファイルシステム(/etc/exports)
- OS のロケール(locale)
- ターミナルセッションの環境変数(export の実行結果)
- 言語ロケール(/etc/sysconfig/i18n)
- タイムゾーン(env - date の実行結果)
- CLUSTERPRO サーバのワーク領域情報
- 各監視オプション製品に関する情報  
監視オプション製品をインストールされていれば収集されます。

## (2) syslog

- syslog (/var/log/messages)
- 指定された世代数の syslog (/var/log/messages.x)

## (3) core ファイル

- CLUSTERPRO モジュールの core ファイル  
/opt/nec/clusterpro/log 配下に以下のアーカイブ名で格納されます。  
アラート関連  
alt`yyyymmdd_x`.tar  
WebManager 関連  
wm`yyyymmdd_x`.tar  
CLUSTERPRO コア関連  
cls`yyyymmdd_x`.tar  
`yyyymmdd` はログの収集日付、`x` はシーケンシャル番号になります。

## (4) OS 情報

- カーネルモード LAN ハートビート、キープアライブ情報
  - /proc/khb\_moninfo
  - /proc/ka\_moninfo
- /proc/devices
- /proc/mdstat
- /proc/modules
- /proc/lvm
- /proc/mounts
- /proc/meminfo
- /proc/cpuinfo
- /proc/partitions
- /proc/pci
- /proc/version
- /proc/ksyms
- /proc/net/bond\*
- /proc/scsi/ ディレクトリ内の全ファイル
- /proc/ide/ ディレクトリ内の全ファイル
- /etc/fstab
- /etc/syslog.conf
- /etc/syslog-ng/syslog-ng.conf
- カーネルのリングバッファ情報(dmesg の実行結果)
- ifconfig (ifconfig の実行結果)
- iptables (iptables -L の実行結果)

- ipchains (ipchains -L の実行結果)
- df (df の実行結果)
- raw デバイス情報 (raw -qa の実行結果)
- カーネルモジュールロード情報 (lsmod の実行結果)
- ホスト名、ドメイン名情報 (hostname、domainname の実行結果)

ログ収集を実行した場合、コンソールに以下のメッセージが表示されることがありますが、異常ではありません。ログは正常に収集されています。

```
hd#: bad special flag: 0x03
ip_tables: (C) 2000-2002 Netfilter core team
```

(hd#にはサーバ上に存在する IDE のデバイス名が入ります)

#### (5) スクリプト

Builder で作成されたグループ起動/停止スクリプト

上記以外のユーザ定義スクリプト(/opt/nec/clusterpro/scripts 以外)を指定した場合は、ログ収集の採取情報に含まれないため、別途採取する必要があります。

#### (6) ESMPRO/AC 関連ログ

acupslog コマンドの実行により収集されるファイル

## syslogの世代 (-r オプション)

syslog を、指定した世代分収集するには以下のように実行します。

例) 世代数 3 でログ収集を行う場合

```
# clplogcc -r 3
```

収集したログには以下の syslog が含まれています。

```
/var/log/messages
/var/log/messages.1
/var/log/messages.2
```

- ◆ オプションを指定しない場合は、2 世代収集されます。
- ◆ 指定できる世代数は、0～99 です。
- ◆ 0 を指定した場合は、全ての syslog を収集します。

世代数	取得する世代
0	全世代
1	カレント
2	カレント + 世代1
3	カレント + 世代1～2
⋮	
x	カレント + 世代1～(x-1)

## ログファイルの出力先 (-o オプション)

- ◆ ファイル名は、「サーバ名-log.tar.gz」で保存されます。
- ◆ ログファイルは tar.gz で圧縮されているので、tar コマンドに、xzf オプションを付けて解凍してください。

### -o オプションを指定しない場合

インストールパスの tmp 配下にログが出力されます。

```
# clplogcc
Collect Log サーバ名: Success
# ls /opt/nec/clusterpro/tmp
サーバ名-log.tar.gz
```

### -o オプションを指定する場合

以下のようにコマンドを実行すると、指定したディレクトリ /home/log 配下にログが出力されます。

```
# clplogcc -o /home/log
Collect Log サーバ名: Success
```

```
# ls /home/log  
サーバ名-log.tar.gz
```

## 異常発生時の情報採取

以下の異常発生時に、障害解析のための情報を採取します。

- ◆ 構成するサーバデーモンが、シグナルの割り込みによる終了(core dump)、内部ステータス異常による終了などで異常終了した場合
- ◆ グループリソースの活性異常、非活性異常が発生した場合
- ◆ モニタリソースの監視異常が発生した場合

採取する情報は以下です。

- ◆ 情報
  - CLUSTERPRO サーバの一部のモジュールログ
  - CLUSTERPRO X SingleServerSafe が使用している共有メモリのダンプ
  - 構成情報ファイル
  - CLUSTERPRO モジュールの core ファイル
- ◆ OS 情報(/proc/\*)
  - /proc/devices
  - /proc/partitions
  - /proc/mdstat
  - /proc/modules
  - /proc/mounts
  - /proc/meminfo
  - /proc/net/bond\*
- ◆ コマンド実行による情報
  - sysctl -a の結果
  - ps の結果
  - top の結果
  - ipcs の結果
  - netstat -i の結果
  - ifconfig の結果
  - df の結果
  - raw -qa の結果

この情報はログ収集のデフォルト収集情報として採取されるため、別途採取する必要はありません。



## 緊急OSシャットダウン時の情報採取

サービスが、内部ステータス異常による終了などで異常終了した場合に、OS のリソース情報を採取します。

採取する情報は以下です。

◆ コマンド実行による情報

- ホスト名、ドメイン名情報(hostname の実行結果)
- ネットワーク情報(netstat の実行結果)
- メモリ使用状況(mem の実行結果)
- プロセス存在状況(tasklist の実行結果)
- Ifconfig (ifconfig の実行結果)

この情報はログ収集のデフォルト収集情報として採取されるため、別途採取する必要はありません。

## 構成情報の反映、バックアップを実行する (clpcfctrl コマンド)

### 構成情報を反映する(clpcfctrl --push)

clpcfctrl --push      構成情報をサーバに反映します。

#### コマンドライン

```
clpcfctrl --push [-l|-w] [-p portnumber]
                  [-d device] [-m mountpoint]
                  [-x directory] [--nocheck]
```

説明                      Builderで作成した構成情報をサーバに反映します。

オプション	--push	反映時に指定します。 省略できません。
	-l	Linux上でBuilderを使用して保存したFDを使用する場合に指定します。ただし、Linux上でBuilderを使用してWindows用として保存したFDを使用する場合には-wを指定します。  -wと同時に指定できません。  -l と -w のどちらも指定しない場合は現在の構成情報を反映します。
	-w	Windows上でBuilderを使用して保存したFDを使用する場合に指定します。また、Linux上でBuilderを使用してWindows用として保存したFDを使用する場合に指定します。  -lと同時に指定することはできません。  -l と -w のどちらも指定しない場合は現在の構成情報を反映します。
	-p <i>portnumber</i>	データ転送ポートのポート番号を指定します。  省略時は初期値を使用します。通常は指定の必要はありません。
	-d <i>device</i>	FDのデバイスファイルを指定します。  /dev/fd0と異なる場合に指定します。省略時は /dev/fd0を使用します。

	<p><b>-m <i>mountpoint</i></b> FDのマウントポイントを指定します。 -wと共に使用します。 省略時は/mnt/floppyを使用します。</p> <p><b>-x <i>directory</i></b> FDが使用できない環境でのみ使用します。 指定したディレクトリにある構成情報を反映する場合に指定します。 -lまたは-wと共に使用します。 -lを指定した場合は、Linux上でBuilderを使用してファイルシステム上に保存した構成情報を使用します。 -wを指定した場合は、Windows上でBuilderを使用して保存した構成情報を使用します。</p> <p><b>--nocheck</b> 構成情報のチェックを実行しません。サーバ削除時のみ使用します。通常は使用しないでください。</p>
戻り値	<p>0 成功</p> <p>0以外 異常</p>
備考	<p>環境によっては/mnt/floppyが存在しません。存在しない場合は、/mnt/floppyを作成するか、-mオプションでマウントポイントを指定してください。</p> <p>supermountサービスが動作中であり、/mnt/floppyを使用するように設定されている場合には、/mnt/floppyを使用できません。supermountサービスを停止するか、-mオプションで別のマウントポイントを指定してください。</p>
注意事項	本コマンドはroot権限をもつユーザで実行してください。
実行例	<p><b>例1:</b> Linux上でBuilderを使用して保存したFDからサーバ生成する場合</p> <pre># clpcfctrl --push -l file delivery to server 10.0.0.11 success. file delivery to server 10.0.0.12 success.  The upload is completed successfully.(cfmgr:0) Command succeeded.(code:0)</pre> <p><b>例2:</b> Windows上でBuilderを使用して保存したFDから指定サーバに構成情報を配信する場合</p> <pre># clpcfctrl --push -w -h 10.0.0.11 The upload is completed successfully.(cfmgr:0) Command succeeded.(code:0)</pre> <p><b>例3:</b> Linux上でBuilderを使用してファイルシステム上に保存した構</p>

成情報を配信する場合

```
# clpcfctrl --push -l -x /mnt/config
file delivery to server 10.0.0.11 success.
file delivery to server 10.0.0.12 success.

The upload is completed successfully.(cfmgr:0)

Command succeeded.(code:0)
```

**例4:** 再インストールしたサーバに構成情報を配信する場合

```
# clpcfctrl --push -h server2

The upload is completed successfully.(cfmgr:0)

Command succeeded.(code:0)
```

## エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	rootユーザで実行してください。
This command is already run.	本コマンドはすでに起動されています。
Invalid option.	オプションが不正です。オプションを確認してください。
Invalid mode. Check if --push or --pull option is specified.	--pushを指定しているか確認してください。
The target directory does not exist.	指定されたディレクトリは存在しません。
Invalid host name. Server specified by -h option is not included in the configuration data.	-hで指定したサーバが構成情報に含まれていません。指定したサーバ名またはIPアドレスが正しいか確認してください。
Canceled.	コマンドの問い合わせに"y"以外を入力した場合に表示されます。
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to load the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	
Failed to change the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	
Failed to load the all.pol file. Reinstall the RPM.	CLUSTERPROサーバRPMを再インストールしてください。
Failed to load the cfctrl.pol file. Reinstall the RPM.	CLUSTERPROサーバRPMを再インストールしてください。
Failed to get a create flag. This floppy disk does not contain valid data created by the Builder.	Builderで作成したFDではありません。
Failed to get a restart flag. This floppy disk does not contain valid data created by the Builder.	Builderで作成したFDではありません。
Failed to get the install path. Reinstall the RPM.	CLUSTERPROサーバRPMを再インストールしてください。
Failed to get the cfctrl path. Reinstall the RPM.	CLUSTERPROサーバRPMを再インストールしてください。
Invalid create flag value. This floppy disk does not contain valid data created by the Builder.	Builderで作成したFDではありません。
Invalid restart flag value. This floppy disk does not contain valid data created by the Builder.	Builderで作成したFDではありません。
Failed to get the list of group.	グループ一覧の取得に失敗しました。
Failed to get the list of resource.	リソース一覧の取得に失敗しました。
Failed to initialize the trncl library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

メッセージ	原因/対処法
Failed to connect to server %1. Check if the other server is active and then run the command again.	サーバとの接続に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。  サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
Failed to connect to trnsv. Check if the other server is active.	サーバとの接続に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。
File delivery failed. Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。  サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
Multi file delivery failed. Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。  サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。  サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
The directory "/work" is not found. Reinstall the RPM.	CLUSTERPROサーバRPMを再インストールしてください。
Failed to make a working directory.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
The directory does not exist.	
This is not a directory.	
The source file does not exist.	
The source file is a directory.	
The source directory does not exist.	
The source file is not a directory.	
Failed to change the character code set (EUC to SJIS).	
Failed to change the character code set (SJIS to EUC).	FDのマウントに失敗しました。FDが挿入されているか確認してください。また、Linux上でBuilderを使用している場合はWindows用として保存したか確認してください。  マウントポイントが存在するか確認してください。  supermount サービスが動作中の場合は、supermountサービスを停止するか、-mオプションを使用してください。
Command error.	
Failed to mount the floppy disk. Check if it is inserted. When using the Builder on Linux, check if the disk is saved for Windows. Also, check if mount point exists. When supermount service is running, stop the service or use -m option.	FDのアンマウントに失敗しました。FDが挿入されているか確認してください。
Failed to unmount the floppy disk. Check if it is inserted.	FDからの読み込みに失敗しました。FDが挿入されているか確認してください。また、Linux上でBuilderを使用している場合はLinux用として保存したか確認してください。
Command (tar -xf) failed. Check if the floppy disk is inserted. When using the Builder on Linux, check if the disk is saved for Linux.	

メッセージ	原因/対処法
Floppy device was already mounted. Unmount the floppy disk, and then perform operations.	フロッピーデバイスはすでにマウントされています。FDのアンマウント後に再度実行してください。
Failed to mount the floppy disk. Check if mount point exists.	FDのマウントに失敗しました。マウントポイントが存在するか確認してください。
Failed to initialize the cfmgr library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to get size from the cfmgr library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to allocate memory.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the directory.	
Failed to run the command.	
Failed to make a directory.	
Failed to remove the directory.	
Failed to remove the file.	
Failed to open the file.	
Failed to read the file.	
Failed to write the file.	
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
The upload is completed successfully. To start the cluster, refer to "How to create a cluster" in the Installation and Configuration Guide.	アップロードは成功しました。CLUSTERPROデーモンを開始するには「インストールガイド サーバを生成する」を参照して操作してください。
The upload is completed successfully. To apply the changes you made, shutdown and reboot the cluster.	アップロードは成功しました。変更を反映するためにサーバシャットダウン、再起動を実行してください。
The upload was stopped. To upload the cluster configuration data, stop the cluster.	アップロードは停止しました。構成情報をアップロードするためにはサーバを停止してください。
The upload was stopped. To upload the cluster configuration data, stop the Mirror Agent.	アップロードは停止しました。構成情報をアップロードするためにはMirrorAgentを停止してください。
The upload was stopped. To upload the cluster configuration data, stop the resources to which you made changes.	アップロードは停止しました。構成情報をアップロードするためには変更を加えたリソースを停止してください。
The upload was stopped. To upload the cluster configuration data, stop the groups to which you made changes.	アップロードは停止しました。構成情報をアップロードするためにはサーバをサスペンドする必要があります。アップロードするためには変更を加えたグループを停止してください。
The upload was stopped. To upload the cluster configuration data, suspend the cluster.	アップロードは停止しました。構成情報をアップロードするためにはサーバをサスペンドしてください。
The upload is completed successfully. To apply the changes you made, restart the Alert Sync. To apply the changes you made, restart the WebManager.	アップロードは成功しました。構成情報を反映させるためにAlertSyncサービスを再起動してください。構成情報を反映させるためにWebManagerサービスを再起動してください。

メッセージ	原因/対処法
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。
The upload is completed successfully.	アップロードは成功しました。
The upload was stopped. Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	アップロードは停止しました。構成情報の配信に失敗しました。他のサーバの起動状態を確認し、コマンドを再実行してください。
The upload was stopped. There is one or more servers that cannot be connected to. To apply cluster configuration information forcibly, run the command again with "--force" option.	アップロードは停止しました。接続できないサーバが存在します。構成情報を強制的にアップロードするためには--forceオプションを指定してコマンドを再実行してください。



## 構成情報をバックアップする (clpcfctrl --pull)

clpcfctrl --pull      構成情報をバックアップします。

### コマンドライン

```
clpcfctrl --pull [-l|w] [-p portnumber]
                  [-d device] [-m mountpoint]
                  [-x directory]
```

説明                      Builderで使用するために構成情報をバックアップします。

オプション	--pull	バックアップ時に指定します。  省略できません。
	-l	Linux上のBuilderで使用するFDにバックアップする場合に指定します。  -wと同時に指定することはできません。  -lと-wの両方を省略することはできません。
	-w	Windows上のBuilderで使用するFDにバックアップする場合に指定します。FDは1.44MB(VFAT)でフォーマットされている必要があります。  -lと同時に指定することはできません。  -lと-wの両方を省略することはできません。
	-p <i>portnumber</i>	データ転送ポートのポート番号を指定します。  省略時は初期値を使用します。通常は指定の必要はありません。
	-d <i>device</i>	FDのデバイスファイルを指定します。  /dev/fd0と異なる場合に指定します。省略時は/dev/fd0を使用します。
	-m <i>mountpoint</i>	FDのマウントポイントを指定します。  -wと共に使用します。省略時は/mnt/floppyを使用します。
	-x <i>directory</i>	FDが使用できない環境でのみ使用します。  指定したディレクトリに構成情報をバックアップします。  -lまたは-wと共に使用します。  -lを指定した場合は、Linux上のBuilderで読み込むことができる構成情報としてバックアップします。  -wを指定した場合は、Windows上のBuilderで読み込むことができる構成情報として保存します。

戻り値                      0                      成功

	0以外	異常
備考	<p>環境によっては/mnt/floppyが存在しません。存在しない場合は、/mnt/floppyを作成するか、-mオプションでマウントポイントを指定してください。</p> <p>supermountサービスが動作中であり、/mnt/floppyを使用するように設定されている場合には、/mnt/floppyを使用することができません。supermountサービスを停止するか、-mオプションで別のマウントポイントを指定してください。</p>	
注意事項	本コマンドはroot権限を持つユーザで実行してください。	
実行例	<p><b>例1:</b> Linux上のBuilderで使用するFDIにバックアップする場合</p> <pre># clpcfctrl --pull -l Command succeeded.(code:0)</pre> <p><b>例2:</b> Windows上のBuilderで使用するFDIに構成情報をバックアップする場合</p> <pre># clpcfctrl --pull -w Command succeeded.(code:0)</pre> <p><b>例3:</b> Linux上のBuilderで読み込むための構成情報を指定ディレクトリにバックアップする場合</p> <pre># clpcfctrl --pull -l -x /mnt/config Command succeeded.(code:0)</pre>	

## エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	rootユーザで実行してください。
This command is already run.	すでに起動されています。
Invalid option.	オプションが不正です。オプションを確認してください。
Invalid mode. Check if --push or --pull option is specified.	--pullを指定しているか確認してください。
The target directory does not exist.	指定されたディレクトリは存在しません。
Canceled.	コマンドの問い合わせに"y"以外を入力した場合に表示されます。
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to load the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	
Failed to change the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	
Failed to load the all.pol file. Reinstall the RPM.	CLUSTERPROサーバRPMを再インストールしてください。
Failed to load the cfctrl.pol file. Reinstall the RPM.	CLUSTERPROサーバRPMを再インストールしてください。
Failed to get the install path. Reinstall the RPM.	CLUSTERPROサーバRPMを再インストールしてください。
Failed to get the cfctrl path. Reinstall the RPM.	CLUSTERPROサーバRPMを再インストールしてください。
Failed to initialize the trncl library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to connect to server %1. Check if the other server is active and then run the command again.	サーバとの接続に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。  サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
Failed to connect to trnsv. Check if the other server is active.	サーバとの接続に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。
Failed to get configuration data. Check if the other server is active.	構成情報の取得に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。
The directory "/work" is not found. Reinstall the RPM.	CLUSTERPROサーバRPMを再インストールしてください。
Failed to make a working directory.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
The directory does not exist.	
This is not a directory.	
The source file does not exist.	
The source file is a directory.	
The source directory does not exist.	
The source file is not a directory.	

メッセージ	原因/対処法
Failed to change the character code set (EUC to SJIS).	
Failed to change the character code set (SJIS to EUC).	
Command error.	
Failed to mount the floppy disk. Check if it is inserted. When using the Builder on Linux, check if the disk is saved for Windows. Also, check if mount point exists. When supermount service is running, stop the service or use -m option.	FDのマウントに失敗しました。FDが挿入されているか確認してください。また、Linux上でBuilderを使用している場合はWindows用として保存したか確認してください。  マウントポイントが存在するか確認してください。  supermount サービスが動作中の場合は、supermountサービスを停止するか、-mオプションを使用してください。
Failed to unmount the floppy disk. Check if it is inserted.	FDのアンマウントに失敗しました。FDが挿入されているか確認してください。
Command (tar -cf) failed. Check if the floppy disk is inserted.	FDへのバックアップに失敗しました。FDが挿入されているか確認してください。
Floppy device was already mounted. Umount the floppy disk, and then perform operations.	FDはすでにマウントされています。FDのアンマウント後に再度実行してください。
Failed to mount the floppy disk. Check if mount point exists.	FDのマウントに失敗しました。マウントポイントが存在するか確認してください。
Failed to initialize the cfmgr library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to get size from the cfmgr library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to allocate memory.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the directory.	
Failed to run the command.	
Failed to make a directory.	
Failed to remove the directory.	
Failed to remove the file.	
Failed to open the file.	
Failed to read the file.	
Failed to write the file.	
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

# タイムアウトを一時調整する(clptoratio コマンド)

**clptoratio**                      現在のタイムアウト倍率の延長、表示を行います。

## コマンドライン

```
clptoratio -r ratio -t time
clptoratio -i
clptoratio -s
```

**説明**                      以下の各種タイムアウト値を一時的に延長します。

- モニタリソース
- ハートビートリソース
- アラート同期サービス
- WebManager

現在のタイムアウト倍率を表示します。

<b>オプション</b>	<b>-r <i>ratio</i></b>	タイムアウト倍率を指定します。1 以上の整数値で設定してください。最大タイムアウト倍率は10000倍です。
		「1」を指定した場合、-i オプションと同様に、変更したタイムアウト倍率を元に戻すことができます。
	<b>-t <i>time</i></b>	延長期間を指定します。 分m、時間h、日d が指定できます。最大延長期間は30日です。 例) 2m、3h、4d
	<b>-i</b>	変更したタイムアウト倍率を元に戻します。
	<b>-s</b>	現在のタイムアウト倍率を参照します。

<b>戻り値</b>	0	成功
	0 以外	異常

**備考**                      サーバシャットダウンを実行すると、設定したタイムアウト倍率は無効になります。サーバ内のサーバが1台でもシャットダウンされていなければ、設定したタイムアウト倍率、延長期間は保たれます。

-s オプションで参照できるのは、現在のタイムアウト倍率のみです。延長期間の残り時間などは参照できません。

状態表示コマンドを用いて、元のタイムアウト値を参照できます。

ハートビートタイムアウト  
# clpstat --cl --detail

モニタリソースタイムアウト  
# clpstat --mon モニタリソース名 --detail

注意事項	<p>本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。</p> <p>サーバのCLUSTERPROデーモンが起動した状態で実行してください。</p> <p>タイムアウト倍率を設定する場合、延長期間の指定は必ず行ってください。しかし、タイムアウト倍率指定に「1」を指定した場合は、延長期間を指定することはできません。</p> <p>延長期間指定に、「2m3h」などの組み合わせはできません。</p>
実行例	<p><b>例1:</b>タイムアウト倍率を3日間2倍にする場合</p> <pre data-bbox="560 701 799 723"># clptoratio -r 2 -t 3d</pre> <p><b>例2:</b>タイムアウト倍率を元に戻す場合</p> <pre data-bbox="560 797 715 819"># clptoratio -i</pre> <p><b>例3:</b>現在のタイムアウト倍率を参照する場合</p> <pre data-bbox="560 893 767 952"># clptoratio -s present toratio : 2</pre> <p>現在のタイムアウト倍率は 2 で設定されていることが分かります。</p>

# ログレベル/サイズを変更する(clplogcf コマンド)

**clplogcf**                      ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定の変更、表示を行います。

## コマンドライン

clplogcf -t *type* -l *level* -s *size*

**説明**                      ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定を変更します。  
現在の設定値を表示します。

<b>オプション</b>	-t <i>type</i>	設定を変更するモジュールタイプを指定します。  -l と -s のいずれも省略した場合は、指定したモジュールタイプに設定されている情報を表示します。指定可能なタイプは「-t オプションに指定可能なタイプ」の表を参照してください。
	-l <i>level</i>	ログレベルを指定します。  指定可能なログレベルは以下のいずれかです。  1、2、4、8、16、32  数値が大きいほど詳細なログが出力されます。  各モジュールタイプの初期値は「ログレベル、ログファイルサイズの既定値」の表を参照してください。
	-s <i>size</i>	ログを出力するファイルのサイズを指定します。  単位は byte です。
	なし	現在設定されている全情報を表示します。

<b>戻り値</b>	0	成功
	0 以外	異常

**備考**                      CLUSTERPRO X SingleServerSafe が出力するログは、各タイプで 4 つのログファイルを使用します。このため-s で指定したサイズの 4 倍のディスク容量が必要です。

**注意事項**                      本コマンドは root 権限をもつユーザで実行してください。  
  
本コマンドの実行には CLUSTERPRO イベントサービスが動作している必要があります。

実行例                    例 1:pm のログレベルを変更する場合

```
# clplogcf -t pm -l 8
```

例 2:pm のログレベル、ログファイルサイズを参照する場合

```
# clplogcf -t pm
TYPE, LEVEL, SIZE
pm, 8, 1000000
```

例 3:現在の設定値を表示する場合

```
# clplogcf
TYPE, LEVEL, SIZE
trnsv, 4, 1000000
xml, 4, 1000000
logcf, 4, 1000000
```

### エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as root.	rootユーザで実行してください。
Invalid option.	オプションが不正です。オプションを確認してください。
Failed to change the configuration. Check if clpevent is running.	clpeventが起動されていない可能性があります。
Invalid level	指定したレベルが不正です。
Invalid size	指定したサイズが不正です。
Failed to load the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	生成されていないサーバです。
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to print the configuration. Check if clpevent is running.	clpeventが起動されていない可能性があります。

### -t オプションに指定可能なタイプ

タイプ	モジュール	説明	本体	Replicator を使用し ている場合	Replicator DR を使用し ている場合
apicl	libclpapicl.so.1.0	APIクライアントライブラリ	○	○	○
apisv	libclpapisv.so.1.0	APIサーバ	○	○	○
bmccnf	clpbmccnf	BMC情報更新コマンド	○	○	○
cl	clpcl	サーバ起動、停止コマンド	○	○	○
cfctrl	clpcfctrl	サーバ生成、サーバ情報バックアップコマンド	○	○	○
cfmgr	libclpcfmgr.so.1.0	構成情報操作ライブラリ	○	○	○
cpufreq	clpcpufreq	CPUクロック制御コマンド	○	○	○
grp	clpgrp	グループ起動、停止、コマンド	○	○	○



rsc	clprsc	グループリソース起動、停止コマンド	○	○	○
haltp	clpuserw	シャットダウンストール監視	○	○	○
lcns	libclplcns.so.1.0	ライセンスライブラリ	○	○	○
lcnsc	clplcnsc	ライセンス登録コマンド	○	○	○
logcc	clplogcc	ログ収集コマンド	○	○	○
logcf	clplogcf	ログレベル、サイズ変更コマンド	○	○	○
logcmd	clplogcmd	アラート出力コマンド	○	○	○
mail	clpmail	Mail通報	○	○	○
monctrl	clpmonctrl	監視制御コマンド	○	○	○
nm	clpnm	ノードマップ管理	○	○	○
pm	clppm	プロセス管理	○	○	○
rc/rc_ex	clprc	グループ、グループリソース管理	○	○	○
reg	libclpreg.so.1.0	再起動回数制御ライブラリ	○	○	○
regctrl	clpregctrl	再起動回数制御コマンド	○	○	○
rm	clprm	モニタ管理	○	○	○
roset	clproset	ディスク制御	○	○	○
relpath	clprelpath	プロセス強制終了コマンド	○	○	○
stat	clpstat	ステータス表示コマンド	○	○	○
stdn	clpstdn	サーバシャットダウンコマンド	○	○	○
toratio	clptoratio	タイムアウト倍率変更コマンド	○	○	○
trncl	libclptrncl.so.1.0	トランザクションライブラリ	○	○	○
rexec	clprexec	外部監視連動処理要求コマンド	○	○	○
trnsv	clptrnsv	トランザクションサーバ	○	○	○
vxdgc	clpvxdgc	VxVMディスクグループ import/deportコマンド	○	○	○
alert	clpaltinsert	アラート	○	○	○
webmgr	clpwebmc	WebManager	○	○	○
webalert	clpaltd	アラート同期	○	○	○
exec	clpexec	EXECリソース	○	○	○
vm	clpvm	仮想マシンリソース	○	○	○
arpw	clparpw	ARPモニタリソース	○	○	○
diskw	clpdiskw	ディスクモニタリソース	○	○	○
ipw	clpipw	IPモニタリソース	○	○	○
miiw	clpmiiw	NIC Link Up/Downモニタリソース	○	○	○
mtw	clpmtw	マルチターゲットモニタリソース	○	○	○
pidw	clppidw	PIDモニタリソース	○	○	○

userw	clpuserw	ユーザ空間モニタリソース	○	○	○
vmw	clpvmw	仮想マシンモニタリソース	○	○	○
mrw	clpmrw	メッセージ受信モニタリソース	○	○	○
lanhb	clplanhb	LANハートビート	○	○	○
lankhb	clplankhb	カーネルモードLANハートビート	○	○	○
oraclew	clp_oraclew	Oracleモニタリソース	○	○	○
oracleasw	clp_oracleasw	OracleASモニタリソース	○	○	○
db2w	clp_db2w	DB2モニタリソース	○	○	○
psqlw	clp_psqlw	PostgreSQLモニタリソース	○	○	○
mysqlw	clp_mysqlw	MySQLモニタリソース	○	○	○
sybasew	clp_sybasew	Sybaseモニタ	○	○	○
sambaw	clp_sambaw	Sambaモニタリソース	○	○	○
nfs	clp_nfs	NFSモニタリソース	○	○	○
httpw	clp_httpw	HTTPモニタリソース	○	○	○
ftpw	clp_ftpw	FTPモニタリソース	○	○	○
smtpw	clp_smtpw	SMTPモニタリソース	○	○	○
pop3w	clp_pop3w	POP3モニタリソース	○	○	○
imap4w	clp_imap4w	IMAP4モニタリソース	○	○	○
tuxw	clp_tuxw	Tuxedoモニタリソース	○	○	○
wls	clp_wls	WebLogicモニタリソース	○	○	○
was	clp_was	WebSphereモニタリソース	○	○	○
otx	clp_otx	WebOTXモニタリソース	○	○	○

ログレベル・ログファイルサイズの既定値

タイプ	レベル	サイズ(バイト)
apicl	4	5000000
apisv	4	5000000
bmccnf	4	1000000
cfmgr	4	1000000
cl	4	1000000
cfctrl	4	1000000
cpufreq	4	1000000
grp	4	1000000
rsc	4	1000000
haltp	4	1000000
lcns	4	1000000
lcnsc	4	1000000
logcc	4	1000000
logcf	4	1000000
logcmd	4	1000000
mail	4	1000000
monctrl	4	1000000
nm	4	2000000
pm	4	1000000
rc	4	2000000
rc_ex	4	2000000
reg	4	1000000
regctrl	4	1000000
rm	4	2000000
roset	4	1000000
relpath	4	1000000
stat	4	1000000
stdn	4	1000000
toratio	4	1000000
trncl	4	2000000
trnreq	4	1000000
rexec	4	1000000
trnsv	4	2000000
vxdgc	4	1000000
alert	4	4000000
webmgr	4	1000000
webalert	4	1000000

disk	4	2000000
disk_ex	4	1000000
exec	4	1000000
nas	4	1000000
volmgr	4	1000000
vip	4	1000000
vm	4	1000000
vhost	4	1000000
bwctrl	4	1000000
arpw	4	1000000
db2w	4	1000000
diskw	4	1000000
ftpw	4	1000000
httpw	4	1000000
imap4w	4	1000000
ipw	4	1000000
miw	4	1000000
mtw	4	1000000
mysqlw	4	1000000
nfs	4	1000000
oraclew	4	1000000
oracleasw	4	1000000
otw	4	1000000
pidw	4	1000000
pop3w	4	1000000
psqlw	4	1000000
volmgrw	4	1000000
sambaw	4	1000000
smtpw	4	1000000
sybasew	4	1000000
tuxw	4	1000000
userw	4	1000000
vipw	4	1000000
vmw	4	1000000
vhostw	4	1000000
mrw	4	1000000
wasw	4	1000000
wls	4	1000000
comhb	4	1000000
diskhb	4	1000000

lanhb	4	1000000
lankhb	4	1000000
liscal ※1	-	0
clpka ※1	-	0
clpkhb ※1	-	0

※ サイズが 0 のモジュールはログを出力しません。

※1 ログは syslog に出力されます。

## ライセンスを管理する(clplcnsnc コマンド)

clplcnsnc                      ライセンスの管理を行います。

コマンドライン:

```
clplcnsnc -i [licensefile] -p productid
clplcnsnc -l -p productid
clplcnsnc -d -p productid
```

説明                      本製品の製品版・試用版ライセンスの登録、参照、削除を行います。

オプション	-i [licensefile]	ライセンスを登録します。  ライセンスファイルを指定すると、そのファイルよりライセンス情報を取得し、登録します。指定しなければ、対話形式によりライセンス情報を入力し登録します。
	-l	ライセンスを参照します。
	-d	ライセンスを削除します。
	-p productid	ライセンス製品の製品IDを指定します。

### 製品

製品ID	ライセンス製品名
XSS30	CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.0 for Linux
DBAG30	CLUSTERPRO X Database Agent 3.0 for Linux
ISAG30	CLUSTERPRO X Internet Server Agent 3.0 for Linux
FSAG30	CLUSTERPRO X File Server Agent 3.0 for Linux
ASAG30	CLUSTERPRO X Application Server Agent 3.0 for Linux
ALRT30	CLUSTERPRO X Alert Service 3.0 for Linux

戻り値	0	正常終了
	1	正常終了(ライセンス非同期状態)  ※ ライセンス登録時、サーバ内でライセンスの同期が失敗したことを意味します。  この状態での対処方法は、『インストールガイド』の「付録 ライセンス関連のトラブルシューティング」を参照してください。
	2	初期化エラー
	4	オプション不正

実行例 登録 対話形式

```
# clplcnsd -i -p BASE21
```

製品版

製品区分選択

Selection of License Version

1. Product Version

2. Trial Version

Select License Version. [1 or 2] ...

ライセンス数入力

Enter number of license [0(Virtual OS) or 1 to 99  
(default:2)] ...

シリアルNo入力

Enter serial number [ Ex. XXX0000000 ] ...

ライセンスキー入力

Enter license key

[ Ex. XXXXXXXX-XXXXXXXX-XXXXXXXX-XXXXXXXX ] ...

試用版

製品区分選択

Selection of License Version

1. Product Version

2. Trial Version

Select License Version. [1 or 2] ...

ユーザ名入力

Enter user name [ 1 to 64byte ] ...

試用開始日入力

Enter trial start date [ Ex. yyyy/mm/dd ] ...

試用終了日入力

Enter trial end date [ Ex. yyyy/mm/dd ] ...

ライセンスキー入力

Enter license key

[ Ex. XXXXXXXX-XXXXXXXX-XXXXXXXX-XXXXXXXX ] ...

ライセンスファイル指定

```
# clplcnsd -i /tmp/cpulcns.key -p XSSS30
```

参照 # clplcnsd -l -p XSSS30

製品版

< Cluster CPU License CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.0

for Linux <PRODUCT> >

Seq... 1

Key..... A1234567-B1234567-C1234567-D1234567

The number of license... 2

Status... valid

### 試用版

< Cluster CPU License CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.0 for  
Linux <TRIAL> >

Seq... 1

Key..... A1234567-B1234567-C1234567-D1234567

User name... NEC

Start date..... 2003/01/01

End date..... 2003/12/31

Status..... valid

### 注意事項

本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。

ライセンス登録時はライセンス同期を行うため、データ転送サーバの起動、サーバ生成が行われていることを確認してください。

ライセンス同期する際、サーバへの接続は以下の順で行い接続が成功した経路を使用します。

1. インタコネクトLAN側のIPアドレス
2. LANのIPアドレス
3. 構成情報のサーバ名で名前解決したIPアドレス

削除指定した製品IDのライセンス情報が複数ある場合は、その製品IDのライセンス情報は全て削除されます。



エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Command succeeded.	コマンドは成功しました。
Command failed.	コマンドは失敗しました。
Command succeeded. But the license was not applied to all the servers in the cluster because there are one or more servers that are not started up.	ダウンしているサーバが存在します。サーバ生成手順を実行してください。サーバ生成手順については、『インストール & 設定ガイド』の「第 3 章 CLUSTERPRO をインストールする」を参照してください。
Log in as root.	コマンドの実行権がありません。root 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid cluster configuration data. Check it by using the Builder.	構成情報が不正です。Builderで構成情報を確認してください。
Initialization error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
The command is already run.	コマンドは、既に実行されています。ps コマンドなどで実行状態を確認してください。
The license is not registered.	ライセンスが未登録状態です。ライセンスを登録してください。
Could not opened the license file. Check if the license file exists on the specified path.	ライセンスファイルへの I/O ができません。ライセンスファイルが指定されたパスに存在するか確認してください。
Could not read the license file. Check if the license file exists on the specified path.	
The field format of the license file is invalid. The license file may be corrupted. Check the destination from where the file is sent.	ライセンスファイルのフィールド形式が不正です。ライセンスファイルが壊れている可能性があります。ファイルの送付元に確認してください。
The cluster configuration data may be invalid or not registered.	構成情報が不正または、未登録状態が考えられます。確認してください。
Failed to terminate the library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to register the license. Check if the optional product ID and entered license information is correct.	オプションの製品IDまたは、入力したライセンス情報が正しいか確認してください。
Failed to open the license. Check if the optional product ID and entered license information is correct.	
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

## メッセージを出力する (clplogcmd コマンド)

**clplogcmd** 指定した文字列をsyslog,alertに登録する、またはmail通報するコマンドです。

### コマンドライン

```
clplogcmd -m message [--syslog] [--alert] [--mail] [-i eventID] [-l level]
```

**注:** 通常、サーバの構築や運用ではこのコマンドの実行は不要です。EXEC リソースのスクリプトに記述して使用するコマンドです。

**説明** EXECリソースのスクリプトに記述し、任意のメッセージを出力先に出力します。

<b>オプション</b>	<b>-m <i>message</i></b>	出力する文字列を <i>message</i> に指定します。省略できません。 <i>message</i> の最大サイズは511バイトです。(出力先にsyslogを指定した場合は485バイトです。) 最大サイズ以降の文字列は表示されません。
	<b>--syslog</b>	文字列には英語、数字、記号 <sup>1</sup> が使用可能です。 syslog、alert、mailの中から出力先を指定します(複数指定可能です。)
	<b>--alert</b>	このパラメータは省略可能です。省略時には
	<b>--mail</b>	syslogとalertが出力先になります。
	<b>-i <i>eventID</i></b>	イベントIDを指定します。イベントIDの最大値は10000です。 このパラメータは省略可能です。省略時にはeventIDに1が設定されます。
	<b>-l <i>level</i></b>	出力するアラートのレベルです。 ERR、WARN、INFOのいずれかを指定します。 このレベルによってWebManagerでのアラートビューのアイコンを指定します。 このパラメータは省略可能です。省略時にはlevelにINFOが設定されます。 詳細は「第1章 WebManagerの機能 WebManagerでアラートを確認する」を参照してください。

戻り値            0                            成功  
                   0 以外                    異常

注意事項        本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。  
                   出力先にmailを指定する場合、mailコマンドでmail送信ができる設定を行なってください。

## 実行例

例 1: メッセージのみ指定する場合 (出力先 syslog,alert)


EXEC リソースのスクリプトに下記を記述した場合、syslog、alert に文字列を出力します。

```
clplogcmd -m test1
```

syslog には、下記のログが出力されます。

```
Sep 1 14:00:00 server1 clusterpro: <type: logcmd><event: 1> test1
```

WebManager のアラートビューには、下記の alert が出力されます。

	Receive Time	Time ▼	Server Name	Module Name	Event ID	Message
	2004/09/01 14:00:00	2004/09/01 14:00:00	server1	logcmd	1	test1

例 2: メッセージ、出力先、イベント ID、レベルを指定する場合 (出力先 mail)

EXEC リソースのスクリプトに下記を記述した場合、Builder のクラスタプロパティで設定したメールアドレスに文字列が送信されます。

```
clplogcmd -m test2 --mail -i 100 -l ERR
```

mail の送信先には、下記の内容のメールが送信されます。

```
Message:test2
Type: logcmd
ID: 100
Host: server1
Date: 2004/09/01 14:00:00
```

<sup>1</sup> 文字列に記号を含む場合の注意点は以下のとおりです。

""で囲む必要がある記号

# & ' ( ) ~ | ; : \* < > , .  
 (例 “#”をメッセージに指定すると、#が出力されます。)

¥ を前につける必要がある記号

¥ ! " & ' ( ) ~ | ; : \* < > , .  
 (例 “¥#”をメッセージに指定すると、¥が出力されます。)

""で囲む必要がありかつ¥を前につける必要がある記号

、  
(例 “¥”をメッセージに指定すると、`が出力されます。)

- ◆ 文字列にスペースを含む場合、""で囲む必要があります。
- ◆ 文字列に % は使用できません。

# 監視リソースを制御する (clpmonctrl コマンド)

clpmonctrl                      監視リソースの制御を行います。

コマンドライン:

```
clpmonctrl -s[-m resource_name ...] [-w wait_time]
clpmonctrl -r[-m resource_name ...] [-w wait_time]
clpmonctrl -c[-m resource_name ...]
clpmonctrl -v[-m resource_name ...]
```

説明                      監視リソースの一時停止/再開を行います。

オプション	-s	監視を一時停止します。
	-r	監視を再開します。
	-c	回復動作の回数カウンタをリセットします。
	-v	回復動作の回数カウンタを表示します。
	-m resource_name ...	制御する監視リソースを単数または、複数で指定します。  省略可能で、省略時は全ての監視リソースに対して制御を行います。
	-w wait_time	監視リソース単位で監視制御を待たせます。(秒)  省略可能で、省略時は5秒が設定されます。

戻り値	0	正常終了
	1	実行権限不正
	2	オプション不正
	3	初期化エラー
	4	構成情報不正
	5	監視リソース未登録
	6	指定監視リソース不正
	10	CLUSTERPRO未起動状態
	11	CLUSTERPROデーモンサスペンド状態
	90	監視制御待ちタイムアウト
	128	二重起動
	255	その他内部エラー

実行例

監視リソース構成

```
# clpstat -m
=== MONITOR RESOURCE STATUS ===
Cluster : cluster
*server0 : server1
Monitor0 [ipw1 : Normal]
-----
server0 [o]: Online
-----
Monitor1 [miiw1: Normal]
-----
server0 [o]: Online
-----
Monitor2 [userw : Normal]
-----
server0 [o]: Online
=====
```

例1 - 4は、server1の監視リソースを制御します。

server2の監視リソースを制御する場合は、server2で本コマンドを実行してください。

**例1:**全監視リソースを一時停止する場合

```
# clpmonctrl -s
Command succeeded.
# clpstat -m
=== MONITOR RESOURCE STATUS ===
Cluster : cluster
*server0 : server1
Monitor0 [ipw1 :Caution]
-----
server0 [o]: Suspend
-----
Monitor1 [miiw1:Caution]
-----
server0 [o]: Suspend
-----
Monitor2 [userw :Caution]
-----
server0 [o]: Suspend
=====
```

**例2:全監視リソースを再開する場合**

```
# clpmonctrl -r
Command succeeded.
# clpstat -m
=== MONITOR RESOURCE STATUS ===
Cluster : cluster
*server0 : server1
```

```
Monitor0 [ipw1 :Normal]
-----
server0 [o]:      Online
-----
Monitor1 [miiw1:Normal]
-----
server0 [o]:      Online
-----
Monitor2 [userw :Normal]
-----
server0 [o]:      Online
=====
```

**例3:全監視リソースの回復動作の回数カウンタを表示する場合**

```
# clpmonctrl -v
-----
Resource           : ipw1
Failover Count      : 3/3
Restart Count       : 1/1
Final Action Count  : 0[No Operation]
-----
Resource           : miiw1
Failover Count      : 1/1
Restart Count       : 0/0
Final Action Count  : 0[No Operation]
-----
Resource           : userw
Failover Count      : 0/0
Restart Count       : 0/0
Final Action Count  : 0[-]
-----

Command succeeded.
```

**例4:**全監視リソースの回復動作の回数カウンタをリセットする場合

```
# clpmonctrl -c
Command succeeded.
# clpmonctrl -v
-----
Resource                : ipw1
Failover Count          : 0/3
Restart Count           : 0/1
Final Action Count      : 0[No Operation]
-----
Resource                : miiw1
Failover Count          : 0/1
Restart Count           : 0/0
Final Action Count      : 0[No Operation]
-----
Resource                : userw
Failover Count          : 0/0
Restart Count           : 0/0
Final Action Count      : 0[-]
-----

Command succeeded.
```

**例5:**IPモニタリソース(ipw1)のみを一時停止する場合

```
# clpmonctrl -s -m ipw1
Command succeeded.
# clpstat -m
=== MONITOR RESOURCE STATUS ===
Cluster : cluster
*server0 : server1

Monitor0 [ipw1 :Caution]
-----
server0 [o]:      Suspend

Monitor1 [miiw1:Normal]
-----
server0 [o]:      Online

Monitor2 [userw :Normal]
-----
server0 [o]:      Online
=====
```



**例6:IPモニタリソース(ipw1)のみを再開する場合**

```
# clpmonctrl -r -m ipw1
Command succeeded.
# clpstat -m
=== MONITOR RESOURCE STATUS ===
Cluster : cluster
*server0 : server1
  Monitor0 [ipw1 :Normal]
  -----
  server0 [o]:      Online
  Monitor1 [miiw1:Normal]
  -----
  server0 [o]:      Online
  Monitor2 [userw :Normal]
  -----
  server0 [o]:      Online
=====
```

**例7:IPモニタリソース(ipw1)の回復動作の回数カウンタを表示する場合**

```
# clpmonctrl -v -m ipw1
-----
Resource                               : ipw1
Failover Count                         : 3/3
Restart Count                         : 1/1
Final Action Count                     : 0[No Operation]
-----

Command succeeded.
```

**例8:IPモニタリソース(ipw1)の回復動作の回数カウンタをリセットする場合**

```
# clpmonctrl -c -m ipw1
Command succeeded.
# clpmonctrl -v -m ipw1
-----
Resource                               : ipw1
Failover Count                         : 0/3
Restart Count                         : 0/1
Final Action Count                     : 0[No Operation]
-----

Command succeeded.
```

**備考** 既に一時停止状態にある監視リソースに一時停止を行った場合や既に起動済状態にある監視リソースに再開を行った場合は、本コマンドは正常終了し、監視リソース状態は変更しません。

**注意事項** 本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。

監視リソースの状態は、状態表示コマンドまたは WebManagerで確認してください。

clpstatコマンドまたは、WebManagerで監視リソースの状態が"起動済"または、"一時停止"であることを確認後、実行してください。

## グループリソースを制御する (clprsc コマンド)

**clprsc**                      グループリソースの制御を行います。

コマンドライン:

```
clprsc -s resource_name [-f]
```

```
clprsc -t resource_name [-f]
```

**説明**                      グループリソースを起動/停止します。

**オプション**

-s	グループリソースを起動します。
-t	グループリソースを停止します。
-f	グループリソース起動時は、指定したグループリソースが依存する全グループリソースを起動します。  グループリソース停止時は、指定したグループリソースに依存している全グループリソースを停止します。

**戻り値**

0	正常終了
0以外	異常終了

**実行例**                      グループリソース構成

```
# clpstat
===== CLUSTER STATUS =====
Cluster : cluster
<server>
  *server1..... : Online
    lanhb1..... : Normal
    lanhb2..... : Normal
<group>
  ManagementGroup..... : Online
    current..... : server1
    ManagementIP..... : Online
  failover1..... : Online
    current..... : server1
    exec1..... : Online
<monitor>
  ipw1..... : Normal
=====
```

例1:グループfailover1のリソースexec1を停止する場合

```
# clprsc -t exec1
Command succeeded.

# clpstat
===== CLUSTER STATUS =====
<省略>
```

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.0 for Linux 操作ガイド

```
<group>
  ManagementGroup.....: Online
    current              : server1
    ManagementIP         : Online
  failover1 .....: Online
    current              : server1
    exec1                : Offline
```

<省略>

例2:グループfailover1のリソースfip1を起動する場合

```
# clprsc -s exec1
```

Command succeeded.

```
# clpstat
```

```
===== CLUSTER STATUS =====
```

<省略>

```
<group>
  ManagementGroup.....: Online
    current              : server1
    ManagementIP         : Online
  failover1 .....: Online
    current              : server1
    exec1                : Online
```

<省略>

#### 注意事項

本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。

グループリソースの状態は、状態表示コマンドまたは WebManagerで確認してください。

## ネットワーク警告灯を消灯する (clplamp コマンド)

**clplamp**                      ネットワーク警告灯を消灯します。

コマンドライン:

clplamp

**説明**                      サーバ用のネットワーク警告灯を消灯します。

**オプション**              なし

<b>戻り値</b>	0	正常終了
	0以外	異常終了

**注意事項**              本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。

# CPU クロックを制御する (clpcpufreq コマンド)

clpcpufreq		CPUクロックの制御を行います。	
コマンドライン:			
clpcpufreq --high			
clpcpufreq --low			
clpcpufreq -i			
clpcpufreq -s			
説明	CPUクロック制御による省電力モードの有効化/無効化を制御します。		
オプション	--high	CPUクロック数を最大にします。	
	--low	CPUクロック数を下げて省電力モードにします。	
	-i	CPU ク ロ ッ ク の 制 御 を CLUSTERPRO X SingleServerSafe に戻します。	
	-s	現在の設定状態を表示します。	
		<ul style="list-style-type: none"><li>• performance クロック数を最大にしています。</li><li>• powersave クロック数を下げて省電力モードにしています。</li></ul>	
戻り値	0	正常終了	
	0以外	異常終了	
備考	CPUクロック制御用ドライバがロードされていない場合にはエラーとなります。  サーバのプロパティの省電力の設定で、「CPUクロック制御機能を使用する」にチェックを入れていない場合、本コマンドを実行するとエラーとなります。		
注意事項	本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。  CPUクロック制御機能を使用する場合、BIOSの設定でクロックの変更が可能になっていることと、CPUがOSの電源管理機能によるクロック制御をサポートしていることと、カーネルが対応していることが必要となります。		

## クラスタ間連携を行う (clptrnreq コマンド)

clptrnreq                      サーバへ処理実行を要求します。

コマンドライン:

```
clptrnreq -t request_code -h IP [-r resource_name] [-s script_file] [-w timeout]
```

説明                      指定した処理実行要求を他クラスタのサーバに発行します。

オプション	-t request_code	<p>実行する処理のリクエストコードを指定します。以下のリクエストコードを指定することができます。</p> <p>GRP_FAILOVER      グループフェイルオーバー</p> <p>EXEC_SCRIPT      スクリプトの実行</p>
	-h IP	<p>処理実行要求を発行するサーバをIPアドレスで指定します。カンマ区切りで複数指定することが可能です。指定可能なIPアドレスの最大数は32です。</p> <p>リクエストコードにグループフェイルオーバーを指定する場合、クラスタ内の全てのサーバのIPアドレスを指定してください。</p>
	-r resource_name	<p>リクエストコードにGRP_FAILOVERを指定した場合に、処理要求の対象となるグループに属するリソース名を指定します。</p> <p>GRP_FAILOVERを指定した場合、-rは省略できません。</p>
	-s script_file	<p>リクエストコードにEXEC_SCRIPTを指定した場合に、実行するスクリプト(シェルスクリプトや実行可能ファイル等)のファイル名を指定します。スクリプトは-hで指定した各サーバのCLUSTERPROインストールディレクトリ配下のwork/trnreqディレクトリに作成しておく必要があります。</p> <p>EXEC_SCRIPTを指定した場合、-sは省略できません。</p>
	-w timeout	<p>コマンドのタイムアウト値を秒単位で指定します。</p> <p>タイムアウト値で指定可能な最小値は5秒です。</p> <p>-wオプションを指定しない場合、30秒待ち合わせます。</p>

戻り値	0	正常終了
	0以外	異常終了

**注意事項**                      本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。

-hで指定するIPアドレスのサーバ上でCLUSTERPRO データ転送サービスが起動していない場合は実行できません。また、この対象サーバ側でクライアントIPアドレスによってWebManagerの接続制限を行っている場合、コマンドを実行するサーバのアドレスに対して接続が許可されている必要があります。

**実行例**

**例1:** 他クラスタのexec1リソースを持つグループをフェイルオーバーさせる場合

```
# clptrnreq -t GRP_FAILOVER -h 10.0.0.1,10.0.0.2 -r exec1
```

Command succeeded.

**例2:** IPアドレス10.0.0.1のサーバにスクリプトscript1.shを実行させる場合

```
# clptrnreq -t EXEC_SCRIPT -h 10.0.0.1 -s script1.sh
```

Command Succeeded.

## エラーメッセージ

メッセージ	原因／対処
Log in as root.	root権限を持つユーザで実行してください。
Invalid option.	コマンドラインオプションが不正です。正しいオプションを指定してください。
Could not connect to the data transfer servers. Check if the servers have started up.	サーバが起動しているか確認してください。
Could not connect to all data transfer server. Check if the servers have started up.	クラスタ内の全てのサーバが起動しているか確認してください。
Command timeout.	OSに負荷がかかっているなどの原因が考えられます。確認してください。
All servers are busy. Check if this command is already run.	既に本コマンドを実行している可能性があります。確認してください。
GRP_FAILOVER %s : Group that specified resource(%s) belongs to is offline.	指定されたリソースが属するグループは停止状態のため、フェイルオーバー処理は行われませんでした。
EXEC_SCRIPT %s : Specified script(%s) does not exist.	指定したスクリプトが存在しません。確認してください。
EXEC_SCRIPT %s : Specified script(%s) does not executable.	指定したスクリプトが実行できませんでした。実行権限があるか確認してください。
%s %s : This server is not permitted to execute clptrnreq.	コマンドを実行したサーバに実行権限がありません。WebManagerの接続制限のIP一覧に登録されているか確認してください。
GRP_FAILOVER %s : Specified resource(%s) does not exist.	指定したリソースが存在しません。確認してください。
%s %s : %s failed in execute..	指定された処理実行に失敗しました。
Internal error. Check if memory or OS resource is sufficient.	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

## クラスターサーバに処理を要求する(clprexec コマンド)

**clprexec** CLUSTERPROがインストールされた他サーバへ処理実行を要求します。

コマンドライン:

```
clprexec --failover [group_name] -h IP [-r resource_name] [-w timeout] [-p port_number]
[-o logfile_path]
```

```
clprexec --script script_file -h IP [-p port_number] [-w timeout] [-o logfile_path]
```

```
clprexec --notice [mrw_name] -h IP [-k category[keyword]] [-p port_number] [-w timeout]
[-o logfile_path]
```

```
clprexec --clear [mrw_name] -h IP [-k category[keyword]] [-p port_number] [-w
timeout] [-o logfile_path]
```

**説明** 従来のclptnreqコマンドに外部監視からCLUSTERPROサーバへ処理要求を発行する機能(異常発生通知)などを追加したコマンドです。

<b>オプション</b>	<b>--failover</b>	<p>グループフェイルオーバー要求を行います。 group_nameにはグループ名を指定してください。</p> <p>グループ名を省略する場合は、-rオプションによりグループに属するリソース名を指定してください。</p>
	<b>--script script_name</b>	<p>スクリプト実行要求を行います。</p> <p>script_nameには、実行するスクリプト(シェルスクリプトや実行可能ファイル等)のファイル名を指定します。</p> <p>スクリプトは -h で指定した各サーバのCLUSTERPRO インストールディレクトリ配下のwork/rexec ディレクトリ配下に作成しておく必要があります。</p>
	<b>--notice</b>	<p>CLUSTERPROサーバへ異常発生通知を行います。</p> <p>mrw_nameにはメッセージ受信モニタリソース名を指定してください。</p> <p>モニタリソース名を省略する場合は、-kオプションでメッセージ受信モニタリソースのカテゴリ、キーワードを指定してください。</p>
	<b>--clear</b>	<p>メッセージ受信モニタリソースのステータスを”異常”から”正常”へ変更する要求を行います。</p> <p>mrw_nameにはメッセージ受信モニタリソース名を指定してください。</p> <p>モニタリソース名を省略する場合は、-kオプションでメッセージ受信モニタリソースのカテゴリ、キーワードを指定してください。</p>
	<b>-h IP Address</b>	<p>処理要求発行先のCLUSTERPROサーバのIPアドレスを指定してください。</p> <p>カンマ区切りで複数指定可能、指定可能なIPアドレス</p>

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.0 for Linux 操作ガイド



		数は32個です。
		※ 本オプションを省略する場合、処理要求発行先は自サーバになります。
-r resource_name		--failoverオプションを指定する場合に、処理要求の対象となるグループに属するリソース名を指定します。
-k category[.keyword]		--noticeまたは--clearオプションを指定する場合、categoryに外部連携モニタリソースに設定しているカテゴリを指定してください。
		外部連携モニタリソースのキーワードを指定する場合は、categoryのあとにドット区切りで指定してください。
-p port_number		ポート番号を指定します。
		port_numberに処理要求発行先サーバに設定されているデータ転送ポート番号を指定してください。
		本オプションを省略した場合、デフォルト29002を使用します。
-o logfile_path		logfile_pathには、本コマンドの詳細ログを出力するファイルpathを指定します。
		ファイルにはコマンド1回分のログが保存されます。
		※ CLUSTERPROがインストールされていないサーバで本オプションを指定しない場合、標準出力のみとなります。
-w timeout		コマンドのタイムアウトを指定します。指定しない場合は、デフォルト30秒です。
		5～MAXINTまで指定可能です。
戻り値	0	正常終了
	0以外	異常終了
注意事項	<p>clprexecコマンドを使って異常発生通知を発行する場合、CLUSTERPROサーバ側で実行させたい異常時動作を設定したメッセージ受信モニタリソースを登録/起動しておく必要がある。</p> <p>コマンド実行時に、コマンドのバージョンを標準出力する。</p> <p>--scriptオプションで指定された文字列に"¥"、"/"または".. "が含まれているかどうかのチェックを行う。(相対path指定をNGとするため)</p> <p>-hオプションで指定するIPアドレスを持つサーバは、下記の条件を満たす必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>= CLUSTERPRO X3.0以降がインストールされていること</li> <li>= CLUSTERPROが起動していること</li> <li>= mrwが設定/起動されていること</li> <li>= TransactionServerが起動していること</li> </ul>	
実行例	<p><b>例1:</b> CLUSTERPROサーバ1(10.0.0.1)に対して、グループfailover1のフェイルオーバー要求を発行する場合</p>	

```
# clprexec --failover failover1 -h 10.0.0.1 -p 29002
```

**例2:** CLUSTERPROサーバ1(10.0.0.1)に対して、グループリソース(exec1)が属するグループのフェイルオーバー要求を発行する場合

```
# clprexec --failover -r exec1 -h 10.0.0.1
```

**例3:** CLUSTERPROサーバ1(10.0.0.1)に対して、スクリプト(script1.sh)実行要求を発行する場合

```
# clprexec --script script1.sh -h 10.0.0.1
```

**例4:** CLUSTERPROサーバ1(10.0.0.1)に対して異常発生通知を発行する

※ mrw1設定 カテゴリ:earthquake、キーワード:scale3

- 外部連携モニタリソース名を指定する場合

```
# clprexec --notice mrw1 -h 10.0.0.1 -w 30 -p /tmp/clprexec/lprexec.log
```

- 外部連携モニタリソースに設定されているカテゴリとキーワードを指定する場合

```
# clprexec --notice -h 10.0.0.1 -k earthquake.scale3 -w 30 -p /tmp/clprexec/clprexec.log
```

**例5:** CLUSTERPROサーバ1(10.0.0.1)に対してmrw1のモニタステータス変更要求を発行する

※ mrw1の設定 カテゴリ:earthquake、キーワード:scale3

- 外部連携モニタリソース名を指定する場合

```
# clprexec --clear mrw1 -h 10.0.0.1
```

- 外部連携モニタリソースに設定されているカテゴリとキーワードを指定する場合

```
# clprexec --clear -h 10.0.0.1 -k earthquake.scale3
```

# BMC 情報を変更する(clpbmccnf コマンド)

**clpbmccnf** BMCユーザ名・パスワード情報を変更します。

コマンドライン:

```
clpbmccnf [-u username] [-p password]
```

**説明** CLUSTERPROが使用するベースボード管理コントローラー (BMC) のLANアクセス用のユーザ名/パスワードを変更します。

<b>オプション</b>	<b>-u <i>username</i></b>	CLUSTERPROが使用するBMC LANアクセス用のユーザ名を指定します。root権限を持つユーザ名を指定する必要があります。
		-uオプションは省略可能です。省略時に-pオプションが指定されている場合、ユーザ名は現在設定されている値を使用します。オプション指定がない場合は対話形式で設定します。
	<b>-p <i>password</i></b>	CLUSTERPROが使用するBMC LANアクセス用のパスワードを指定します。-pオプションは省略可能です。省略時に-uオプションが指定されている場合、パスワードは現在設定されている値を使用します。オプション指定がない場合は対話形式で設定します。

<b>戻り値</b>	0	正常終了
	0以外	異常終了

**注意事項**

- 本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。
- 本コマンドはサーバが正常な状態で実行してください。
- 本コマンドによるBMC情報の更新は、次回サーバ起動時／リジューム時に有効になります。
- 本コマンドはBMCの設定を変更するものではありません。BMCのアカウント設定の確認・変更にはサーバ付属のツールかIPMI規格に準拠した他のツールを使用してください。

実行例            server1のBMCのIPMIアカウントのパスワードをmypasswordに変更した場合、  
server1上で下記を実行します。

```
# clpbmccnf -p mypassword
```

または、以下のように対話形式で入力します。

```
# clpbmccnf
```

New user name: ←変更がない場合はリターンキーを押下してスキップ

New password: \*\*\*\*\*

Retype new password: \*\*\*\*\*

Cluster configuration updated successfully.

## 再起動回数を制御する(clpregctrl コマンド)

**clpregctrl**                      再起動回数制限の制御を行います。

コマンドライン:

clpregctrl --get

clpregctrl -g

clpregctrl --clear -t *type* -r *registry*

clpregctrl -c -t *type* -r *registry*

説明                      サーバ上で再起動回数の表示/初期化をおこないます。

オプション	-g, --get	再起動回数情報を表示します。
	-c, --clear	再起動回数を初期化します。
	-t <i>type</i>	再起動回数を初期化するタイプを指定します。指定可能なタイプはrcまたはrmです。
	-r <i>registry</i>	レジストリ名を指定します。指定可能なレジストリ名はhaltcountです。

戻り値	0	正常終了
	1	実行権限不正
	2	二重起動
	3	オプション不正
	4	構成情報不正
	10～17	内部エラー
	20～22	再起動回数情報取得失敗
	90	メモリアロケート失敗
	91	ワークディレクトリ変更失敗

実行例           再起動回数情報表示

```
# clpregctrl -g

*****
-----
type      : rc
registry  : haltcount
comment   : halt count
kind      : int
value     : 0
default   : 0

-----
type      : rm
registry  : haltcount
comment   : halt count
kind      : int
value     : 3
default   : 0

*****
Command succeeded.(code:0)
#
```

例1、2は、再起動回数を初期化します。

**例1:グループリソース異常による再起動回数を初期化する場合**

```
# clpregctrl -c -t rc -r haltcount
Command succeeded.(code:0)
#
```

**例2:モニタリソース異常による再起動回数を初期化する場合**

```
# clpregctrl -c -t rm -r haltcount
Command succeeded.(code:0)
#
```

注意事項           本コマンドは、root権限を持つユーザで実行してください。

## セクション III リリースノート

このセクションでは、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の制限事項や、既知の問題とその回避策について説明します。

- 第 3 章 注意制限事項
- 第 4 章 エラーメッセージ一覧





## 第 3 章                    注意制限事項

本章では、注意事項や既知の問題とその回避策について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- システム運用後 ..... 114
- WebManagerについて ..... 116

## システム運用後

運用を開始した後に発生する事象で留意して頂きたい事項です。

### ドライバロード時のメッセージについて

clpka ドライバを load した際に、以下のメッセージがコンソール、syslog に表示されることがあります。この現象は異常ではありません。

```
kernel: clpka: no version for "struct_module" found: kernel tainted.  
kernel: clpka: module license 'unspecified' taints kernel.
```

### ipmi のメッセージについて

ユーザ空間モニタリソースに IPMI を使用する場合、syslog に下記の kernel モジュール警告ログが多数出力されます。

```
modprobe: modprobe: Can't locate module char-major-10-173
```

このログ出力を回避したい場合は、/dev/ipmikcs を rename してください。

### 回復動作中の操作制限

モニタリソースの異常検出時の設定で回復対象にグループリソース(EXEC リソース、仮想マシンリソース)を指定し、モニタリソースが異常を検出した場合の回復動作遷移中(再活性化 → 最終動作)には、以下のコマンドまたは、WebManager からのサーバ及びグループへの制御は行わないでください。

- ◆ サーバの停止 / サスペンド
- ◆ グループの開始 / 停止

モニタリソース異常による回復動作遷移中に上記の制御を行うと、そのグループの他のグループリソースが停止しないことがあります。

また、モニタリソース異常状態であっても最終動作実行後であれば上記制御を行うことが可能です。

### コマンドリファレンスに記載されていない実行形式ファイルやスクリプトファイルについて

インストールディレクトリ配下にコマンド編に記載されていない実行形式ファイルやスクリプトファイルがありますが、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 以外からは実行しないでください。

実行した場合の影響については、サポート対象外となります。

### ログ収集時のメッセージ

ログ収集を実行した場合、コンソールに以下のメッセージが表示されることがありますが、異常ではありません。ログは正常に収集されています。

```
hd#: bad special flag: 0x03
ip_tables: (C) 2000-2002 Netfilter core team
```

(hd#にはサーバ上に存在する IDE のデバイス名が入ります)

```
kernel: Warning: /proc/ide/hd?/settings interface is obsolete,
and will be removed soon!
```

## サービス起動／停止用スクリプトについて

以下の場合に、サービスの起動／停止スクリプトでエラーが出力されます。

- ◆ CLUSTERPRO Server インストール直後(SUSE Linux の場合)  
OSシャットダウン時に下記のサービス停止スクリプトでエラーが出力されます。各サービスが起動されていないことが原因で出力されるエラーのため問題はありません。
  - clusterpro\_alertsync
  - clusterpro\_webmgr
  - clusterpro
  - clusterpro\_trn
  - clusterpro\_evt
- ◆ サービスの手動停止後のOSシャットダウン(SUSE Linux の場合)  
clpclコマンドやWebManagerからサービスを停止後、OSシャットダウン時に停止したサービスの停止スクリプトでエラーが出力されます。サービスが停止していることが原因で出力されるエラーのため問題はありません。
  - clusterpro

以下の場合に、サービスの停止スクリプトが不正な順序で実行されます。

- ◆ `chkconfig --del name` を実行し全サービスを無効化した後のOSシャットダウン  
CLUSTERPROのサービスを無効化した後、OSシャットダウン時にCLUSTERPROのサービスが不正な順序で停止されます。OSシャットダウン時に無効化したCLUSTERPROのサービスが停止されないことが原因で発生します。  
WebManagerから実行するサーバシャットダウンや、`clpstdn`コマンドなどCLUSTERPROのコマンドを使用しているサーバシャットダウンの場合は不正な順序で停止されても問題ありません。

## EXECリソースで使用するスクリプトファイルについて

EXEC リソースで使用するスクリプトファイルはサーバ上の下記のディレクトリに配置されます。

`/インストールパス/scripts/グループ名/EXEC リソース名/`

構成変更時に下記の変更を行った場合、変更前のスクリプトファイルはサーバ上からは削除されません。

- EXEC リソースを削除した場合や EXEC リソース名を変更した場合
- EXEC リソースが所属するグループを削除した場合やグループ名を変更した場合

変更前のスクリプトファイルが必要ない場合は、削除しても問題ありません。

## 活性時監視設定のモニタリソースについて

活性時監視設定のモニタリソースの一時停止／再開には下記の制限事項があります。

- ◆ モニタリソースの一時停止後、監視対象リソースを停止させた場合モニタリソースは停止状態となります。そのため、監視の再開はできません。
- ◆ モニタリソースを一時停止後、監視対象リソースを停止/起動させた場合、監視対象リソースが起動したタイミングで、モニタリソースによる監視が開始されます。

## WebManagerについて

- ◆ WebManager で表示される内容は必ずしも最新の状態を示しているわけではありません。最新の情報を取得したい場合、ツールバーの [リロード] アイコン、または [ツール] メニューの [リロード] をクリックして最新の情報を取得してください。
- ◆ WebManager が情報を取得している間にサーバダウンが発生すると、情報の取得に失敗し、一部オブジェクトが正しく表示されない場合があります。次の自動更新まで待つか、ツールバーの [リロード] アイコン、または [ツール] メニューの [リロード] をクリックして最新の情報を再取得してください。
- ◆ Linux上のブラウザを利用する場合、ウィンドウマネージャの組み合わせによっては、ダイアログが背後に回ってしまう場合があります。[ALT]+[TAB]キーなどでウィンドウを切り替えてください。
- ◆ CLUSTERPRO X SingleServerSafe のログ収集は複数のWebManagerから同時に実行することはできません。
- ◆ 接続先と通信できない状態で操作を行うと、制御が戻ってくるまでしばらく時間がかかる場合があります。
- ◆ マウスポインタが処理中を表す腕時計や砂時計になっている状態で、ブラウザ外にカーソルを移動すると、処理中であってもカーソルが矢印の状態に戻ってしまうことがあります。
- ◆ ログ収集を実行すると、サーバ側のコンソールに以下のようなメッセージが表示される場合があります。

```
hda: bad special flag: 0x03
ip_tables: (C) 2000-2002 Netfilter core team
```

ログ収集に問題はありませんので、本メッセージは無視してください。

- ◆ Proxy サーバを経由する場合は、WebManager のポート番号を中継できるように、Proxy サーバの設定をしてください。
- ◆ CLUSTERPRO X SingleServerSafe のアップデートを行なった場合は、ブラウザを終了し、Java のキャッシュをクリアしてからブラウザを再起動してください。

## Builder について

- ◆ 以下の製品とは構成情報の互換性がありません。
  - CLUSTERPRO X SingleServerSafe 3.0 for Linux 以外の Builder
- ◆ Webブラウザを終了すると(ファイルメニューの[終了]やウィンドウフレームの[X]ボタン等)、現在の編集内容が破棄されます。構成を変更した場合でも保存の確認ダイアログが表示されません。  
編集内容の保存が必要な場合は、終了する前に、Builderのメニューバーの [ファイル] – [設定のエクスポート] を行ってください。
- ◆ Webブラウザをリロードすると(メニューの[最新の情報に更新]やツールバーの[現在のページを再読み込み]ボタン等)、現在の編集内容が破棄されます。構成を変更した場合でも保存の確認ダイアログが表示されません。  
編集内容の保存が必要な場合は、リロードする前に、Builder のメニューバーの [ファイル]-[設定のエクスポート]を行ってください。
- ◆ Builderでの構成情報作成時には下記の点に注意してください。
  - 数値を入力するテキストボックス  
0 で始まる数値は入力しないでください。  
例えば、タイムアウトに 10 秒を設定する場合には「010」ではなく、「10」を入力してください。



## 第 4 章 エラーメッセージ一覧

本章では、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 運用中に表示されるエラーメッセージの一覧について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

• syslog、アラート、メール通報メッセージ .....	120
• ドライバのsyslogメッセージ .....	155
• グループリソース活性/非活性時の詳細情報.....	159
• モニタリソース異常時の詳細情報.....	161

## syslog、アラート、メール通報メッセージ

CLUSTERPRO X SingleServerSafe のメッセージは以下の通りです。

注: syslog に facility = daemon(0x00000018), identity = “clusterpro” で出力します。以下の表の「イベント分類」が syslog のログレベルに相当します。

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
sss	エラー	8	Failed to update config file.	コンフィグファイルの更新が失敗しました。	構成情報を確認してください。	●	●	
sss	情報	10	Updated config file successfully.	コンフィグファイルが更新されました。	—		●	
sss	エラー	12	Information in config file is invalid.	コンフィグファイルの内容が不正です。	構成情報を確認してください。		●	
sss	エラー	14	Failed to obtain server name.	サーバ名の取得が失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。		●	
sss	情報	16	Server name is updated.	サーバ名が更新されました。	—	●	●	
pm	情報	1	Starting the cluster daemon...	CLUSTERPRO デーモンが正常に起動されました。	—	●	●	
pm	情報	2	Shutting down the cluster daemon...	CLUSTERPRO デーモンを停止しています。	—	●	●	
pm	情報	3	Shutdown monitoring is started...	シャットダウン監視が開始されました。	—	●	●	
pm	エラー	10	The cluster daemon has already started.	CLUSTERPRO デーモンは、既に起動されています。	CLUSTERPRO デーモンの状態を確認してください。	●	●	
pm	エラー	11	A critical error occurred in the cluster daemon.	CLUSTERPRO デーモンで重大なエラーが発生しました。	実行ユーザが root 権限を持っていないか或いは、メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●
pm	エラー	12	A problem was detected in XML library.	XML ライブラリ内で問題が検出されました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	
pm	エラー	13	A problem was detected in cluster configuration data.	構成情報で問題が検出されました。	Builder で構成情報を確認してください。	●	●	●
pm	エラー	14	No cluster configuration data is found.	構成情報が存在しません。	Builder でサーバ構成を作成し、サーバにアップロードしてください。	●	●	



モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
pm	エラー	15	No information about this server is found in the cluster configuration data.	自サーバが構成情報に存在しません。	Builder で構成情報を確認してください。	●	●	
pm	エラー	20	Process %1 was terminated abnormally.	%1 プロセスが異常終了しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●
pm	エラー	21	The system will be stopped because the cluster daemon process terminated abnormally.	CLUSTERPRO デーモンのプロセスが異常終了したため、システムを停止します。	グループリソースの非活性失敗が考えられます。グループリソースのメッセージに従って対処をおこなってください。	●	●	
pm	エラー	22	An error occurred when initializing process %1.(return code:%2)	%1 プロセスの初期化エラーです。	イベントプロセスが起動されていない事が考えられます。	●	●	●
pm	情報	23	The system will be stopped.	システムを停止します。	—	●	●	
pm	情報	24	The cluster daemon will be stopped.	CLUSTERPRO デーモンを停止します。	—	●	●	
pm	情報	25	The system will be rebooted.	システムを再起動します。	—	●	●	
pm	情報	26	Process %1 will be restarted.	%1 プロセスを再起動します。	—	●	●	
pm	情報	30	Received a request to stop the system from %1.	%1 からシステム停止要求を受け取りました。	—	●	●	
pm	情報	31	Received a request to stop the cluster daemon from %1.	%1 から CLUSTERPRO デーモン停止要求を受け取りました。	—	●	●	
pm	情報	32	Received a request to reboot the system from %1.	%1 からシステム再起動要求を受け取りました。	—	●	●	
pm	情報	33	Received a request to restart the cluster daemon from %1.	%1 から CLUSTERPRO デーモン再起動要求を受け取りました。	—	●	●	
pm	情報	34	Received a request to resume the cluster daemon from %1.	%1 からサーバリジューム要求を受け取りました。	—	●	●	
pm	情報	35	Received a request to suspend the cluster daemon from %1.	%1 からサーバサスペンド要求を受け取りました。	—	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
pm	情報	36	Received a request to panic by sysrq from %1.	%1 から sysrq によるパニック要求を受け取りました。	—	●	●	
pm	情報	37	Received a request to reset by keepalive driver from %1.	%1 から keepalive ドライバによるリセット要求を受け取りました。	—	●	●	
pm	情報	38	Received a request to panic by keepalive driver from %1.	%1 から keepalive ドライバによるパニック要求を受け取りました。	—	●	●	
pm	情報	39	Received a request to reset by BMC from %1.	%1 から BMC によるリセット要求を受け取りました。	—	●	●	
pm	情報	40	Received a request to power down by BMC from %1.	%1 から BMC によるパワーダウン要求を受け取りました。	—	●	●	
pm	情報	41	Received a request to power cycle by BMC from %1.	%1 から BMC によるパワーサイクル要求を受け取りました。	—	●	●	
pm	情報	42	Received a request to send NMI by BMC from %1.	%1 から BMC による NMI 送信要求を受け取りました。	—	●	●	
pm	エラー	66	An attempt to panic by sysrq from %1 failed.	%1 からの sysrq によるパニックをしようとしたが、失敗しました。	sysrq が使用できるようにシステムが構成されているか確認してください。	●	●	
pm	エラー	67	An attempt to reset by keepalive driver from %1 failed.	%1 からの keepalive ドライバによるリセットをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●	
pm	エラー	68	An attempt to panic by keepalive driver from %1 failed.	%1 からの keepalive ドライバによるパニックをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●	
pm	エラー	69	An attempt to reset by BMC from %1 failed.	%1 からの BMC によるリセットをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●	
pm	エラー	70	An attempt to power down by BMC from %1 failed.	%1 からの BMC によるパワーダウンをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
pm	エラー	71	An attempt to power cycle by BMC from %1 failed.	%1 からの BMC によるパワーサイクルをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●	
pm	エラー	72	An attempt to send NMI by BMC from %1 failed.	%1 からの BMC による NMI 送信をしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●	
nm	情報	1	Server %1 has started.	サーバ %1 が起動しました。	—	●	●	
nm	情報	2	Server %1 has been stopped.	サーバ %1 が停止しました。	—	●	●	●
nm	情報	3	Resource %1 of server %2 has started.	サーバ %2 の %1 リソースが起動しました。	—	●	●	
nm	情報	4	Resource %1 of server %2 has stopped.	サーバ %2 の %1 リソースが停止しました。	—	●	●	
nm	情報	5	Waiting for all servers to start.	サーバの起動待ち合わせを開始しました。	—	●	●	
nm	情報	6	All servers have started.	サーバが起動しました。	—	●	●	
nm	情報	7	Timeout occurred during the wait for startup of all servers.	全サーバの起動待ち合わせがタイムアウトしました。	—	●	●	
nm	エラー	8	Timeout occurred during the wait for startup of all servers. (Cannot communicate with some servers.)	全サーバの起動待ち合わせがタイムアウトしました。(いくつかのサーバとの内部通信ができない状態です。)	ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。	●	●	
nm	情報	9	Waiting for startup of all servers has been canceled.	サーバの起動待ち合わせをキャンセルしました。	—	●	●	
nm	エラー	10	Status of resource %1 of server %2 is unknown.	サーバ %2 の %1 リソースの状態が不明です。	%1 リソースに関するケーブルまたは、ネットワークの設定が正しいか確認してください。	●	●	●
nm	エラー	20	Process %1 was terminated abnormally.	%1 プロセスが異常終了しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●
nm	情報	21	The system will be stopped.	システムを停止します。	—	●	●	
nm	情報	22	The cluster daemon will be stopped.	CLUSTERPRO デモンを停止します。	—	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
nm	情報	23	The system will be rebooted.	システムを再起動します。	—	●	●	
nm	情報	24	Process %1 will be restarted.	%1 プロセスを再起動します。	—	●	●	
nm	エラー	30	Network partition was detected. Shut down the server %1 to protect data.	ネットワークパーティションを検出しました。データ保護のためサーバ%1 をシャットダウンします。	全てのハートビートがしやうできない状態です。ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。 DISKHB を使用している場合には共有ディスクの状態を確認してください。 COMHB を使用している場合には COM ケーブルが正しく接続されているか確認してください。	●	●	
nm	エラー	31	An error occurred while confirming the network partition. Shut down the server %1.	ネットワークパーティションの確認時に問題が発生しました。データ保護のためサーバ%1 をシャットダウンします。	ネットワークパーティション解決リソースでエラーが発生していないか確認してください。	●	●	
nm	エラー	32	Shut down the server %1. (reason:%2)	サーバ%1 をシャットダウンします。(理由:%2)	全てのハートビートがしやうできない状態です。ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。 DISKHB を使用している場合には共有ディスクの状態を確認してください。 COMHB を使用している場合には COM ケーブルが正しく接続されているか確認してください。	●	●	
nm	エラー	33	Cluster service will be stopped. (reason:%1)	サービスを停止します。(理由:%1)	理由に示す要因を取り除いてください。	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
nm	エラー	34	The combination of the network partition resources is invalid. (server name:%1)	ネットワークパーティション解決リソースの組み合わせが不正です。(サーバ名:%1)	構成情報を確認してください。	●	●	
nm	エラー	35	Failed to start the resource %1. Server name:%2	リソース%1 の起動に失敗しました。(サーバ名:%2)	ネットワークパーティション解決リソースでエラーが発生していないか確認してください。	●	●	
nm	情報	36	The network partition %1 of the server %2 has been recovered to the normal status.	サーバ%2 のネットワークパーティション%1 が正常状態に復帰しました。	—	●	●	
nm	エラー	37	The network partition %1 of the server %2 has an error.	サーバ%2 のネットワークパーティション%1 が異常です。	ネットワークパーティション解決リソースでエラーが発生していないか確認してください。	●	●	
nm	エラー	38	The resource %1 of the server %2 is unknown.	サーバ%2 のリソース%1 が不明です。	構成情報を確認してください。	●	●	
nm	情報	39	The server %1 cancelled the pending failover.	サーバ%1 がフェイルオーバーをキャンセルしました。	—	●	●	
nm	エラー	80	Cannot communicate with server %1.	サーバ%1との内部通信ができない状態です。	ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。	●	●	
nm	情報	81	Recovered from internal communication error with server %1.	サーバ%1との内部通信が異常状態から復帰しました。	—	●	●	
rc	情報	10	Activating group %1 has started.	%1 グループの起動処理を開始しました。	—	●	●	
rc	情報	11	Activating group %1 has completed.	%1 グループの起動処理が終了しました。	—	●	●	
rc	エラー	12	Activating group %1 has failed.	%1 グループの起動処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	20	Stopping group %1 has started.	%1 グループの停止処理を開始しました。	—	●	●	
rc	情報	21	Stopping group %1 has completed.	%1 グループの停止処理が終了しました。	—	●	●	

## 第 4 章 エラーメッセージ一覧

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
rc	エラー	22	Stopping group %1 has failed.	%1 グループの停止処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	警告	23	Server %1 is not in a condition to start group %2.	サーバ%1 は グループ%2 を起動できる状態ではありません。	すでに完全排他グループが起動しているサーバでは完全排他グループを起動することはできません。完全排他グループを停止して再度実行してください。	●	●	
rc	情報	30	Activating %1 resource has started.	%1 リソースの起動処理を開始しました。	—		●	
rc	情報	31	Activating %1 resource has completed.	%1 リソースの起動処理が終了しました。	—		●	
rc	エラー	32	Activating %1 resource has failed.(%2 : %3)	%1 リソースの起動処理が失敗しました。	159 ページの「グループリソース活性/非活性時の詳細情報」を参照してください。	●	●	●
rc	情報	40	Stopping %1 resource has started.	%1 リソースの停止処理を開始しました。	—		●	
rc	情報	41	Stopping %1 resource has completed.	%1 リソースの停止処理が終了しました。	—		●	
rc	エラー	42	Stopping %1 resource has failed.(%2 : %3)	%1 リソースの停止処理が失敗しました。	159 ページの「グループリソース活性/非活性時の詳細情報」を参照してください。	●	●	●
rc	情報	50	Moving group %1 has started.	%1 グループの移動処理を開始しました。	—	●	●	
rc	情報	51	Moving group %1 has completed.	%1 グループの移動処理が終了しました。	—	●	●	
rc	エラー	52	Moving group %1 has failed.	%1 グループの移動処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	55	Migrating group %1 has started.	%1 グループのマイグレーション処理を開始しました。	—	●	●	
rc	情報	56	Migrating group %1 has completed.	%1 グループのマイグレーション処理が終了しました。	—	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
rc	エラー	57	Migrating group %1 has failed.	%1 グループのマイグレーション処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	警告	58	Server %1 is not in a condition to migrate group %2.	サーバ %1 はグループ %2 をマイグレーションできる状態ではありません。	マイグレーション先サーバの状態を確認してください。 マイグレーション先サーバが存在しない場合には %1 にサーバ名は出力されません。	●	●	
rc	情報	60	Failover group %1 has started.	%1 グループのフェイルオーバー処理を開始しました。	—	●	●	
rc	情報	61	Failover group %1 has completed.	%1 グループのフェイルオーバー処理が終了しました。	—	●	●	
rc	エラー	62	Failover group %1 has failed.	%1 グループのフェイルオーバー処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	警告	63	Server %1 is not in a condition to move group %2.	サーバ %1 はグループ %2 を移動できる状態ではありません。	移動先サーバの状態を確認してください。 移動先サーバが存在しない場合には %1 にサーバ名は出力されません。	●	●	
rc	情報	64	Server %1 has been set as the destination for the group %2 (reason: %3).	サーバ %1 をグループ %2 のフェイルオーバー先に設定しました。(理由: %3)	—	●	●	
rc	エラー	65	There is no appropriate destination for the group %1 (reason: %2).	グループ %1 の適切なフェイルオーバー先がありません。(理由: %2)	フェイルオーバー可能なサーバがありません。 サーバが停止しているか、フェイルオーバーができないモニタリソース異常が発生しています。 サーバを起動するか、モニタリソース異常の原因を取り除くか、異常を検出しているモニタリソースを停止してください。	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
rc	警告	66	Server %1 is not in a condition to start group %2 (reason: %3).	サーバ %1 はグループ %2 を起動できる状態ではありません。(理由: %2)	グループの起動ができないモニタリソース異常が発生しています。モニタリソース異常の原因を取り除くか、異常を検出しているモニタリソースを停止してください。	●	●	
rc	情報	67	Server %1 in the same server group (%2) has been set as the destination for the group %3.	同じサーバグループ %2 内のサーバ %1 をグループ %3 のフェイルオーバー先に設定しました。	—	●	●	
rc	情報	68	Server %1 not in the same server group (%2) has been set as the destination for the group %3.	サーバグループ %2 とは別のサーバグループ内のサーバ %1 をグループ %3 のフェイルオーバー先に設定しました。	—	●	●	
rc	警告	69	Can not failover the group %1 because there is no appropriate destination in the same server group %2.	サーバグループ %2 内にグループ %1 をフェイルオーバーできるサーバがありません。	サーバグループ内のサーバを起動してからグループを起動するか、別のサーバグループ内のサーバでグループを起動してください。	●	●	
rc	情報	70	Restarting group %1 has started.	%1 グループの再起動処理を開始しました。	—	●	●	
rc	情報	71	Restarting group %1 has completed.	%1 グループの再起動処理が終了しました。	—	●	●	
rc	エラー	72	Restarting group %1 has failed.	%1 グループの再起動処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	80	Restarting resource %1 has started.	%1 リソースの再起動処理を開始しました。	—	●	●	
rc	情報	81	Restarting resource %1 has completed.	%1 リソースの再起動処理が終了しました。	—	●	●	
rc	エラー	82	Restarting resource %1 has failed.	%1 リソースの再起動処理が失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	83	Starting a single resource %1.	リソース %1 を単体起動しています。	—	●	●	



モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
rc	情報	84	A single resource %1 has been started.	リソース%1 の単体起動が完了しました。	—	●	●	
rc	エラー	85	Failed to start a single resource %1.	リソース%1 の単体起動に失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	警告	86	Server %1 is not in a condition to start a single resource %2.	サーバ %1 はリソース%2 を単体起動できる状態ではありません。	サーバおよびグループの状態を確認してください。	●	●	
rc	情報	87	Stopping a single resource %1.	リソース%1 を単体停止しています。	—	●	●	
rc	情報	88	A single resource %1 has been stopped.	リソース%1 の単体停止が完了しました。	—	●	●	
rc	エラー	89	Failed to stop a single resource %1.	リソース%1 の単体停止に失敗しました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	90	All the servers in the cluster were shut down.	サーバを停止しました。	—	●	●	
rc	情報	91	The server was shut down.	サーバを停止しました。	—	●	●	
rc	警告	100	Restart count exceeded the maximum value %1. Final action of resource %2 will not be executed.	再起動回数が最大値 %1 を超えました。リソース %2 の最終アクションは実行されません。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	121	The CPU frequency has been set to high.	CPU クロックレベルを最高に設定しました。	—	●	●	
rc	情報	122	The CPU frequency has been set to low.	CPU クロックレベルを最低に設定しました。	—	●	●	
rc	情報	124	CPU frequency setting has been switched to automatic control by cluster.	CPU クロック設定をサーバによる自動制御に切り替えました。	—	●	●	
rc	エラー	140	CPU frequency control cannot be used.	CPU クロック制御機能は使用できません。	BIOS の設定、カーネルの設定を確認してください。	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
rc	エラー	141	Failed to set the CPU frequency to high.	CPU クロックレベルを最高に設定できませんでした。	BIOS の設定、カーネルの設定を確認してください。 CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。 CPU クロック制御機能を使用する設定になっているか確認してください。	●	●	
rc	エラー	142	Failed to set the CPU frequency to low.	CPU クロックレベルを最低に設定できませんでした。	同上	●	●	
rc	エラー	144	Failed to switch the CPU frequency setting to automatic control by cluster.	CPU クロック設定をサーバによる自動制御に切り替えられませんでした。	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。 CPU クロック制御機能を使用する設定になっているか確認してください。	●	●	
rc	情報	160	Script before final action upon activation failure in resource %1 started.	リソース(%1)の活性異常時最終動作前スクリプトを開始しました。	—	●	●	
rc	情報	161	Script before final action upon activation failure in resource %1 completed.	リソース(%1)の活性異常時最終動作前スクリプトが完了しました。	—	●	●	
rc	情報	160	Script before final action upon deactivation failure in resource %1 started.	リソース(%1)の非活性異常時最終動作前スクリプトを開始しました。	—	●	●	
rc	情報	161	Script before final action upon deactivation failure in resource %1 completed.	リソース(%1)の非活性異常時最終動作前スクリプトが完了しました。	—	●	●	
rc	エラー	180	Script before final action upon activation failure in resource %1 failed.	リソース(%1)の活性異常時最終動作前スクリプトが失敗しました。	スクリプトが失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	
rc	エラー	180	Script before final action upon deactivation failure in resource %1 failed.	リソース(%1)の非活性異常時最終動作前スクリプトが失敗しました。	同上	●	●	
rc	情報	200	Resource(%1) will be reactivated since activating resource(%2) failed.	リソース %1 の活性処理失敗によりリソース %2 を再活性化します。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
rc	情報	201	Group(%1) will be moved to server(%2) since activating resource(%3) failed.	リソース %3 の活性化処理失敗によりグループ %1 をサーバ %2 に移動します。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	202	Group(%1) will be stopped since activating resource(%2) failed.	リソース %2 の活性化処理失敗によりグループ %1 を停止します。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	203	Cluster daemon will be stopped since activating resource(%1) failed.	リソース %1 の活性化処理失敗によりCLUSTERPRO サーバデーモンを停止します。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	204	System will be halted since activating resource(%1) failed.	リソース %1 の活性化処理失敗によりOS をシャットダウンします。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	205	System will be rebooted since activating resource(%1) failed.	リソース %1 の活性化処理失敗によりOS を再起動します。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	206	Activating group(%1) will be continued since failover process failed.	フェイルオーバーに失敗したため、グループ %1 の起動処理を継続します。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	220	Resource(%1) will be stopping again since stopping resource(%2) failed.	リソース %2 の非活性化処理失敗によりリソース %1 の非活性をリトライします。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	222	Group(%1) will be stopped since stopping resource(%2) failed.	リソース %2 の非活性化処理失敗によりグループ %1 を停止します。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	223	Cluster daemon will be stopped since stopping resource(%1) failed.	リソース %1 の非活性化処理失敗によりサーバデーモンを停止します。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	224	System will be halted since stopping resource(%1) failed.	リソース %1 の非活性化処理失敗によりOS を停止します。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	225	System will be rebooted since stopping resource(%1) failed.	リソース %1 の非活性化処理失敗によりOS を再起動します。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
rc	情報	240	System panic by sysrq is requested since activating resource(%1) failed.	リソース%1 の活性異常により sysrq によるシステムのパニックが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	241	System reset by keepalive driver is requested since activating resource(%1) failed.	リソース%1 の活性異常により keepalive ドライバによるシステムのリセットが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	242	System panic by keepalive driver is requested since activating resource(%1) failed.	リソース%1 の活性異常により keepalive ドライバによるシステムのパニックが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	243	System reset by BMC is requested since activating resource(%1) failed.	リソース%1 の活性異常により BMC によるシステムのリセットが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	244	System power down by BMC is requested since activating resource(%1) failed.	リソース%1 の活性異常により BMC によるシステムのパワーダウンが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	245	System power cycle by BMC is requested since activating resource(%1) failed.	リソース%1 の活性異常により BMC によるシステムのパワーサイクルが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	246	NMI send by BMC is requested since activating resource(%1) failed.	リソース%1 の活性異常により BMC による NMI 送信が要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	エラー	260	An attempt to panic system by sysrq due to failure of resource(%1) activation failed.	リソース%1 の活性異常により sysrq によるシステムのパニックをしようとしたが、失敗しました。	sysrq が使用できるようにシステムが構成されているか確認してください。	●	●	
rc	エラー	261	An attempt to reset system by keepalive driver due to failure of resource(%1) activation failed.	リソース%1 の活性異常により keepalive ドライバによるシステムのリセットをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
rc	エラー	262	An attempt to panic system by keepalive driver due to failure of resource(%1) activation failed.	リソース%1 の活性異常により keepaliveドライバによるシステムのパニックをしようとしたが、失敗しました。	keepaliveドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●	
rc	エラー	263	An attempt to reset system by BMC due to failure of resource(%1) activation failed.	リソース%1 の活性異常により BMC によるシステムのリセットをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●	
rc	エラー	264	An attempt to power down system by BMC due to failure of resource(%1) activation failed.	リソース%1 の活性異常により BMC によるシステムのパワーダウンをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●	
rc	エラー	265	An attempt to power cycle system by BMC due to failure of resource(%1) activation failed.	リソース%1 の活性異常により BMC によるシステムのパワーサイクルをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●	
rc	エラー	266	An attempt to send NMI by BMC due to failure of resource(%1) activation failed.	リソース%1 の活性異常により BMC による NMI 送信をしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●	
rc	情報	280	System panic by sysrq is requested since deactivating resource(%1) failed.	リソース%1 の非活性異常により sysrq によるシステムのパニックが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	281	System reset by keepalive driver is requested since deactivating resource(%1) failed.	リソース%1 の非活性異常により keepaliveドライバによるシステムのリセットが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	282	System panic by keepalive driver is requested since deactivating resource(%1) failed.	リソース%1 の非活性異常により keepaliveドライバによるシステムのパニックが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
rc	情報	283	System reset by BMC is requested since deactivating resource(%1) failed.	リソース%1 の非活性化異常により BMC によるシステムのリセットが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	284	System power down by BMC is requested since deactivating resource(%1) failed.	リソース%1 の非活性化異常により BMC によるシステムのパワーダウンが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	285	System power cycle by BMC is requested since deactivating resource(%1) failed.	リソース%1 の非活性化異常により BMC によるシステムのパワーサイクルが要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	情報	286	Sending NMI by BMC is requested since deactivating resource(%1) failed.	リソース%1 の非活性化異常により BMC による NMI 送信が要求されました。	グループリソースのメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
rc	エラー	300	An attempt to panic system by sysrq due to failure of resource(%1) deactivation failed.	リソース%1 の非活性化異常により sysrq によるシステムのパニックをしようとしたが、失敗しました。	sysrq が使用できるようにシステムが構成されているか確認してください。	●	●	
rc	エラー	301	An attempt to reset system by keepalive driver due to failure of resource(%1) deactivation failed.	リソース%1 の非活性化異常により keepalive ドライバによるシステムのリセットをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●	
rc	エラー	302	An attempt to panic system by keepalive driver due to failure of resource(%1) deactivation failed.	リソース%1 の非活性化異常により keepalive ドライバによるシステムのパニックをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●	
rc	エラー	303	An attempt to reset system by BMC due to failure of resource(%1) deactivation failed.	リソース%1 の非活性化異常により BMC によるシステムのリセットをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
rc	エラー	304	An attempt to power down system by BMC due to failure of resource(%1) deactivation failed.	リソース%1 の非活性化異常により BMC によるシステムのパワーダウンをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●	
rc	エラー	305	An attempt to power cycle system by BMC due to failure of resource(%1) deactivation failed.	リソース%1 の非活性化異常により BMC によるシステムのパワーサイクルをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●	
rc	エラー	306	An attempt to send NMI by BMC due to failure of resource(%1) deactivation failed.	リソース%1 の非活性化異常により BMC による NMI 送信をしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●	
rc	情報	400	System power down by BMC is requested. (destination server : %1)	BMC によるシステムのパワーダウンを要求しました。(対象サーバ : %1)	—	●	●	
rc	情報	401	System power cycle by BMC is requested. (destination server : %1)	BMC によるシステムのパワーサイクルを要求しました。(対象サーバ : %1)	—	●	●	
rc	情報	402	System reset by BMC is requested. (destination server : %1)	BMC によるシステムのリセットを要求しました。(対象サーバ : %1)	—	●	●	
rc	情報	403	Sending NMI by BMC is requested. (destination server : %1)	BMC による NMI 送信が要求されました。(対象サーバ : %1)	—	●	●	
rc	エラー	420	An attempt to power down system by BMC failed. (destination server : %1)	BMC によるシステムのパワーダウンを要求しましたが、失敗しました。(対象サーバ : %1)	ipmitoolコマンドまたはhwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●	
rc	エラー	421	An attempt to power cycle system by BMC failed. (destination server : %1)	BMC によるシステムのパワーサイクルを要求しましたが、失敗しました。(対象サーバ : %1)	ipmitoolコマンドまたはhwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●	
rc	エラー	422	An attempt to reset system by BMC failed. (destination server : %1)	BMC によるシステムのリセットを要求しましたが、失敗しました。(対象サーバ : %1)	ipmitoolコマンドまたはhwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
rc	エラー	423	An attempt to send NMI by BMC failed. (destination server : %1)	BMC による NMI 送信を要求しましたが、失敗しました。 (対象サーバ : %1)	ipmitool コマンドまたは hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●	
rm	情報	1	Monitoring %1 has started.	%1 の監視を開始しました。	—	●	●	
rm	情報	2	Monitoring %1 has stopped.	%1 の監視を停止しました。	—	●	●	
rm	情報	3	%1 is not monitored by this server.	%1 の監視は、当サーバではおこないません。	—	●	●	
rm	警告	4	Warn monitoring %1. (%2 : %3)	%1 の監視を警告します。	161ページの「モニタリソース異常時の詳細情報」を参照してください。	●	●	
rm	警告	5	The maximum number of monitor resources has been exceeded. (registered resource is %1)	最大モニタリソース数を超えています。	Builder で構成情報を確認してください。	●	●	
rm	警告	6	Monitor configuration of %1 is invalid. (%2 : %3)	%1 のモニタ構成が不正です。	Builder で構成情報を確認してください。	●	●	
rm	エラー	7	Failed to start monitoring %1.	%1 の監視の開始に失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	●
rm	エラー	8	Failed to stop monitoring %1.	%1 の監視の停止に失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	
rm	エラー	9	Detected an error in monitoring %1. (%2 : %3)	%1 の監視で異常を検出しました。	161ページの「モニタリソース異常時の詳細情報」を参照してください。 監視タイムアウトを検出した場合、()内は以下のメッセージが設定されます。 (99 : Monitor was timeout.)	●	●	●
rm	情報	10	%1 is not monitored.	%1 を監視していません。	—	●	●	
rm	情報	12	Recovery target %1 has stopped because an error was detected in monitoring %2.	%2 の監視で異常を検出したため、回復対象 %1 が停止されました。	—	●	●	



モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
rm	情報	13	Recovery target %1 has restarted because an error was detected in monitoring %2.	%2 の監視で異常を検出したため、回復対象 %1 が再起動されました。	—	●	●	
rm	情報	14	Recovery target %1 failed over because an error was detected in monitoring %2.	%2 の監視で異常を検出したため、回復対象 %1 がフェイルオーバーされました。	—	●	●	
rm	情報	15	Stopping the cluster has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、サーバの停止が要求されました。	—	●	●	
rm	情報	16	Stopping the system has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、システムの停止が要求されました。	—	●	●	
rm	情報	17	Rebooting the system has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、システムの再起動が要求されました。	—	●	●	
rm	エラー	18	Attempted to stop the recovery target %1 due to the error detected in monitoring %2, but failed.	%2 の監視異常により回復対象 %1 を停止しようとしたましたが、失敗しました。	%1 リソースの状態を確認してください。	●	●	
rm	エラー	19	Attempted to restart the recovery target %1 due to the error detected in monitoring %2, but failed.	%2 の監視異常により回復対象 %1 を再起動しましたが、失敗しました。	%1 リソースの状態を確認してください。	●	●	
rm	エラー	20	Attempted to fail over %1 due to the error detected in monitoring %2, but failed.	%2 の監視異常により回復対象 %1 をフェイルオーバーしようとしたましたが、失敗しました。	%1 リソースの状態を確認してください。	●	●	
rm	エラー	21	Attempted to stop the cluster due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常によりサーバを停止しようとしたましたが、失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	
rm	エラー	22	Attempted to stop the system due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常によりシステムを停止しようとしたましたが、失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	

## 第 4 章 エラーメッセージ一覧

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
rm	エラー	23	Attempted to reboot the system due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常によりシステムを再起動しようとしたが、失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	
rm	エラー	24	The group of %1 resource is unknown.	%1 リソースが所属するグループが不明です。	構成情報が不整合である可能性があります。確認してください。	●	●	
rm	警告	25	Recovery will not be executed since the recovery target %1 is not active.	回復対象%1 が非活性のため回復動作をおこないません。	—	●	●	
rm	情報	26	%1 status changed from error to normal.	%1 の監視が異常から正常に復帰しました。	—	●	●	
rm	情報	27	%1 status changed from error or normal to unknown.	%1 の監視が異常または、正常から不明になりました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	
rm	エラー	28	Initialization error of monitor process. (%1 : %2)	モニタプロセスの初期化エラーです。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	
rm	情報	29	Monitoring %1 was suspended.	%1 の監視を一時停止しました。	—	●	●	
rm	情報	30	Monitoring %1 was resumed.	%1 の監視を再開しました。	—	●	●	
rm	情報	31	All monitors were suspended.	全ての監視を一時停止しました。	—	●	●	
rm	情報	32	All monitors were resumed.	全ての監視を再開しました。	—	●	●	
rm	情報	35	System panic by sysrq has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、sysrq によるシステムのパニックが要求されました。	—	●	●	
rm	エラー	36	Attempted to panic system by sysrq due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常により sysrq によるシステムのパニックをしようとしたが、失敗しました。	sysrq が使用できるようにシステムが構成されているか確認してください。	●	●	
rm	情報	37	System reset by keepalive driver has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、keepalive ドライバによるシステムのリセットが要求されました。	—	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
rm	エラー	38	Attempted to reset system by keepalive driver due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常により keepalive ドライバによるシステムのリセットをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●	
rm	情報	39	System panic by keepalive driver has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、keepalive ドライバによるシステムのパニックが要求されました。	—	●	●	
rm	エラー	40	Attempted to panic system by keepalive driver due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常により keepalive ドライバによるシステムのパニックをしようとしたが、失敗しました。	keepalive ドライバが使用可能な環境であるか確認してください。	●	●	
rm	情報	41	System reset by BMC has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、BMC によるシステムのリセットが要求されました。	—	●	●	
rm	エラー	42	Attempted to reset system by BMC due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常により BMC によるシステムのリセットをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●	
rm	情報	43	System power down by BMC has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、BMC によるシステムのパワーダウンが要求されました。	—	●	●	
rm	エラー	44	Attempted to power down system by BMC due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常により BMC によるシステムのパワーダウンをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●	
rm	情報	45	System power cycle by BMC has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、BMC によるシステムのパワーサイクルが要求されました。	—	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
rm	エラー	46	Attempted to power cycle system by BMC due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常により BMC によるシステムのパワーダウンをしようとしたが、失敗しました。	hwreset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●	
rm	情報	47	NMI send by BMC has been required because an error was detected in monitoring %1.	%1 の監視で異常を検出したため、BMC によるシステムの NMI が要求されました。	—	●	●	
rm	エラー	48	Attempted to send NMI by BMC due to the error detected in monitoring %1, but failed.	%1 の監視異常により BMC によるシステムの NMI をしようとしたが、失敗しました。	ipmitool コマンドまたは hwreset コマンド、ireset コマンドが使用可能であるか確認してください。	●	●	
rm	情報	50	The number of licenses is %1. (%2)	サーバのライセンス数は、%1 です。	—	●	●	
rm	情報	51	The trial license is effective until %.4s/%.2s/%.2s. (%1)	試用版ライセンスの有効期間は、%1 までです。	—	●	●	
rm	警告	52	The number of licenses is insufficient. The number of insufficient licenses is %1. (%2)	ライセンスが不足しています。	不足数分のライセンスを購入して登録してください。	●	●	
rm	エラー	53	The license is not registered. (%1)	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを購入して登録してください。	●	●	
rm	エラー	54	The trial license has expired in %.4s/%.2s/%.2s. (%1)	試用版ライセンスの有効期限切れです。	有効なライセンスを登録してください。	●	●	
rm	エラー	55	The registered license is invalid. (%1)	登録されているライセンスが無効状態です。	有効なライセンスを登録してください。	●	●	
rm	エラー	56	The registered license is unknown. (%1)	登録されているライセンスが不明な状態です。	有効なライセンスを登録してください。	●	●	
rm	エラー	57	Stopping the cluster is required since license (%1) is invalid.	ライセンス不正により、サーバ停止が要求されました。	有効なライセンスを登録してください。	●	●	●
rm	エラー	58	Stopping the cluster due to invalid license (%1) failed.	ライセンス不正によるサーバ停止が成功しませんでした。	有効なライセンスを登録してください。	●	●	
rm	エラー	59	The trial license is valid from %.4s/%.2s/%.2s. (%1)	試用版ライセンスの有効期間に到達していません。	有効なライセンスを登録してください。	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
rm	警告	71	Detected a monitor delay in monitoring %1. (timeout=%2*%3 actual-time=%4 delay warning rate=%5)	%1 の監視で監視遅延を検出しました。現在のタイムアウト値は %2(秒) x %3(1 秒あたりの tick count)です。遅延検出時の実測値が %4(tick count) となり、遅延警告割合 %5(%) を超えました。	監視遅延を検出したサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。  監視タイムアウトを検出するようであれば、監視タイムアウトの延長が必要となります。	●	●	
rm	情報	81	Script before final action upon failure in monitor resource %1 started.	%1 モニタリソースの異常時最終動作前スクリプトを開始しました。	—	●	●	
rm	情報	82	Script before final action upon failure in monitor resource %1 completed.	%1 モニタリソースの異常時最終動作前スクリプトが完了しました。	—	●	●	
rm	エラー	83	Script before final action upon failure in monitor resource %1 failed.	%1 モニタリソースの異常時最終動作前スクリプトが失敗しました。	スクリプトが失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	
rm	警告	100	Restart count exceeded the maximum of %1. Final action of monitoring %2 will not be executed.	再起動回数が最大値%1を超えたので、%1 の最終動作は実行されませんでした。	—	●	●	
rm	警告	120	The virtual machine (%1) has been migrated to %2 by an external operation.	%1 リソースが管理している仮想マシンが外部操作によりサーバ%2 へマイグレーションされました。	—	●	●	
rm	警告	121	The virtual machine (%1) has been started by an external operation.	%1 リソースが管理している仮想マシンが外部操作により起動されました。	—	●	●	
rm	情報	130	The collecting of detailed information triggered by monitor resource %1 error has been started (timeout=%2).	モニタリソース\$1 の監視の異常検出を契機とした詳細情報の採取を開始しました。タイムアウトは%2 秒です。	—	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
rm	情報	131	The collection of detailed information triggered by monitor resource %1 error has been completed.	モニタリソース%1の監視の異常検出を契機とした詳細情報の採取が完了しました。	—	●	●	
rm	警告	132	The collection of detailed information triggered by monitor resource %1 error has been failed (%2).	モニタリソース%1の監視の異常検出を契機とした詳細情報の採取が失敗しました。	—	●	●	
trnsv	エラー	1	There was a notification from external (IP=%1), but it was denied.	%1 から通知を受付ましたが、許可されませんでした。	—	●	●	
trnsv	情報	10	There was a notification (%1) from external (IP=%2).	%2から通知(%1)を受け付けました。	—	●	●	
trnsv	情報	20	Recovery action (%1) of monitoring %2 has been executed because a notification arrived from external.	外部通知によりモニタリソース%2の異常時動作(%1)の実行を開始しました。	—	●	●	
trnsv	情報	21	Recovery action (%1) of monitoring %2 has been completed.	モニタリソース%2の異常時動作(%1)が成功しました。	—	●	●	
trnsv	エラー	22	Attempted to recovery action (%1) of monitoring %2, but it failed.	モニタリソース%2の異常時動作(%1)を実行しましたが、失敗しました。	異常時動作が実行可能な環境か確認してください。	●	●	
trnsv	情報	30	Action (%1) has been completed.	動作(%1)の実行に成功しました。	—	●	●	
trnsv	エラー	31	Attempted to execute action (%1), but it failed.	動作(%1)を実行を実行しましたが、失敗しました。	動作が実行可能な環境か確認してください。	●	●	
trnsv	情報	40	Script before action of monitoring %1 has been executed.	モニタリソース(%1)の異常時動作前スクリプトを実行しました。	—	●		
trnsv	情報	41	Script before action of monitoring %1 has been completed.	モニタリソース(%1)の異常時動作前スクリプトの実行に成功しました。	—	●		

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
trnsv	エラー	42	Attempted to execute script before action of monitoring %1, but it failed.	モニタリソース(%1)の異常時動作前スクリプトの実行に失敗しました。	異常時動作前スクリプトが実行可能かどうか確認してください。	●		
lanhb	警告	71	Heartbeats sent from HB resource %1 of server %2 are delayed.(timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6)	サーバ %2 の HB リソース %1 からのハートビートに遅延が発生しました。現在のタイムアウト値は %3 (秒) x %4 (1 秒あたりの tick count) です。遅延発生時の実測値が %5 (tick count) となり、遅延警告割合 %6 (%) を超えました。	サーバ %2 の負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。  HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。	●	●	
lanhb	警告	72	Heartbeats sent from HB resource %1 are delayed.(server=%2 timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6)	HB リソース %1 のハートビート送信で遅延が発生しました。送信先サーバは %2 です。現在のタイムアウト値は %3 (秒) x %4 (1 秒あたりの tick count) です。遅延発生時の実測値が %5 (tick count) となり、遅延警告割合 %6 (%) を超えました。	遅延が警告されたサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。  HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。			
lanhb	警告	73	Heartbeats received by HB resource %1 are delayed.(server=%2 timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6)	HB リソース %1 のハートビート受信で遅延が発生しました。送信元サーバは %2 です。現在のタイムアウト値は %3 (秒) x %4 (1 秒あたりの tick count) です。遅延発生時の実測値が %5 (tick count) となり、遅延警告割合 %6 (%) を超えました。	遅延が警告されたサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。  HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。			
lankhb	警告	71	Heartbeats sent from HB resource %1 of	サーバ %2 の HB リソース %1 からのハートビートに遅	サーバ %2 の負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
			server %2 are delayed.(timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6)	延が発生しました。現在のタイムアウト値は %3 (秒) x %4(1 秒あたりの tick count)です。遅延発生時の実測値が %5(tick count) となり、遅延警告割合 %6(%)を超えました。	HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。			
lankhb	警告	73	Heartbeats received from HB resource %1 is delayed.(timeout=%2*%3 actual-time=%4 delay warning rate=%5)	HB リソース %1 のハートビート受信で遅延が発生しました。送信元サーバは %2 です。現在のタイムアウト値は %3(秒) x %4 (1 秒あたりの tick count)です。遅延発生時の実測値が %5(tick count) となり、遅延警告割合 %6(%)を超えました。	遅延が警告されたサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。			
					HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。			
diskhb	エラー	10	Device(%1) of resource(%2) does not exist.	デバイスが存在しません。	構成情報を確認してください。	●	●	
diskhb	エラー	11	Device(%1) of resource(%2) is not a block device.	デバイスが存在しません。	構成情報を確認してください。	●	●	
diskhb	エラー	12	Raw device(%1) of resource(%2) does not exist.	デバイスが存在しません。	構成情報を確認してください。	●	●	
diskhb	エラー	13	Binding device(%1) of resource(%2) to raw device(%3) failed.	デバイスが存在しません。	構成情報を確認してください。	●	●	
diskhb	エラー	14	Raw device(%1) of resource(%2) has already been bound to other device.	リソース %2 の raw デバイス %1 は別のデバイスにバインドされています。	使用していない raw デバイスを設定してください。	●	●	
diskhb	エラー	15	File system exists on device(%1) of resource(%2).	リソース %2 のデバイス %1 にはファイルシステムが存在します。	デバイス %1 を使用する場合はファイルシステムを削除してください。	●	●	
diskhb	情報	20	Resource %1 recovered from initialization error.	リソース%1 が初期化エラーから復帰しました。	—	●	●	
diskhb	警告	71	Heartbeats sent from HB resource %1 of	サーバ %2 の HB リソース %1 からハートビートに遅	サーバ %2 の負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。	●	●	



モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
			server %2 are delayed.(timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6)	延が発生しました。現在のタイムアウト値は %3 (秒) x %4(1 秒あたりの tick count)です。遅延発生時の実測値が %5(tick count) となり、遅延警告割合 %6(%)を超えました。	HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。			
diskhb	警告	72	Heartbeat write of HB resource %1 is delayed.(server=%2 timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6).	HB リソース %1 のハートビート書き込みで遅延が発生しました。書き込み先サーバは %2 です。現在のタイムアウト値は %3(秒) x %4(1 秒あたりの tick count)です。遅延発生時の実測値が %5(tick count) となり、遅延警告割合 %6(%)を超えました。	遅延が警告されたサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。			
					HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。			
diskhb	警告	73	Heartbeat read of HB resource %1 is delayed.(server=%2 timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6)	HB リソース %1 のハートビート読み込みで遅延が発生しました。読み込み元サーバは %2 です。現在のタイムアウト値は %3(秒) x %4(1 秒あたりの tick count)です。遅延発生時の実測値が %5(tick count) となり、遅延警告割合 %6(%)を超えました。	遅延が警告されたサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。			
					HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。			
comhb	情報	1	Device (%1) does not exist.	デバイスが存在しません。	構成情報を確認してください。	●	●	
comhb	情報	2	Failed to open the device (%1).	デバイスのオープンに失敗しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	
comhb	警告	71	Heartbeats sent from HB resource %1 of	サーバ %2 の HB リソース %1 からハートビートに遅	サーバ %2 の負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
			server %2 are delayed.(timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6)	延が発生しました。現在のタイムアウト値は %3 (秒) x %4(1 秒あたりの tick count)です。遅延発生時の実測値が %5(tick count) となり、遅延警告割合 %6(%)を超えました。	HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。			
comhb	警告	72	Heartbeat write of HB resource %1 is delayed.(server=%2 timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6).	HB リソース %1 のハートビート書き込みで遅延が発生しました。送信先サーバは %2 です。現在のタイムアウト値は %3(秒) x %4(1 秒あたりの tick count)です。遅延発生時の実測値が %5(tick count) となり、遅延警告割合 %6(%)を超えました。	遅延が警告されたサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。			
					HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。			
comhb	警告	73	Heartbeat read of HB resource %1 is delayed.(server=%2 timeout=%3*%4 actual-time=%5 delay warning rate=%6)	HB リソース %1 のハートビート読み込みで遅延が発生しました。送信元サーバは %2 です。現在のタイムアウト値は %3(秒) x %4(1 秒あたりの tick count)です。遅延発生時の実測値が %5(tick count) となり、遅延警告割合 %6(%)を超えました。	遅延が警告されたサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。			
					HB タイムアウトが発生するようであれば、HB タイムアウトの延長が必要となります。			
monp	エラー	1	An error occurred when initializing monitored process %1. (status=%2)	監視対象プロセス %1 の初期化エラーです。	メモリ不足、OS のリソース不足、または、構成情報が不整合である可能性が考えられます。確認してください。	●	●	
					構成情報が未登録状態であれば、以下のプロセスのメッセージが出力されますが、問題ありません。			
					+ mdagnt			
					+ webmgr			
					+ webalert			

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
monp	エラー	2	Monitor target process %1 terminated abnormally. (status=%2)	監視対象プロセス %1 が異常終了しました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	
monp	情報	3	Monitor target process %1 will be restarted.	監視対象プロセス %1 を再起動します。	—	●	●	
monp	情報	4	The cluster daemon will be stopped since the monitor target process %1 terminated abnormally.	監視対象プロセス %1 の異常終了により、サーバを停止します。	—	●	●	
monp	エラー	5	Attempted to stop the cluster daemon, but failed.	サーバを停止しようとしたが、失敗しました。	サーバが未起動状態、メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	
monp	情報	6	The system will be stopped since the monitor target process %1 terminated abnormally.	監視対象プロセス %1 の異常終了により、システムを停止します。	—	●	●	
monp	エラー	7	Attempted to stop the system, but failed. (status=%#x)	システムを停止しようとしたが、失敗しました。	サーバが未起動状態、メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	
monp	情報	8	System will be rebooted since monitor target process %1 terminated abnormally.	監視対象プロセス %1 の異常終了により、システムを再起動します。	—	●	●	
monp	エラー	9	Attempted to reboot the system, but failed. (status=%#x)	システムを再起動しようとしたが、失敗しました。	サーバが未起動状態、メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	
disk	情報	10	%1 of %2 has started.	デバイス %2 のコマンド %1 を開始しました。	—	●	●	
disk	情報	11	%1 of %2 was successful.	デバイス %2 のコマンド %1 に成功しました。	—	●	●	
disk	エラー	12	%1 of %2 failed (ret=%3).	デバイス %2 のコマンド %1 に戻り値 %3 で失敗しました。	%1 コマンドのマニュアルを参照してください。	●	●	

## 第 4 章 エラーメッセージ一覧

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
disk	警告	13	Executing %1 of %2 with %3 option is necessary. Execute the command manually.	%3 オプションを指定してデバイス %2 のコマンド %1 を実行する必要があります。手動でコマンドを実行してください。	手動で %3 オプションを指定して %1 コマンドを実行してください。	●	●	
disk	情報	14	%1 of %2 with %3 option has started.	%3 オプションを指定してデバイス %2 のコマンド %1 を開始しました。	—	●	●	
cl	情報	1	There was a request to start %1 from the %2.	%2 から%1 の起動要求がありました。	—	●	●	
cl	情報	2	There was a request to stop %1 from the %2.	%2 から%1 の停止要求がありました。	—	●	●	
cl	情報	3	There was a request to suspend %1 from the %2.	%2 から%1 のサスペンド要求がありました。	—	●	●	
cl	情報	4	There was a request to resume %s from the %s.	%2 から%1 のリジューム要求がありました。	—	●	●	
cl	エラー	11	A request to start %1 failed(%2).	%1 の起動要求に失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	
cl	エラー	12	A request to stop %1 failed(%2).	%1 の停止要求に失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	
cl	エラー	13	A request to suspend %1 failed(%2).	%1 のサスペンド要求に失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	
cl	エラー	14	A request to resume %1 failed(%2).	%1 のリジューム要求に失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	
cl	エラー	15	A request to %1 cluster failed on some servers(%2).	サーバの%1 要求がいくつかのサーバで失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	
mail	エラー	1	The license is not registered. (%1)	ライセンスを購入して登録してください。	—	●	●	
mail	エラー	2	The trial license has expired in %1. (%2)	有効なライセンスを登録してください。	—	●	●	
mail	エラー	3	The registered license is invalid. (%1)	有効なライセンスを登録してください。	—	●	●	
mail	エラー	4	The registered license is unknown. (%1)	有効なライセンスを登録してください。	—	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
mail	エラー	5	mail failed(%s).(SMTP server: %s)	メール通報が失敗しました。	SMTP サーバにエラーが発生していないか、あるいは SMTP サーバとの通信に問題がないか確認してください。	●	●	
mail	情報	6	mail succeeded.(SMTP server: %s)	メール通報が成功しました。	—	●	●	
userw	警告	1	Detected a monitor delay in monitoring %1. (timeout=%2*%3 actual-time=%4 delay warning rate=%5)	%1 の監視で監視遅延を検出しました。現在のタイムアウト値は %2(秒) x %3(1 秒あたりの tick count)です。遅延検出時の実測値が %4(tick count)となり、遅延警告割合 %5(%)を超えました。	—	●	●	
vipw	警告	1	Detected a monitor delay in monitoring %1. (timeout=%2*%3 actual-time=%4 delay warning rate=%5)	%1 の監視で監視遅延を検出しました。現在のタイムアウト値は %2(秒) x %3(1 秒あたりの tick count)です。遅延検出時の実測値が %4(tick count)となり、遅延警告割合 %5(%)を超えました。	—	●	●	
ddnsw	警告	1	Detected a monitor delay in monitoring %1. (timeout=%2*%3 actual-time=%4 delay warning rate=%5)	%1 の監視で監視遅延を検出しました。現在のタイムアウト値は %2(秒) x %3(1 秒あたりの tick count)です。遅延検出時の実測値が %4(tick count)となり、遅延警告割合 %5(%)を超えました。	—	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
vmw	警告	1	Detected a monitor delay in monitoring %1. (timeout=%2*%3 actual-time=%4 delay warning rate=%5)	%1 の監視で監視遅延を検出しました。現在のタイムアウト値は %2 (秒) × %3 (1 秒あたりの tick count) です。遅延検出時の実測値が %4 (tick count) となり、遅延警告割合 %5 (%) を超えました。	—	●	●	
apisv	情報	1	There was a request to stop cluster from the %1(IP=%2).	%1 からサーバ停止の要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	2	There was a request to shutdown cluster from the %1(IP=%2).	%1 からサーバシャットダウンの要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	3	There was a request to reboot cluster from the %1(IP=%2).	%1 からサーバリブートの要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	4	There was a request to suspend cluster from the %1(IP=%2).	%1 からサーバサスペンドの要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	10	There was a request to stop server from the %1(IP=%2).	%1 からサーバ停止の要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	11	There was a request to shutdown server from the %1(IP=%2).	%1 からサーバシャットダウンの要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	12	There was a request to reboot server from the %1(IP=%2).	%1 からサーバリブートの要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	30	There was a request to start group(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からグループ%1の起動要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	31	There was a request to start all groups from the %1(IP=%2).	%1 から全グループの起動要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	32	There was a request to stop group(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からグループ%1の停止要求がありました。	—	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
apisv	情報	33	There was a request to stop all groups from the %1(IP=%2).	%1 から全グループの停止要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	34	There was a request to restart group(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からグループ%1の再起動要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	35	There was a request to restart all groups from the %1(IP=%2).	%1 から全グループの再起動要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	36	There was a request to move group(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からグループ%1の移動要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	37	There was a request to move group from the %1(IP=%2).	%1 からグループの移動要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	38	There was a request to failover group(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からグループ%1のフェイルオーバー要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	39	There was a request to failover group from the %1(IP=%2).	%1 からグループのフェイルオーバー要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	40	There was a request to migrate group(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からグループ%1のマイグレーション要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	41	There was a request to migrate group from the %1(IP=%2).	%2 からグループのマイグレーション要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	50	There was a request to start resource(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からリソース%1の起動要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	51	There was a request to start all resources from the %1(IP=%2).	%1 から全リソースの起動要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	52	There was a request to stop resource(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からリソース%1の停止要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	53	There was a request to stop all resources from the %1(IP=%2).	%1 から全リソースの停止要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	54	There was a request to restart resource(%1) from the %2(IP=%3).	%2 からリソース%1の再起動要求がありました。	—	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
apisv	情報	55	There was a request to restart all resources from the %1(IP=%2).	%1 から全リソースの再起動要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	60	There was a request to suspend monitor resources from the %1(IP=%2).	%1 からモニタリソースのサスペンド要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	61	There was a request to resume monitor resources from the %1(IP=%2).	%1 からモニタリソースのリジューム要求がありました。	—	●	●	
apisv	情報	70	There was a request to set CPU frequency level from the %1(IP=%2).	%1 から CPU クロックの設定要求がありました。	—	●	●	
apisv	エラー	101	A request to stop cluster was failed(0x%08x).	サーバ停止に失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	
apisv	エラー	102	A request to shutdown cluster was failed(0x%08x).	サーバシャットダウンに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	
apisv	エラー	103	A request to reboot cluster was failed(0x%08x).	サーバリブートに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	
apisv	エラー	104	A request to suspend cluster was failed(0x%08x).	サーバサスペンドに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	
apisv	エラー	110	A request to stop server was failed(0x%08x).	サーバ停止に失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	
apisv	エラー	111	A request to shutdown server was failed(0x%08x).	サーバシャットダウンに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	
apisv	エラー	112	A request to reboot server was failed(0x%08x).	サーバリブートに失敗しました。	サーバの状態を確認してください。	●	●	
apisv	エラー	130	A request to start group(%1) was failed(0x%08x).	グループ(%1)の起動に失敗しました。	rc が出力するグループ起動失敗のメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
apisv	エラー	131	A request to start all groups was failed(0x%08x).	全グループの起動に失敗しました。	同上	●	●	
apisv	エラー	132	A request to stop group(%1) was failed(0x%08x).	グループ(%1)の停止に失敗しました。	rc が出力するグループ停止失敗のメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
apisv	エラー	133	A request to stop all groups was failed(0x%08x).	全グループの停止に失敗しました。	同上	●	●	



モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
apisv	エラー	136	A request to move group(%1) was failed(0x%08x).	グループ(%1)の移動に失敗しました。	rc が出力するグループ移動失敗のメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
apisv	エラー	138	A request to failover group(%1) was failed(0x%08x).	グループ(%1)のフェイルオーバーに失敗しました。	rc が出力するグループフェイルオーバー失敗のメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
apisv	エラー	139	A request to failover group was failed(0x%08x).	全グループのフェイルオーバーに失敗しました。	同上	●	●	
apisv	エラー	150	A request to start resource(%1) was failed(0x%08x).	リソース(%1)の起動に失敗しました。	rc が出力するリソース起動失敗のメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
apisv	エラー	152	A request to stop resource(%1) was failed(0x%08x).	リソース(%1)の停止に失敗しました。	rc が出力するリソース停止失敗のメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
apisv	エラー	154	A request to restart resource(%1) was failed(0x%08x).	リソース(%1)の再起動に失敗しました。	rc が出力するリソース再起動失敗のメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
apisv	エラー	155	A request to restart all resources was failed(0x%08x).	全リソースの再起動に失敗しました。	同上	●	●	
apisv	エラー	160	A request to suspend monitor resource was failed(0x%08x).	モニタリソースのサスペンドに失敗しました。	モニタリソースの状態を確認してください。	●	●	
apisv	エラー	161	A request to resume monitor resource was failed(0x%08x).	モニタリソースのリジュームに失敗しました。	同上	●	●	
apisv	エラー	170	A request to set CPU frequency was failed(0x%08x).	CPU クロックレベルの設定に失敗しました。	rc が出力する CPU クロックレベル設定失敗のメッセージに従った対処をおこなってください。	●	●	
lamp	エラー	1	The license is not registered. (%1)	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを購入して登録してください。	●	●	
lamp	エラー	2	The trial license has expired in %1. (%2)	試用版ライセンスの有効期限切れです。	有効なライセンスを登録してください。	●	●	
lamp	エラー	3	The registered license is invalid. (%1)	登録されているライセンスが無効状態です。	有効なライセンスを登録してください。	●	●	
lamp	エラー	4	The registered license is unknown. (%1)	登録されているライセンスが不明な状態です。	有効なライセンスを登録してください。	●	●	

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	通報先		
						alert	syslog	mail
lamp	情報	5	Notice by the network warning light succeeded.	ネットワーク警告灯通報が成功しました。	—	●	●	
lamp	エラー	6	Error in executing result of warning light command.(%d)	ネットワーク警告灯通報コマンドで異常が発生しました。	エラーコードに従って対処してください。	●	●	
lamp	エラー	7	Failed to execute warning light command.(%d)	ネットワーク警告灯通報コマンドが実行できませんでした。	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。	●	●	
cfmgr	情報	1	The cluster configuration data has been uploaded by %1.	構成情報がアップロードされました。	—	●	●	

# ドライバの syslog メッセージ

## カーネルモードLANハートビートドライバ

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
clpkhb	情報	101	Kernel Heartbeat was initialized successfully. (major=%1, minor=%2)	clpkhb ドライバのロードが成功しました。	—
clpkhb	情報	102	Kernel Heartbeat was released successfully.	clpkhb ドライバのアンロードが成功しました。	—
clpkhb	エラー	103	Can not register miscdev on minor=%1. (err=%2)	clpkhb ドライバのロードに失敗しました。	—
clpkhb	エラー	104	Can not deregister miscdev on minor=%1. (err=%2)	clpkhb ドライバのアンロードに失敗しました。	—
clpkhb	情報	105	Kernel Heartbeat was initialized by %1.	clpkhb ドライバは[%1]モジュールにより正常に初期化されました。	—
clpkhb	情報	106	Kernel Heartbeat was terminated by %1.	clpkhb ドライバは[%1]モジュールにより正常に終了されました。	—
clpkhb	エラー	107	Can not register Kernel Heartbeat proc file!	clpkhb ドライバ用の proc ファイルの作成に失敗しました。	—
clpkhb	エラー	108	Version error.	clpkhb ドライバの内部バージョン情報が不正です。	CLUSTERPROを再インストールしてください。
clpkhb	情報	110	The send thread has been created. (PID=%1)	clpkhb ドライバの送信スレッドは正常に作成されました。 プロセス ID は[%1]です。	—
			The recv thread has been created. (PID=%1)	clpkhb ドライバの受信スレッドは正常に作成されました。 プロセス ID は[%1]です。	
clpkhb	エラー	111	Failed to create send thread. (err=%1)	エラー[%1]により、clpkhb ドライバの送信スレッドの作成に失敗しました。	—
			Failed to create recv thread. (err=%1)	エラー[%1]により、clpkhb ドライバの受信スレッドの作成に失敗しました。	
clpkhb	情報	112	Killed the send thread successfully.	clpkhb ドライバの送信スレッドは正常に停止されました。	—
			Killed the recv thread successfully.	clpkhb ドライバの受信スレッドは正常に停止されました。	
clpkhb	情報	113	Killed the recv thread successfully.	clpkhb ドライバを終了しています。	—
clpkhb	情報	114	Killed the send thread successfully.	clpkhb ドライバを停止しています。	—
clpkhb	情報	115	Kernel Heartbeat has been stopped	clpkhb ドライバは正常に停止しました。	—

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
clpkhb	エラー	120	Failed to create socket to send %1 packet. (err=%2)	エラー[%2]により、[%1] (HB / DOWN / KA) パケット送信用のソケットの作成に失敗しました。	—
			Failed to create socket to receive packet. (err=%2)	エラー[%2]により、パケット受信用のソケットの作成に失敗しました。	
clpkhb	エラー	121	Failed to create sending %1 socket address. (err=%2)	[%1] (HB / DOWN / KA) 送信用ソケットの設定に失敗しました。	物理メモリが不足している可能性があります。物理メモリを増設するか、余分なアプリケーションを終了してください。
clpkhb	エラー	122	Failed to create %1 socket address. (err=%2)	[%1] (HB / DOWN / KA) 送信用ソケットの設定に失敗しました。	物理メモリが不足している可能性があります。物理メモリを増設するか、余分なアプリケーションを終了してください。
clpkhb	エラー	123	Failed to bind %1 socket. (err=%2)	[%1] (HB / DOWN / KA / recv) 用ソケットのバインドに失敗しました。	OS の状態を確認してください。 clpkhb 用の通信ポートが既に他のアプリケーション等により利用されている可能性があります。通信ポートの使用状況を確認してください。 インタコネクトLAN I/Fに設定したIPアドレスに誤りがないか、クラスタ構成情報のサーバのプロパティを確認してください。
clpkhb	エラー	125	Failed to send %1 data to %2. (err=%3)	[%1] (HB / DOWN / KA) データを[%2]へ送信できませんでした。	clpkhb 通信用のネットワークの状態を確認してください。
					相手サーバの状態を確認してください。
					設定情報に問題がないか、確認してください。
clpkhb	エラー	126	Failed to receive data. (err=%3)	データ受信に失敗しました。	相手サーバがダウンしている可能性があります。確認してください。
					相手サーバがダウンしていない場合には、clpkhb 用のネットワークの状態を確認してください。
clpkhb	情報	127	Received an invalid packet. magic is not correct!	不正なパケットを受信しました。無視します。	別のアプリケーションが、clpkhb 用のポートにデータを送信している可能性があります。ポートの使用状況を確認してください。

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
clpkhb	エラー	128	Received an invalid packet. %1 is not correct!	不正なパケットを受信しました。パケット内の不正箇所は [%1] ( Resource priority / Source ip address)です。	同上。
clpkhb	情報	129	Receiving operation was interrupted by ending signal!	受信スレッドは終了シグナルにより終了します。	—
clpkhb	情報	130	clpka: <server priority: %1> <reason: %2> <process name: %3> system reboot.	他サーバからのリセット通知を受信しました。プライオリティ[%1]のサーバは、[%3]プロセスに[%2]の異常が発生したため、リセットします。	リセットが発生したサーバの状態を確認してください。
clpkhb	情報	131	clpka: <server priority: %1> <reason: %2> <process name: %3> system panic.	他サーバからのパニック通知を受信しました。プライオリティ[%1]のサーバは、[%3]プロセスに[%2]の異常が発生したため、パニックします。	パニックが発生したサーバの状態を確認してください。
clpkhb	エラー	140	Reference an inaccessible memory area!	ioctl()によるアプリケーションとのデータの受け渡しに失敗しました。	OS の状態を確認してください。
clpkhb	エラー	141	Failed to allocate memory!	メモリの確保に失敗しました。	物理メモリが不足している可能性があります。物理メモリを増設するか、余分なアプリケーションを終了してください。
clpkhb	エラー	142	Invalid argument, %1!	clpkhb ドライバに渡されたパラメータが正しくありません。	設定が正しくおこなわれているか、確認してください。
clpkhb	警告	143	Local node has nothing with current resource.	clpkhb ドライバに渡されたハートビートリソース情報が正しくありません。	同上。

## キープアライブドライバ

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
clpka	情報	101	Kernel Keepalive was initialized successfully. (major=%1, minor=%2)	clpkaドライバは正常にロードされました。	—
clpka	情報	102	Kernel Keepalive was released successfully.	clpkaドライバは正常にアンロードされました。	—
clpka	エラー	103	Can not register miscdev on minor=%1. (err=%2)	clpkaドライバのロードに失敗しました。	カーネルモードLANハートビートが対応しているディストリビューション、カーネルであるか確認してください。
clpka	情報	105	Kernel Keepalive was Initialized by %1.	clpkaドライバは正常に初期化されました。	—
clpka	エラー	107	Can not register Kernel Keepalive proc file!	clpkaドライバ用のprocファイルの作成に失敗しました。	メモリ不足等によってカーネルが正常に動作していない可能性があります。物理メモリを増設するか、余分なアプリケーションを終了してください。
clpka	エラー	108	Version error.	clpkaドライバのバージョンが不正です。	インストールされているclpkaドライバが正規のものか確認してください。
clpka	エラー	111	Failed to create notify thread. (err=%1)	clpkaドライバのスレッドの生成に失敗しました。	メモリ不足等によってカーネルが正常に動作していない可能性があります。物理メモリを増設するか、余分なアプリケーションを終了してください。
clpka	情報	130	Reboot tried.	設定に従い、clpkaドライバがマシンの再起動を試みました。	—
clpka	情報	132	Kernel do nothing.	設定に従い、clpkaドライバは何もおこないませんでした。	—
clpka	エラー	140	Reference an inaccessible memory area!	clpkaドライバのバージョン情報をクラスタ本体へ渡せませんでした。	インストールされているclpkaドライバが正規のものか確認してください。
clpka	エラー	141	Failed to allocate memory!	物理メモリが不足しています。	物理メモリを増設するか、余分なアプリケーションを終了してください。
clpka	エラー	142	Invalid argument, %1!	clpkaドライバへクラスタ本体から不正な情報が渡されました。	インストールされているclpkaドライバが正規のものか確認してください。
clpka	エラー	144	Process (PID=%1) is not set.	clpkaドライバへクラスタ本体以外のプロセス(%1)から操作がおこなわれようとしていました。	clpkaドライバへ誤ってアクセスしようとしたアプリケーション(%1)がないか確認してください。

# グループリソース活性/非活性時の詳細情報

## EXECリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
exec	エラー	1	Termination code %1 was returned.	同期型のスクリプトまたは アプリケーションの実行結 果として0以外の終了コー ドが戻されました。	スクリプトの場合、スクリプ トの内容に問題がある可 能性があります。スクリプ トが正しく記述されてい るか確認してください。  アプリケーションの場合、 アプリケーションが異常終 了した可能性があります。 アプリケーションの動作を 確認してください。
exec	エラー	1	Command was not completed within %1 seconds.	同期型のスクリプトまたは アプリケーションの実行が 指定時間以内に正常終了 しませんでした。	スクリプトの場合、スクリプ トの内容に問題がある可 能性があります。スクリプ トが正しく記述されてい るか確認してください。  アプリケーションの場合、 アプリケーションがストー ルした可能性があります。 アプリケーションの動作を 確認してください。  それぞれ、ログから原因を 特定できる可能性があり ます。
exec	エラー	1	Command was aborted.	同期型のスクリプトまたは アプリケーションが異常終 了しました。	アプリケーションの場合、 アプリケーションが異常終 了した可能性があります。 アプリケーションの動作を 確認してください。  メモリ不足またはOSのリ ソース不足が考えられま す。確認してください。
exec	エラー	1	Command was not found. (error=%1)	アプリケーションが存在し ませんでした。	アプリケーションのパスが 不正な可能性がありま す。構成情報のアプリ ケーションのパスを確認し てください。
exec	エラー	1	Command string was invalid.	アプリケーションのパスが 不正です。	構成情報のアプリケーション のパスを確認してくださ い。
exec	エラー	1	Log string was invalid.	ログ出力先のパスが不正 です。	構成情報のログ出力先の パスを確認してください。

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
exec	エラー	1	Internal error. (status=%1)	その他内部エラーが発生しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

### 仮想マシンリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
vm	エラー	1~6,8	Initialize error occurred.	初期化中に異常を検出しました。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
vm	エラー	7	Parameter is invalid.	パラメータが不正です。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
vm	エラー	9~13	Failed to %s virtual machine %s.	仮想マシンの制御に失敗しました。	仮想マシンの状態を確認してください。
vm	エラー	その他	Internal error occurred.	その他内部エラーが発生しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。



# モニタリソース異常時の詳細情報

## ソフトRAIDモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
lmdw	警告	100	Device=(%1): Mirror disk is in recovery process (%2).	ミラーディスクは[復帰中]です。	—
lmdw	警告	101	Device=(%1): Bad disks(%2) are detected in mirror disk.	ミラーディスクの配下の物理ディスクは一部壊れて、[警告]のステータスです。	ミラーディスク自身は使用可能ですが、壊れた物理ディスクの取替えを行う必要があります。
lmdw	エラー	3	Device=(%1): Mirror disk has a problem.	ミラーディスクの配下の物理ディスクは全て壊れて、[異常]のステータスです。	ミラーディスクが使用できない状態になっています。壊れた物理ディスクを取り替える必要があります。
lmdw	エラー	4	Soft RAID module has a problem. (err=%1)	Soft RAID関連のカーネルモジュールは異常である。	—
lmdw	エラー	5	Options or parameters are invalid.	コマンドパラメータエラーが発生したことを示します。	構成情報が正しいか確認してください。
lmdw	エラー	6	Failed to read config file.(err=%1)	構成ファイルの読み取りに失敗したことを示します。	構成情報が存在するか確認してください。
lmdw	エラー	7	Config file error.(err=%1)	構成情報の内容が異常であることを示します。	構成情報が正しいか確認してください。
lmdw	エラー	9	Internal error.err=%1	上記以外の内部エラーが発生したことを示します。	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。

## IPモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
ipw	エラー	1	Ping cannot reach. (ret=%1) IP=%2...	pingコマンドによるパケットが届きませんでした。	該当IPアドレスへの ping コマンドが成功するか確認してください。pingコマンドが失敗した場合は、該当IPアドレスをもつ機器の状態、あるいはネットワークインターフェイスの状態を確認してください。
ipw	エラー	2	Ping was failed. (ret=%1) IP=%2...	pingコマンドが失敗しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
ipw	エラー	5	Ping was failed by timeout. IP=%s...	pingコマンドがタイムアウトにより失敗しました。	システム高負荷、メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。
ipw	エラー	6	Internal error. (status=%1)	その他内部エラーが発生しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

## ディスクモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	12	loctl was failed. (err=%1) Device=%2	デバイスの制御に失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源がONになっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。
diskw	エラー	13	loctl was failed by timeout. Device=%1	デバイスの制御がタイムアウトにより失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源がONになっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。  システム高負荷、メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	エラー	14	Open was failed. (err=% 1) File=%2	ファイルのオープンに失敗しました。	ファイル名と同じようなディレクトリが存在しているか、監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源がONになっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。  メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	15	Open was failed by timeout. File=%1	ファイルのオープンがタイムアウトにより失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源がONになっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。  システム高負荷、メモリ不足、またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	エラー	16	Read was failed. (err=%1) Device=%2	デバイスからの読み込みに失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源がONになっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。  メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	エラー	17	Read was failed by timeout. Device=%1	デバイスからの読み込みがタイムアウトにより失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源がONになっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。  システム高負荷、メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	エラー	18	Write was failed. (err=%1) File=%2	ファイルの書き込みに失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源がONになっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。  メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	19	Write was failed by timeout. File=%1	ファイルの書き込みがタイ ムアウトにより失敗しまし た。	監視対象ディスクが正しく 接続されているか、監視 対象ディスクの電源がON になっているか、あるいは 監視対象ディスクにその 他の異常が発生していな いか確認してください。  システム高負荷、メモリ不 足、またはOSのリソース 不足が考えられます。確 認してください。
diskw	エラー	22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 34 40 43 44	Internal error. (status=%1)	その他内部エラーが発生 しました。	メモリ不足またはOSのリ ソース不足が考えられま す。確認してください。
diskw	エラー	41	SG_IO failed. (sg_io_hdr_t info:%1 SG_INFO_OK_MASK: %2)	SG_IOに失敗しました。	監視対象ディスクが正しく 接続されているか、監視 対象ディスクの電源がON になっているか、あるいは 監視対象ディスクにその 他の異常が発生していな いか確認してください。
diskw	エラー	42	Parameter was invalid. File=%1	指定されたファイル名が 不正です。	/devで始まるデバイスファ イルは指定しないでくださ い。通常のファイルを指定 してください。
diskw	エラー	47	Device was invalid. Device=%1	指定された実デバイスが 不正です。	Builder でディスクモニタ リソースのデバイス名を確 認してください。
diskw	エラー	49	Already bound for other. Rawdevice=%1 Device=%2	RAWデバイスは既に他の 実デバイスにバインドされ ています。	設定したRAWデバイスは 既に他の実デバイスにバ インドされています。 Builder でRAWデバイス 名を変更してください

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	50	Popen was failed. (err=%1)	popenに失敗しました。	popenに失敗しました。メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	エラー	51	Bind was failed. Rawdevice=%1 Device=%2	バインドに失敗しました。	バインドに失敗しました。BuilderでRAWデバイス名を確認してください。
diskw	エラー	52	Stat was failed. (err=%1) Device=%2	statに失敗しました。	statに失敗しました。Builder でデバイス名を確認してください。

## PIDモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
pidw	エラー	1	Resource %1 was not found.	リソースが見つかりませんでした。	Builder で構成情報を確認してください。
pidw	エラー	1	Process does not exist. (pid=%1)	プロセスが存在しません。	監視対象プロセスが何らかの原因により消滅しました。確認してください。
pidw	エラー	1	Internal error. (status=%1)	その他内部エラーが発生しました。	メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。

## ユーザ空間モニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
userw	エラー	1	Initialize error. (%1)	プロセスの初期化中に異常を検出しました。	ユーザ空間モニタリソースが依存するドライバが存在するか、またはrpmがインストールされているかどうか確認してください。依存するドライバまたはrpmは監視方法によって異なります。

## カスタムモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
genw	エラー	1	Initialize error. (status=%d)	初期化中に異常を検出しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
genw	エラー	2	Termination code %d was returned.	意図しない戻り値が返されました。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
genw	エラー	3	User was not superuser.	rootユーザではありません。	rootユーザでログインしてください。
genw	エラー	4	Getting of config was failed.	クラスタ構成情報の取得に失敗しました。	クラスタ構成情報が存在するか確認してください。
genw	エラー	5	Parameter was invalid.	パラメータが不正です。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
genw	エラー	6	Option was invalid.	パラメータが不正です。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
genw	エラー	7	Monitor Resource %s was not found.	リソースが見つかりませんでした。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
genw	エラー	8	Create process failed.	プロセスの生成に失敗しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
genw	エラー	9	Process does not exist. (pid=%d)	プロセスが存在していませんでした。	プロセスの有無を確認してください。
genw	エラー	10	Process aborted. (pid=%d)	プロセスが存在していませんでした。	プロセスの有無を確認してください。
genw	エラー	11	Asynchronous process does not exist. (pid=%d)	プロセスが存在していませんでした。	プロセスの有無を確認してください。
genw	エラー	12	Asynchronous process aborted. (pid=%d)	プロセスが存在していませんでした。	プロセスの有無を確認してください。
genw	エラー	13	Monitor path was invalid.	パスが不正です。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
genw	エラー	その他	Internal error. (status=%d)	その他内部エラーが発生しました。	-

## マルチターゲットモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
mtw	エラー	1	Option was invalid.	パラメータが不正です。	クラスタ構成情報が正しいか確認してください。
mtw	エラー	2	User was not superuser.	rootユーザではありません。	rootユーザでログインしてください。
mtw	エラー	3	Internal error. (status=%d)	その他内部エラーが発生しました。	-

## NIC Link Up/Downモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
miiw	エラー	1	Option was invalid.	オプションが不正です。	Builder で構成情報を確認してください。
miiw	エラー	4	Config was invalid. (err=%1) %2	構成情報が不正です。	Builder で構成情報を確認してください。
miiw	エラー	10	Get address information was failed. (err=%1)	IPv4または、IPv6アドレス ファミリーのソケットアドレ スの取得に失敗しました。	カーネルのコンフィグレー ションがTCP/IPネットワー キング(IPv4または、IPv6) をサポートしているか確認 してください。
miiw	エラー	11	Socket creation was failed. (err=%1)	ソケットの作成に失敗しま した。	メモリ不足またはOSのリ ソース不足が考えられま す。確認してください。
miiw	エラー	12	ioctl was failed. (err=%1) Device=%2 Request=%3	ネットワークドライバへの 制御リクエストが失敗しま した。	ネットワークドライバ が %3 の制御リクエスト をサポートしているか確認 してください。
miiw	エラー	13	MII was not supported or no such device. Device=%1	NICにMIIがサポートされ ていないかあるいは、監 視対象が存在しません。	監視対象が存在しない場 合は、ifconfig等でネット ワークインターフェイス名 を確認してください。
miiw	エラー	20	NIC %1 link was down.	NICのLinkがDownしまし た。	LANケーブルが正し接続 されているか確認してくだ さい。
miiw	エラー	98	Internal error. (status=%d)	その他内部エラーが発生 しました。	-

## 仮想マシンモニタリソース

モジュール タイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
vmw	エラー	1	initialize error occured.	初期化中に異常を検出し ました。	メモリ不足またはOSのリ ソース不足、仮想化環境 の問題が考えられます。 確認してください。
vmw	エラー	11	monitor success, virtual machine is not running.	仮想マシンの停止を検出 しました。	仮想マシンの状態を確認 してください。
vmw	エラー	12	failed to get virtual machine status.	仮想マシンの状態の取得 に失敗しました。	仮想マシンが存在してい るか確認してください。
vmw	エラー	13	timeout occured.	監視はタイムアウトしまし た。	OSが高負荷状態の可能 性があります。確認してく ださい。

## 監視オプションモニタリソース

監視オプションモニタリソースは共通のメッセージを使用します。モジュールタイプは監視オプションモニタリソースごとに異なります。

監視オプションモニタリソース	モジュールタイプ
DB2モニタリソース	db2w
FTPモニタリソース	ftpw
HTTPモニタリソース	httpw
IMAP4モニタリソース	imap4w
MySQLモニタリソース	mysqlw
NFSモニタリソース	nfs
Oracleモニタリソース	oraclew
OracleASモニタリソース	oracleasw
POP3モニタリソース	pop3w
PostgreSQLモニタリソース	psqlw
Sambaモニタリソース	sambaw
SMTPモニタリソース	smtpw
Sybaseモニタリソース	sybasew
Tuxedoモニタリソース	tuxw
Weblogicモニタリソース	wls
Websphereモニタリソース	was
WebOTXモニタリソース	otx

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
(別表)	エラー	1	Init error. [%1, ret=%2]	初期化中に異常を検出しました。 %1 には license, library, XML, share memory, log の一つが入ります。	OSが高負荷状態の可能性あります。確認してください。
(別表)	エラー	2	Get config information error. [ret=%1]	設定情報の取得に失敗しました。	Builder で構成情報を確認してください。
(別表)	エラー	3	Invalid parameter.	Configファイル/Policyファイルの設定情報が不正です。 コマンドのパラメータが不正です。	Builder で構成情報を確認してください。



(別表)	エラー	4	Detected function exception. [%1, ret=%2]	異常を検出しました。 %1には監視対象が入ります。	Builder で構成情報を確認してください。  OSが高負荷状態の可能性があります。確認してください。
(別表)	エラー	5	Failed to connect to %1 server. [ret=%2]	監視対象への接続に失敗しました。 %1には、アプリケーション名が入ります。	監視対象の状態を確認してください。
(別表)	エラー	6	Detected authority error.	ユーザ認証が失敗しました。	ユーザ名・パスワード・アクセス権を確認してください。
(別表)	エラー	7	Failed to execute SQL statement (%1). [ret=%2]	SQL文の実行に失敗しました。 %1には、監視対象が入ります。	Builder で構成情報を確認してください。
(別表)	エラー	8	Failed to access with %1.	監視対象とのデータアクセスが失敗しました。 %1には、監視対象が入ります。	監視対象の状態を確認してください。
(別表)	エラー	9	Detected error in %1.	監視対象が異常です。 %1には、監視対象が入ります。	監視対象の状態を確認してください。
(別表)	エラー	10	User was not superuser.	ユーザはRoot権限を持っていません。	実行ユーザが root権限を持っているか或いは、メモリ不足または、OSのリソース不足が考えられます。確認してください。
(別表)	エラー	11	Detected timeout error.	監視対象と通信タイムアウトになりました。	OSが高負荷状態の可能性があります。確認してください。
(別表)	エラー	12	Can not found library. (libpath=%1, errno=%2)	指定した場所からライブラリをロードすることができませんでした。 %1にはライブラリのパスが入ります。	ライブラリの場所を確認してください。
(別表)	エラー	40	The license is not registered.	ライセンスが登録されていません。	正しいライセンスが登録されているか確認してください。
(別表)	エラー	41	The registration license overlaps.	登録したライセンスが重複しています。	正しいライセンスが登録されているか確認してください。
(別表)	エラー	42	The license is invalid.	ライセンスが不正です。	正しいライセンスが登録されているか確認してください。

## 第 4 章 エラーメッセージ一覧

(別表)	エラー	43	The license of trial expired by %1.	試用版ライセンスの試用期限が切れています。 %1には使用期限が入ります。	-
(別表)	エラー	44	The license of trial effective from %1.	試用版ライセンスの試用開始期限になっていません。 %1には使用期限が入ります。	-
(別表)	エラー	99	Internal error. (status=%1)	内部エラーを検出しました。	-

# 付録

- 付録 A 索引



# 付録 A 索引

## B

BMC情報を変更, 107  
Builder, 117

## C

CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンド, ix, 24, 45, 47  
CLUSTERPROデーモンを操作, 47, 52  
CPUクロックを制御, 101

## E

EXECリソース, 159

## I

ipmiのメッセージ, 114  
IPモニタリソース, 161

## N

NIC Link Up/Downモニタリソース, 167

## P

PIDモニタリソース, 165

## S

syslogの世代, 63  
syslogメッセージ, 120

## W

WebManager, 18, 116  
WebManager の起動, 17, 18, 19  
WebManager を手動で停止/開始, 17, 38  
WebManager を利用したくない場合, 39

## あ

アラートの検索, 21, 22, 36  
アラートビューの各フィールド, 36  
アラートビューの操作, 37  
アラートメール通報メッセージ, 120  
アラートを確認, 17, 21, 22, 36

## い

異常発生時の情報採取, 64

## か

カーネルモードLANハートビートドライバ, 155  
外部監視連動処理要求コマンド, 104  
回復動作中の操作制限, 114  
各オブジェクトの状態を確認, 17, 21, 28  
仮想マシングループのオブジェクト, 31  
仮想マシンモニタリソース, 167  
仮想マシンリソース, 160  
活性時監視設定のモニタリソース, 116  
画面レイアウトを変更, 21, 26  
監視オプションモニタリソース, 168  
監視リソースを制御, 47, 93

## き

キーブアライブドライバ, 158  
緊急OSシャットダウン時の情報採取, 65

## く

クラスタ間処理要求コマンド, 102  
クラスタサービスの操作, 27  
グループリソースオブジェクト, 31  
グループリソース活性/非活性時の詳細情報, 159  
グループリソースを制御, 47, 98  
グループを操作, 47, 55

## け

権限切替え, 43

## こ

構成情報の反映, 47, 66  
構成情報バックアップ, 47, 66  
構成情報をバックアップ, 73  
コマンド, 47, 48  
コマンドラインから操作, 47, 48

## さ

サーバ全体の詳細情報をリスト表示, 34  
サーバ全体の状態を確認, 34  
サーバをシャットダウン, 47, 54  
サービス起動/停止用スクリプト, 115  
再起動回数を制御, 109

## し

実行形式ファイル, 114  
実行できる操作, 28  
使用制限の種類, 39

状態を確認, 17, 21, 34  
状態を表示, 47, 50  
情報を最新に更新, 21, 26

## す

スクリプトファイル, 114, 116

## せ

接続制限, 17, 39

## そ

操作制限, 17, 39  
ソフトRAIDモニタリソース, 161

## た

タイプを指定したログの収集, 60  
タイムアウトを一時調整コマンド, 77

## つ

ツリービュー, 17, 21, 28

## て

ディスクモニタリソース, 162

## と

動作モード, 20, 21  
特定サーバのオブジェクト, 29  
特定サーバの状態を確認, 34

ドライバsyslogメッセージ, 119, 155  
ドライバロード時のメッセージ, 114

## ね

ネットワーク警告灯を消灯する, 100

## め

メイン画面, 20  
メッセージを出力, 90

## も

モニタ全体の状態を確認, 35  
モニタリソースオブジェクト, 32

## ゆ

ユーザ空間モニタリソース, 165, 166

## ら

ライセンスを管理, 86

## り

リストビュー, 17, 21, 34

## ろ

ログ収集時のメッセージ, 114  
ログファイルの出力先, 63  
ログレベル/サイズを変更コマンド, 79  
ログを収集, 21, 23, 24, 47, 57